

大臣之ニ博士ノ學位ヲ授ク

第三條 文部大臣ニ於テ大學院ニ入り定規ノ試験ヲ經タル者ト同等以上ノ學力アリト思慮スル者アルトキハ帝國大學評議會ノ議ニ付シ評議官總數三分ノ二以上之ヲ是認スルニ於テハ文部大臣之ニ博士ノ學位ヲ授ク

第四條 博士ノ學位ヲ得ント欲スル者ハ文部大臣ニ申請スルコトヲ得但申請スル者ハ其履歷書及其專攻セル學科ノ範圍内ニ屬スル自著ノ論文一編ヲ差出スヘシ

第五條 帝國大學評議會ハ第三條ノ場合ニ於テ必要ト認ムルトキハ試験ヲ行フコトヲ得但試験ヲ受クルト否トハ本人ノ隨意トス

第六條 文部大臣ニ於テ學問上特ニ功績アリト思慮スル者アルトキハ博士ノ會議ニ付シ出席博士三分ノ二以上之ヲ是認スルニ於テハ文部大臣之ヲ閣議ニ提出シ其認可ヲ得テ大博士ノ學位ヲ授ク

第七條 博士ノ會議ハ文部大臣指命スル所ノ委員之ヲ整理ス又博士二十名以上出席スルニアラサレハ之ヲ開カサルモノトス

第八條 博士ノ會議ヲ開クトキハ五週日前ニ官報ヲ以テ開會ノ場所及時日ヲ廣告ス

第九條 第五條ノ試験ニ關スル規則ハ帝國大學總長之ヲ定ム

第十條 學位記ノ様式左ノ如シ

學位令第三條前段ニ該當スル者ノ學位記ニハ紅色輪廓ヲ付シ同後段ニ該當スル者ノ學位記ニハ綠色輪廓ヲ付ス

學位記

族籍位勳爵

姓名

明治二十年勅令第十三號學位令第三條ニ依リ茲ニ何學博士ノ學位ヲ授ク

文部大臣位勳爵姓名印

省 年月日 印

割印 番號

黑色輪廓ヲ付ス

學位記

族籍位勳爵

姓名

明治二十年勅令第十三號學位令第四條ニ依
リ茲ニ大博士ノ學位ヲ授ク

年 月 日
省 印

文部大臣位勳爵姓名印

割印
番號

第五十七 師範學校令中改正 二十年七月七日布告 勅令第三十號

朕師範學校令中追加ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十年七月六日

内閣總理大臣伯爵伊藤博文
文部大臣子爵森 有禮

勅令第三十號

明治十九年四月勅令第十三號師範學校令第四條ニ左ノ但書ヲ追加ス

但尋常師範學校附屬小學校ノ經費簡易科ニ係ルモノヲ除クハ授業料ヲ以テ支辨スヘシ授業料ノミヲ以テ支辨シ能ハサル場合ニ於テハ其不足額ハ訓導俸給ヲ除クノ外尋常師範學校經費ヨリ支辨スヘシ

高等師範學校生徒募集規則 十九年十月十四日 文部省令第十八號

勅令第十三號師範學校令第八條ニ基キ高等師範學校生徒募集規則ヲ定ムルコト左ノ如シ

高等師範學校生徒募集規則

第一條 高等師範學校男女生徒ハ府縣知事之ヲ選舉シ高等師範學校長其中ニ就キ選抜スルモノトス

第二條 高等師範學校ノ男生徒ハ尋常師範學校ヲ卒業シタルモノヨリ選舉シ女生徒ハ尋常師範學校ノ二箇年ノ課程ヲ終リタルモノ若クハ之ニ均シキ學力並資格ヲ有スルモノヨリ選舉スヘシ

第三條 高等師範學校ノ男女生徒ハ毎年一度之ヲ募集シ其期日及員數ハ其都度高等師範學校ヨリ府縣ニ通知スヘシ

第四條 新募生徒ハ初メ試驗生トシテ三箇月以内假ニ入學セシメ其資性品行等ヲ審察シ適當ト認ムルモノニ限リ本入學ヲ許スヘシ

尋常師範學校尋常中學校及高等女學校教員免許規則ヲ定ム 十九年十月二十日

文部省令第二十一號

尋常師範學校尋常中學校及高等女學校教員免許規則ヲ定ムルコト左ノ如シ

尋常師範學校尋常中學校及高等女學校教員免許規則

第一條 尋常師範學校尋常中學校及高等女學校教員免許狀ハ高等師範學校卒業生及丁年以上ニシテ文部省ノ檢定ヲ經タルモノニ之ヲ授與スルモノトス

第二條 高等師範學校ノ男子師範學科卒業生ニハ尋常師範學校尋常中學校及高等女學校ノ教員免許狀ヲ授與シ女子師範學科卒業生ニハ尋常師範學校女子部及高等女學校ノ教員免許狀ヲ授與シ體操專修科卒業生ニハ體操ノ教員免許狀ヲ授與ス

第三條 高等師範學校ノ卒業生ニアラスシテ其學科ノ教員免許狀ヲ得ント欲スルモノハ文部省ノ檢定ヲ受クヘシ

第四條 檢定ハ毎年一回文部大臣檢定委員ヲシテ之ヲ施行セシム

第五條 檢定ノ要目左ノ如シ

- 一 學力
- 一 品行
- 一 身體

第六條 學力ノ檢定ハ試驗ニ依ル

但内外國高等學校卒業生等ハ檢定委員ニ於テ教員タルニ適スヘキ學力アリト認ムルモノニ限り特ニ本文ノ例ニ依ラサルコトアルヘシ

第七條 試驗ハ尋常師範學校尋常中學校及高等女學校ノ學科中受檢者志願ノ學科ニ就テ之ヲ施行シ該學科教員タルニ適スルヤ否ヲ判ス

第八條 身體ノ檢定ハ檢査ニ依ル

第九條 檢定ヲ受ケント欲スルモノハ族籍姓名宿所生年月及志願ノ學科ヲ記シタル願書ニ左ノ書面ヲ添ヘ文部省宛地方廳ニ差出スヘシ北海道廳長官府縣知事ハ本人ノ品行ニ付意見ヲ付記シテ文部大臣ニ差出スヘシ

- 一 學業業務賞罰等ノ履歷ニ係ル書面
- 一 學業證書免狀ノ寫

第十條 檢定ヲ受ケント欲スルモノハ檢定料金貳圓ヲ納ムヘシ

但檢定料ハ願書ト共ニ地方廳ニ差出スヘシ

其既ニ差出シタル檢定料ハ願下ヲナシ若クハ試驗ニ應セサルトキト雖モ之ヲ還付セサルモノトス 二十年十月二十七日文部省令第十二號ヲ以テ本項ヲ追加ス

第十一條 免許狀ハ分チテ一等二等三等トシ初メテ授與スル免許狀ハ三等トス又第六條但書ニ依リ授與スル免許狀ハ無等トス其既ニ得タル免許狀ヨリ高等ノモノヲ得ント欲スルモノ及無等免許狀ヲ有スルモノニシテ相當ノ有等免許狀ヲ得ント欲スルモノハ更ニ檢定ヲ受クヘシ

但一等免許狀ハ二等免許狀ヲ有シ五箇年以上二等免許狀ハ三等免許狀ヲ有シ二箇年

以上教職ニ從事シ其性格能幹超衆ノモノニ限り授與スルモノトス
第十二條 免許狀ヲ受ケルモノハ高等師範學校卒業生ヲ除クノ外免許料金壹圓ヲ納ムヘシ

第十三條 免許狀ヲ毀損亡失シ若クハ姓名ヲ變更シタルカ爲メ其書換ヲ請フモノハ書換料金壹圓ヲ納ムヘシ

第十四條 左ノ一項若クハ數項ニ觸ルモノニハ免許狀ヲ授與セス又既ニ授與シタルモノト雖モ之ヲ沒收ス

但特別ノ事情アルモノハ本文ノ例ニ依ラサルコトアルヘシ

一新法ニ依リ輕重禁錮以上ノ刑ニ處セラレ若クハ信用又ハ風俗ヲ害スル罪ヲ犯シテ罰金ノ刑ニ處セラレ若クハ監視ニ付セラレタルモノ

但信用又ハ風俗ヲ害スル罪ニアラサルモノヲ犯シ罰金ヲ納ムルコト能ハスシテ輕禁錮ノ刑ヲ受ケタルモノハ此限りニアラス

一賭博犯處分規則ニ依リ懲罰ニ處セラレタルモノ

一身代限ノ處分ヲ受ケ未タ辨償ノ義務ヲ終ヘサルモノ

一荒酷暴激等總テ教員タルノ面目ニ關スル所行アルモノ

一舊法ニ依リ懲役若クハ禁獄若クハ鎖錮ノ刑ニ處セラレタルモノ

但贖金罰金ヲ納ムルコト能ハスシテ本文ノ刑ヲ受ケタルモノハ此限りニアラス

一前項ノ刑ニ處セラレ存留養親老小癡疾婦女等ノ故ヲ以テ收賄ヲ聽サレタルモノ
第十五條 前條ノ處分ヲ要スルモノアルトキハ北海道廳長官府縣知事ヨリ文部大臣ニ具申スヘシ

免許狀樣式

何等免許狀(第六條但書ニ依リ授與スルモノハ等ヲ付セス)

族籍

姓名

生年月

右何學校(何科)教員タルコトヲ免許ス

文部
年月日
省印

文部大臣位勳爵姓名印

副印
番號

輪廓ハ高等師範學校卒業生ニ授與スルモノハ紅色トシ第六條ニ依リ授與スルモノハ綠色トシ第六條但書ニ依リ授與スルモノハ藍色トス

第五十八 高等中學校經費支辨方ヲ頒布ス 二十年八月二日布告 勅令第四十號

朕高等中學校經費支辨ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十年八月一日

内閣總理大臣 伯耆伊藤博文
内務大臣 伯耆山縣有朋
文部大臣 子爵森 有禮

勅令第四十號

中學校令第五條ニ依リ高等中學校ノ經費ヲ國庫金ト地方稅トヲ以テ支辨スル場合ニ於テハ該學校設置區域内ニ在ル府縣地方稅ノ負擔總額ハ當分ノ内文部大臣之ヲ定メ各府縣分擔額ハ府縣知事協議ノ上之ヲ查定シ府縣常置委員ノ互選ヲ以テ各委員三名ヲ出シテ之ヲ議定シ其徵收方法ハ各府縣會ニ於テ議定ス可シ但地方稅ノ負擔額ハ該學校經費總額ノ二分一ヲ超過スルコトヲ得ス

○高等中學校設置區域ヲ定ム 十九年十一月三十日 文部省告示第三號

勅令第十五號中學校令第四條ニ基キ高等中學校ノ設置區域ヲ定ムルコト左ノ如シ

高等中學校ノ設置區域

第一條 高等中學校ノ設置區域左ノ如シ

第一區 東京府	神奈川縣	埼玉縣	千葉縣	茨城縣	群馬縣	栃木縣	愛知縣	靜岡縣
第二區 宮城縣	福島縣	岩手縣	青森縣	山形縣	秋田縣			
第三區 京都府	大阪府	兵庫縣	三重縣	滋賀縣	岐阜縣	鳥取縣	島根縣	岡山縣
第四區 廣島縣	山口縣	和歌山縣	德島縣	愛媛縣	高知縣			
第五區 新潟縣	福井縣	石川縣	富山縣					
第六區 長崎縣	福岡縣	大分縣	佐賀縣	熊本縣	宮崎縣	鹿兒島縣		

第二條 高等中學校ノ位置第一區ハ東京第三區ハ京都第四區ハ金澤トシ第二區第五區ハ追テ之ヲ定ム

○高等中學校ノ位置ヲ定ム 十九年十二月九日 文部省告示第四號

文部省告示第三號高等中學校ノ設置區域第二條高等中學校ノ位置第二區ハ仙臺トス

○第五區高等中學校ノ位置ヲ熊本ト爲ス 二十年四月十五日 文部省告示第二號

明治十九年十一月 文部省告示第三號高等中學校ノ設置區域第二條高等中學校ノ位置第五區ハ熊本トス

○仙臺及金澤高等中學校名稱二十年四月十八日 文部省告示第三號

今般高等中學校設置區域第二區内仙臺及第四區内金澤ニ高等中學校ヲ設置シ仙臺ニ設置スルモノヲ第二高等中學校ト稱シ金澤ニ設置スルモノヲ第四高等中學校ト稱ス

○高等中學校設置區域第五區内熊本ニ高等中學校設置 二十年五月三十日 文部省告示第五號

今般高等中學校設置區域第五區内熊本ニ高等中學校ヲ設置シ第五高等中學校ト稱ス

○高等中學校令中醫學ヲ教授スル處ヲ醫學部トシ醫學部設置ノ位置ヲ定ム 二十年八月十九日 文部省告示第六號

明治十九年四月勅令第十五號中學校令第三條高等中學校ノ醫科ヲ教授スル所ヲ醫學部トシ第一ヨリ第五ニ至ル各高等中學校ニ之ヲ設ク第二高等中學校醫學部ハ仙臺ニ第三高等中學校醫學部ハ岡山ニ第四高等中學校醫學部ハ金澤ニ置キ第一第五高等中學校醫學部ノ位置ハ追テ之ヲ定ム

第五十九 教科用圖書檢定條例ヲ廢シ師範學校小學校及中學校教科用

圖書檢査規則ヲ定ム 二十年五月七日 文部省令第二號

明治十九年五月^五 文部省令第七號教科用圖書檢定條例ヲ廢シ師範學校小學校及中學校教科用圖書ノ檢定ニ關スル規則ヲ定ムルコト左ノ如シ

教科用圖書檢定規則

- 第一條 教科用圖書ノ檢定ハ止マ圖書ノ教科用タルニ弊害ナキコトヲ證明スルヲ旨トシ其教科用上ノ優劣ヲ問ハサルモノトス
- 第二條 圖書ノ出版者ハ該圖書ノ檢定ヲ文部省ニ請フコトヲ得
- 第三條 第二條ニ依リ檢定ヲ請フ者ハ圖書一種ニ付其目的トスル所ノ學校一種毎ニ該圖書二十部ノ定價ニ等シキ手数料及該圖書二部ヲ檢定願書ニ添ヘ地方廳ヲ經テ文部省ニ納ムヘシ但定價ヲ記載セサル圖書ニ就テハ手数料金十五圓ヲ納ムヘク又檢定ヲ得タル後定價ヲ増加シタルトキハ本文ノ例ニ準シ其差額ヲ追納スヘシ
- 第四條 第二條ニ依リ檢定ヲ請ヒタル圖書中瑣少ノ修正ヲ加フレハ檢定ヲ與フルコトヲ得

ヘシト認ムルモノアルトキハ其廉ヲ檢定出願者ニ指示スルコトアルヘシ

第五條 檢定シタル圖書ハ文部省ヨリ官報ヲ以テ其名稱、冊數、定價、目的トスル學校並學科ノ種類、版權免許又ハ出版届ノ年月日並該圖書ニ記載スル所ノ著譯者及出版者ノ族籍住所姓名等ヲ廣告スヘシ

第六條 檢定ノ効力ハ檢定ヲ得タル後修正ヲ加ヘタル圖書ニ及ハサルモノトス

第七條 第五條ニ依リ廣告シタル定價、版權免許又ハ出版届ノ年月日並著譯者及出版者ノ族籍住所姓名等ニ異動ヲ生シ圖書中其記載方ヲ變更シタルトキ又ハ同條ニ依リ廣告シタル冊數ヲ變更シタルトキハ更ニ官報ヲ以テ其旨ヲ廣告スルニアラサレハ檢定ノ効力該圖書ニ及ハサルモノトス

第八條 檢定ヲ得サリシ圖書ノ出版者ノ願ニ依リテハ其圖書ノ檢定ヲ得サリシ事由ノ大要ヲ指示スルコトアルヘシ

第九條 檢定出願中ノ圖書若クハ檢定ヲ得タル圖書ニ修正ヲ加ヘ檢定ヲ請フ者ハ更ニ第三條ノ手数料ヲ納ムルコトヲ要セス

第十條 圖書ノ出版者ハ其檢定ヲ得タル圖書ニシテ第七條ノ變更アルニ會スルトキハ其事項ノ廣告ヲ文部省ニ請フヘシ

第十一條 檢定ヲ請ヒタル後其願下ヲナストキト雖モ其既ニ納メタル手数料ハ之ヲ還付セサルモノトス

第十二條 本規則ニ於テ修正ト稱スルハ圖書ノ名稱ヲ變更シ文章字句圖書ヲ增減若クハ校訂シ又ハ字體書形ヲ變更シ又ハ註解附録序跋ヲ加除若クハ變更スル等ノ場合ヲ包含スルモノトス

○教科用圖書檢定條例ニ依リ檢定シタル圖書ノ効力 二十年五月七日 文部省令第三號

明治十九年五月 文部省令第七號教科用圖書檢定條例ニ依リ檢定ヲ得タル教科用圖書ハ本年五月 文部省令第二號教科用圖書檢定規則ニ依リ檢定シタルモノト同一ノ効ヲ有スルモノトス

○公私立小學校教科用圖書採定方法 二十年三月二十五日 文部省訓令第三號 北海道廳府縣 公私立小學校教科用圖書採定ノ方法左ノ通心得ヘシ

公私立小學校教科用圖書採定方法

- 第一條 北海道廳長官府縣知事ハ公私立小學校ノ教科用圖書ヲ新定又ハ更定セントスルトキハ其都度小學校教科用圖書審查委員ヲ設ケテ其事由ノ當否實施ノ時期等ヲ審議セシメ併セテ圖書ヲ採擇セシムヘシ
- 第二條 審查委員ハ左ノ諸員ヲ以テ組織スヘシ
 - 一 尋常師範學校校長若クハ長補
 - 二 學務課員一名
 - 三 尋常師範學校教頭及附屬小學校上席訓導
 - 四 小學校教員三名
 - 五 該地方經濟上ノ情況ニ通スル者二名
- 第三條 北海道廳長官府縣知事ハ審查ニ係ル圖書ニ掲載スル所ノ事物ニ通スル教員等ヲシテ該圖書ノ採擇上ニ限リ審

查委員ト同一ノ資格ヲ以テ便宜之ニ參與セシムヘシ但一種類ノ圖書ニ付一名ニ限ルヘシ

第四條 審查委員ニ於テ審查上ニ關スル事項ヲ決定スルハ會議ニ依ルヘキモノトス

第五條 北海道廳長官府縣知事ハ審查委員中ニ就キ審查委員會議ノ議長ヲ命スヘシ

第六條 審查委員ハ自己及其親屬並其地方廳學務課員ノ著撰譯述編纂校閱及出版等ニ係ル圖書ヲ採擇スルコトヲ得サルモノトス但已ムヲ得サル場合ニ於テハ北海道廳長官府縣知事ニ其事情ヲ詳具シ認可ヲ經テ本文ノ例ニ依ラサルコトヲ得

第七條 審查委員ハ未ク文部大臣ノ檢定ヲ經ケル圖書ト雖モ之ヲ採擇スルコトヲ得

但北海道廳長官府縣知事ハ本文ニ依リ採擇シタル圖書ヲ新定又ハ更定ノ圖書ニ充ントスルトキハ豫メ文部大臣ノ檢定ヲ經ヘシ

第八條 審查委員ニ於テ審查ヲ終ルトキハ其意見及會議ノ頭末ヲ具シ北海道廳長官府縣知事ニ申報スヘシ

第九條 北海道廳長官府縣知事ニ於テ教科用圖書ヲ新定又ハ更定スルニハ一學科ニ就キ數種ノ圖書ヲ取ルモ若クハ一種ノ圖書ニ限ルモ妨ケナシ

第十條 北海道廳長官府縣知事ハ教科用圖書ノ新定又ハ更定ヲ公布スルニ箇月前ニ於テ其事由實施ノ時期圖書ノ目錄及第八條審查委員ノ申報又第六條但書ノ場合ニ屬スル處分アルトキハ其事情ヲ具シ文部大臣ニ報告スヘシ

○尋常師範學校教科用圖書 二十年三月二十五日 文部省訓令第四號 北海道廳府縣 尋常師範學校教科用圖書ノ儀ハ該學校教員ノ會議ニ付シ取調ノ上交部大臣ノ裁定ヲ經ヘシ

○教科用圖書檢定願書樣式 二十年五月七日 文部省告示第四號 本年五月 文部省令第二號教科用圖書檢定規則第二條ニ依リ教科用圖書ノ檢定ヲ請フ者ハ該圖書一種毎ニ左式ノ檢定願書ヲ差出スヘシ

檢定願書樣式

用紙ハ半紙トス

教科用圖書檢定願
左記ノ圖書御檢定被成下度該圖書……部及手数料金……相添へ此段相願
候也

圖書ノ名稱	冊ノ記號	著譯者ノ族	出版者ノ族	版權免許又	目的トスル
	頁數	籍姓名	籍住所姓名	ハ出版届ノ	學校並
				年月日	學科
					種類

道
何府何郡何町何番地居住(寄留)
縣

道
何府何族(平民)
縣

年月日
文部大臣爵姓名殿
姓名 印

記載方心得

圖書ノ名稱 改正増補等ニ係ルモノハ其旨ヲ記スヘシ
卷冊ノ記號頁數 一卷ニ卷前編後編上中下或ハ一號二號三號等ノ別ヲ掲ケ冊數若クハ軸數等ノ總計ヲ記スヘシ
著譯者ノ族籍姓名 姓名ノ下ニ著述翻譯編纂等ノ別ヲ記スヘシ
出版者ノ族籍住所姓名 分版ニ係ルモノハ原出版者ノ族籍住所姓名ト分版者ノ族籍住所姓名トヲ並記シ無版權圖書ノ翻

刻ニ係ルモノハ原出版者ノ族籍住所姓名ト翻刊者ノ族籍住所姓名トヲ並記スヘシ

版權免許又ハ出版届ノ年月日 改版ニ係ルモノハ改版ノ年月日ヲ記シ分版ニ係ルモノハ原版ノ年月日ト分版ノ年月日トヲ並記シ無版權圖書ノ翻刊ニ係ルモノハ原版ノ年月日ト翻刊ノ年月日トヲ並記スヘシ

○小學校教科用圖書課用方二十年九月十二日
文部省訓令第十一號北海道廳府縣
本年三月文部省訓令第三號公立小學校教科用圖書採定方法ニ依リ新定若クハ更定シタル圖書ハ四箇年ヲ經ルニアラサ
レハ之ヲ變換スヘカラス又該圖書ハ之ヲ課スヘキ最下ノ學級ヨリ用ヒシメ其他ノ學級ニハ從來ノ教科用圖書ヲ變用セ
シメ漸次各學級ヲシテ新舊交換セシムヘシ
但本文ニ依リ難キ特別ノ事情アルニ於テハ文部大臣ニ稟申スヘシ

第十四類 勸業

第六十 內國勸業博覽會開設ノ期ヲ定ム 二十年一月二十日(同月二十一日布告) 閣令第一號

明治十六年七月 太政官第二十六號布達ニ依リ明治二十二年ニ於テ開設ス可キ第三回內國勸業博覽會ヲ延期シ明治二十三年四月一日ヨリ七月三十一日マテ東京上野公園内ニ開設ス但該會ニ關スル諸規則ハ農商務大臣之ヲ定ム

○勸業會規則中ヲ更正ス 十九年十二月十二日 農商務省訓令第二十號北海道廳府縣
明治十六年七月 當省第八號達中第十一項第一及ヒ第十四項第二左ノ通更正ス
第十一 勸業委員ノ撰舉

第十四類 勸業

勸業委員ハ毎郡區役所管轄部内ニ四名以内トス但一部内四名ヲ以テ積算シ其總人員内ニ於テ甲乙部互ニ其人員ヲ増減スルハ妨ナシ

第十四 勸業委員費

勸業委員二月手當金ヲ給スヘキ必要アルトキハ之ヲ區町村費ヨリ支辨シ或ハ府縣會ノ決議ヲ經テ全部若クハ其幾分ヲ地方税中勸業費ヨリ支出スルコトヲ得其月手當額ハ一名金五圓以内トス但第十一項第一ノ總人員ニ對シ一名金五圓ヲ以テ積算シ其金額内ニ於テ互ニ増減支給スルハ妨ナシ
勸業上ニ關シ勸業委員ヲ北海道廳府縣廳ヘ招換スヘキ費用アルトキハ其旅費日當ハ地方税中勸業費ヨリ支給スヘシ

第六十一 蠶種検査規則

伺指令

蠶種検査規則ノ件ニ付富山縣ヨリ農商務省ヘ伺 十九年十一月五日(同十一月二十二日官報)

去八月十七日付省令第九號 蠶種検査規則第八條ニ釋種ニハ云々原絲ト製種用種トニ區別シテ検査所ニ差出スヘシ又第十條ニ廢棄證印アル蠶種ハ販賣又ハ飼育スルコトヲ得ストアリ故ニ原種ハ原種検査手續ニ據リ検査シ不合格ノモノニハ廢棄ノ證印ヲ押捺スヘキ儀ニ候ヘハ原種トシテ販賣又ハ飼養スルコトヲ得サルハ勿論ナレモ右條原種ニ不合格ノモノナルモ更ニ製絲用種ノ検査ヲ受ケ合格ノモノハ製絲用種検査證印ヲ押捺スルモ實際取テ差支無之儀ト思考候就テハ原種ニシテ不合格ノモノモ受檢者ノ志願ニヨリ更ニ製絲用種ノ検査ヲナスハ差支無之哉
指令 十九年十一月十八日
伺ノ通

第六十二 鳥獸獵

臘虎并臘肭獸獵獲及其生皮輸入販賣規則ヲ定ム 十九年十二月十七日布告

勅令第八十號

朕臘虎并臘肭獸獵獲及其生皮輸入販賣規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治十九年十二月十六日

内閣總理大臣伯爵伊藤博文
内務大臣伯爵山縣有朋
大藏大臣伯爵松方正義
農商務大臣伯爵山縣有朋

勅令第八十號

臘虎并臘肭獸獵獲及其生皮輸入販賣規則

第一條 明治十七年第十六號布告但書ニ據リ農商務大臣ノ特許ヲ得タル者ハ北海道廳ノ定メタル獵獲期限獵獲區域内ニ於テ臘虎并臘肭獸ノ獵獲ニ從事スヘシ
但獵獲ニ從事スルトキハ常ニ其特許狀ヲ携帯シ海陸何レノ場合ヲ問ハス獵獲監視官吏又ハ警察官吏ニ於テ檢閲センコトヲ求ムルトキハ直ニ之ヲ示スヘシ

第二條 臘虎并ニ臘納獸ノ獵獲ニ從事スル者北海道ニ至リタルトキハ獵船ノ名、噸數乘組人名ヲ北海道廳指定ノ出張所ニ届出該道廳ニ於テ獵獲船ノ爲メ特ニ定メタル徽章ヲ常ニ船檣又ハ其他船部ノ見易キ位置ニ掲クヘシ

第三條 臘虎并ニ臘納獸ノ生皮ヲ賣却セントスル者ハ之ヲ第二條ニ記載セル出張所ニ差出シ當該官吏ノ檢印(烙印ヲ用ユルモ妨ナシ)ヲ受クヘシ其檢印ナキモノハ之ヲ賣却スルコトヲ得ス

第四條 前條當該官吏ノ檢印ナキ臘虎并ニ臘納獸ノ生皮ヲ帝國諸港ニ輸入シ若クハ船舶ニ積載シテ帝國諸港内ニ滯泊シ又ハ市場ニ販賣シ或ハ販賣セントスル者ヲ發見スルトキハ税關官吏又ハ警察官吏ニ於テ該物品ヲ取押ヘ直ニ告發スヘシ

但露西亞國及北亞米利加合衆國所轄内ニ於テ其政府ノ免許ヲ得テ獵獲シタル臘虎并ニ臘納獸ノ生皮ニ於テハ船主又ハ船長タル者其國相當官吏ヨリ付與セシ證書若クハ本邦在留露國及合衆國領事ノ證明書ヲ差出シタル後該品ヲ帝國內ニ輸入スルコトヲ得

●伺指令

●鵝獵禁止ノ件ニ付千葉縣ヨリ農商務省ヘ伺 十九年十一月九日(同十二月九日官報)

鵝ハ稻田ノ害蟲ヲ捕啄シ農業上有効ノ鳥類ナルモ該鳥獵者大ニ増加シ爲ニ一年ニ減耗シ隨テ害蟲蔓延ノ勢アルノミナラス捕獲ニ際シ畦畔ヲ踏破シ農業上妨害少ナカラサル趣ヲ以テ管下上總國長柄郡下ノ郷村外五箇村勸業會ノ意

見トシテ該鳥獵禁止ノ儀申出候右ハ農業上妨害アリト認ムル場合ニ於テハ適宜該鳥獵禁止致可然哉

指令 十九年十一月三十日

伺ノ通

●非職官吏職獵許可ノ件ニ付山形縣ヨリ農商務省ヘ伺 十九年十一月十五日(同十二月八日官報)

非職官吏ニシテ鳥獸職獵免狀願出ル者アルトキハ該免狀ヲ下付シ可然哉

指令 十九年十二月一日

伺ノ趣非職官吏ニ職獵免狀ヲ付與スルハ其本屬長官ニ於テ職獵ヲ許可シタルモノニ限ル儀ト心得ヘシ

●後備軍輜員職獵許可ノ件ニ付鹿兒島縣ヨリ農商務省ヘ伺 十九年十一月二十七日(同十二月十三日官報)

陸軍歩兵曹長ニシテ目下後備軍輜員中ノ者職獵出願セリ差許可然哉

指令 十九年十二月九日

後備軍輜員ニ職獵免狀ヲ下渡スハ陸軍省ノ許可ヲ受ケタル者ニ限ル

●鶴獵禁止ノ件ニ付山口縣ヨリ農商務省ヘ伺 二十年三月三日(同月二十二日官報)

鶴ハ田圃ノ害蟲ヲ捕啄シ農業上有効ノ鳥ニ有之縣下周防國熊毛郡八代村ノ如キハ從來村民申合セ其捕獲ヲ許サヘルノ慣行アリ然ルニ他村ノ銃獵者窮ニ亂入捕獲シ爲メニ其數ヲ減耗シ從テ害蟲蔓延ノ勢アリ農業上妨害少ナカラサル趣ヲ以テ該鳥獵禁止ノ儀願出候右ハ農業上妨害アリト認ムル場合ニ於テハ獨リ該村ニ限ラス縣下一般該鳥獵禁止候テ可然哉

指令 二十年三月十九日

伺ノ通

第六十三 獸醫免許規則

○假開業獸醫免許手續ヲ定ム 十九年十二月二十五日 農商務省訓令第二十一號 北海道廳府縣
明治十八年八月布告第二十八號 獸醫免許規則第五條ニ據リ 假開業免狀ノ下付ヲ願出ル者アルトキハ左ノ假開業獸醫免許
手續ニ據リ取扱フヘシ

假開業獸醫免許手續

- 第一條 獸醫ニ乏シキ地トハ開業獸醫ノ居所ヨリ一日中ニ往復シ能ハザル土地ニ限ルヘシ
- 第二條 假開業免狀ヲ得ント欲スル者アルトキハ甲號書式ノ願書ニ履歷書ヲ添ヘ郡區役所ヲ經テ地方廳ヘ差出サシム
ヘシ
- 第三條 假開業免狀ノ下付ヲ願出ル者アルトキハ北海道廳長官府縣知事ハ獸醫缺乏ノ土地ニ限リ區域ヲ定メ其地發廣
狹、牛馬頭數等乙號書式ニ據リ詳細取調本人ノ願書及履歷書ヲ添ヘ具狀スヘシ
- 第四條 假開業獸醫ハ一區域ニ壹人ヲ限ルヘシ
- 第五條 假開業獸醫營業ノ免許年限ハ滿二年以內トス
但シ免許期限ヲ經ルモ仍ホ獸醫ニ乏シキ場合ニ於テハ此手續ニ據リ更ニ假開業免狀ノ下付ヲ具申スルコトヲ得
- 第六條 假開業獸醫ハ免許區域外ニ出テ病畜ノ治療ヲ爲スト雖モ其免許區域内ニ牽來リタル病畜ハ之ヲ治療セ
シムルコトヲ得
- 第七條 假開業獸醫ニシテ本免狀ヲ得タルトキハ地方廳ヲ經由シテ其假開業免狀ヲ當省ニ返納セシムヘシ
- 第八條 假開業獸醫免許年限中其區域内ニ於テ本免狀ヲ得タル獸醫ノ開業者アルトキハ北海道廳長官府縣知事ハ經同
ノ上該假開業免狀ヲ返納セシムルコトヲ得
- 第九條 假開業獸醫ニシテ免狀ノ有效期限ヲ經過シタルトキハ地方廳ヲ經由シテ該免狀ヲ當省ニ返納セシムヘシ
- 第十條 假開業免狀下付ノ出願ニ係ル細則ハ北海道廳長官府縣知事之ヲ定ムヘシ

甲號書式

(用紙美濃紙 正副式通)

獸醫假開業免狀下付願

住所(寄附ナレハ本籍ヲ併記スヘシ)

族籍

氏名

年月生

右

氏名印

戶長氏名印

氏名印

乙號書式

獸醫假開業出願書調書

住所

族籍

氏名

年月生

營業區域 何郡一圓又ハ何郡ノ内何町

區域内地勢

同 廣狹

第十四類 勸業

第六十五 度量衡

○度量衡種類表ニ掲載ナキ權衡製作ハ出願許可セズ十九年十二月十七日農商務省訓令第十九號北海道廳府縣(沖繩縣ヲ除ク)

度量衡種類表ニ掲載ナキ權衡ハ自今製作ヲ願出ルモ之ヲ許可セズ

○權衡諸綱附換ノ件二十年九月三十日農商務省訓令第十五號北海道廳府縣

明治十九年十月農商務省令第十二號ハ權衡諸綱附換ニ適用スヘキ限ニ非ス

但本訓令ニ抵觸スル從前ノ指令ハ取消ス

● 伺指令

●權衡毀損修補ノ件ニ付德島縣ヨリ農商務省ヘ伺二十年一月十八日(同二月二十三日官報)

客年十月貴省省令第十二號權衡毀損シ若クハ其一部ヲ紛失セントキハ云々ト有之ハ度量衡取締條例第十四條中ノ秤ノ目盛直シ並同第十五條中ノ權衡賣捌所ニテ緒紐附替等ヲ除ク外ノ箇所ヲ指シ候義乎

一 果シテ前項ノ如クナルトキハ製作所ニ於テ尺秤ノ目盛直シ秤ノ縁鐵打替及斗概ノ修復等ヲナシ又ハ賣捌所ニ於テ權衡緒紐附替ヲナストモ其検査ヲ受ケルニ及ハスシテ權衡ニシテハ目盛直シ緒紐附替ノ外修補ニ係ルモノハ、ミ前

項第十二號ノ省令ニ據リ検査ヲ受ケサセ候義乎

一 修補ニ係ル検査ヲナシ適合スルモノハ其検査ノ印章打込等ヲ爲スニ及ハサルカ又ハ新製器検査ノ通再應印章ヲ加ヘ可然乎

一 修補ニ係ル検査ヲナシ不適合ノモノハ如何處分シ可然乎

一 修補ニ係ル検査ヲナシモノハ度量衡検査員數計算表ヘ加記ニ及ハサル乎

指令 二十年二月二十一日

伺之趣左ノ通心得ヘシ

第二項 條例第十四條及第十五條ノ場合モ合當ス

第二項 秤ノ目盛直シ並緒紐附替タルモノハ共ニ製作人ヲシテ検査ヲ受ケシムヘシ

但尺概及斗概ハ検査ヲ受ケシムルノ限ニ非ス

第三項 後段見解ノ通

第四項 不適合ノモノハ検査ヲ捺印セス之ヲ却下スヘシ

第五項 見解ノ通

●修補ニ係ル權衡検査處分ノ件ニ付秋田縣ヨリ農商務省ヘ伺二十年三月二十五日(同四月十二日官報)

官報第一〇九二號ニ權衡毀損修補ノ儀德島縣伺ニ對シ其第四項ニ不適合ノモノハ検査ヲ捺印セス之ヲ却下スヘシト

指令アリ然ルニ當初押捺セシ捺印ヲ消滅スルカ或ハ廢器ノ印章ヲ加ヘサレハ再ヒ使用スルノ嫌ナキヲ得ス取締上至大ノ關係ヲ有スル義ニ付如何處分シ可然哉

指令 二十年四月九日

伺ノ趣舊捺印ヲ消滅シテ却下スル儀ト心得ヘシ

但再ヒ使用セントスルモノハ更ニ修補ヲ加ヘ検査ヲ受ケシムヘシ

第六十六 專賣特許條例中改正二十年四月二十日布告

勅令第八號

朕專賣特許條例中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治十九年四月十八日

内閣總理大臣伯爵伊藤博文

勅令第八號

農商務大臣伯喬山縣有朋

明治十八年第七號布告專賣特許條例第十七條左ノ通改正シ明治二十年六月一日ヨリ施行ス

第十七條 專賣特許ニ係ル願書ニハ左ノ區別ニ從ヒ證券印紙ヲ貼用スヘシ

一 專賣特許、追加特許 三 圓

二 專賣權ノ讓與分與 五 圓

三 專賣特許證ノ再渡 壹 圓

專賣特許證ヲ受クル者ハ左ノ區別ニ從ヒ專賣特許料ヲ納ムヘシ

一 五年ノ專賣特許 金拾圓

二 十年ノ專賣特許 金拾五圓

三 十五年ノ專賣特許 金貳拾圓

○專賣特許手續中ヲ加除改正ス 二十年五月五日 農商務省令第一號

明治十八年^四太政官第五號布達專賣特許手續中左ノ通加除改正シ明治二十年六月一日ヨリ施行ス

第二條改正

專賣特許ヲ願出ルトキハ一箇ノ發明ニ付願書明細書並圖面各一通ヲ差出スヘシ
第六條改正

圖面ニハ一圖毎ニ番號ヲ記シ其各部ニハ片假名平假名又ハ數字ヲ付シテ明細書ノ説明ト符合セシメ且發明人ノ氏名ヲ記載スヘシ

第七條改正

條例第七條ニ依リ專賣權ノ讓與又ハ分與ヲ願出ルトキハ讓主ヨリ願書一通ニ約定書本書ヲ添ヘテ差出スヘシ

其登錄ヲ經タルトキハ約定書本書ニ登錄濟ノ證印ヲ捺シ之ヲ下付スヘシ
第九條及第十二條中「二通」トアルヲ「一通」ト改ム

第十條改正

專賣特許又ハ追加特許ヲ受クル者ハ其出願ヲ聞届ヘキ旨ノ通知ヲ得タル日ヨリ三十日以内ニ其特許料ヲ納ムヘシ此期限内ニ特許料ヲ納メサルトキハ其出願無効タルヘシ但已ヲ得サル事由アリテ延期シタモノト認ムルトキハ此限ニアラス

第十一條改正

條例第十三條ニ依リ專賣特許證ノ再渡ヲ願出ルトキハ其理由ヲ詳記シタル願書一通ヲ差出スヘシ

第十五條改正

專賣特許願書ノ訂正ニ關シ達ヲ受ケタルトキハ其日ヨリ十五日以内ニ圖面ノ徵收又ハ訂正ニ關シ達ヲ受ケタルトキハ其日附ヨリ三箇月以内ニ明細書ニ關シ達ヲ受ケタルト

キハ其日附ヨリ六箇月以内ニ訂正書圖面又ハ答辨書ヲ出スヘシ此期限内ニ之ヲ出サ、
 ルトキハ其出願無効タルヘシ但已ヲ得サル事由アリテ延期シタルモノト認ムルトキハ
 此限ニアラス

第十六條追加

專賣特許ニ關スル諸願書式明細書及圖面ノ雜形用紙等ハ別ニ告示スヘシ

○專賣特許商標登錄開屆ノ通知ヲ得タルトキ取扱方二十年五月十日 農商務省訓令第八號北海道廳府縣

本年勅令第八號及第九號ヲ以テ專賣特許條例第十七條及商標條例第十四條改正相成且本年本省令第一號及第二號ヲ以
 テ專賣特許手續及商標登錄願手續共加改正候ニ付テハ特許又ハ登錄ヲ開屆ク可キ旨ノ通知書其體ニ達シタルトキハ
 即時ニ之ヲ願人ニ下付スルト同時ニ特許料又ハ登錄料徴收ノ手續ヲ爲シ徴收済ノ上ハ速ニ其旨ヲ當省專賣特許局ヘ通
 知ス可シ

○專賣特許ニ關スル諸願書式明細書及圖面用紙雜形等ヲ定ム二十年五月十八日 農商務省告示第三號

專賣特許ニ關スル諸願書式明細書及圖面ノ用紙雜形等別冊ノ通リ相定メ明治二十年六月一日ヨリ施行ス
 但明治十八年當省第六號告示ハ右施行ノ日ヨリ廢止ス
 (別冊)

專賣特許ニ關スル諸願書式及明細書文例等
 願書及上申書式

一書面ハ總テ美濃紙ニツ折ニシテ上部曲尺一寸下部八分左二分綴料一寸ヲ餘シ楷行ノ内ニテ十三行二十五字詰ヲ以
 テ字體明瞭ニ認ムヘシ

第一 新ニ專賣特許
ヲ願出ルトキ

專賣特許願
 一何々發明ノ名稱
此處ニ成規ニ從ヒ
 印紙ヲ貼用スヘシ
 右ハ明細書ニ記載スル通ノ機械(物品)(方法)ニシテ私
 (私共)ノ發明ニ有之候處專賣特許條例ニ相觸レ候儀無之
 且ツ此願書及明細書ニ記載セル事實並ニ圖面(圖面ヲ添ニ
 相違之儀無之段確信致候間何箇年ヲ期限トシ專賣特許證
 御下附相成度此段奉願候也

何府(北海道)何郡何町何番地 居住
 何縣(北海道)區何村何番地 寄留
 本質族籍
 發明者 何 某 印
 二名以上ナルトキハ各署名捺
 印スヘシ以下總テ此例ニ依ル

農商務大臣何某殿
 前書之通願出候ニ付進達候也
 年月日 何府知事(北海道廳長官)何某印

第二 發明者發明共有者ト連名ノ專賣
特許證ヲ得ントシテ願出ルトキ

專賣特許願
 一何々發明ノ名稱
此處ニ成規ニ從ヒ
 印紙ヲ貼用スヘシ
 右ハ明細書ニ記載スル通ノ機械(物品)(方法)ニシテ私
 (私共)ノ發明ニ有之候處專賣特許條例ニ相觸レ候儀無之
 且ツ此願書及明細書ニ記載セル事實並ニ圖面(圖面ヲ添ニ
 相違之儀無之段確信致候候統テハ右發明ハ何某(住所本質族
 籍ヲモ記ス
 シト共有致度ニ付何箇年ヲ期限トシ連名ノ專賣特許證御
 下附相成度此段奉願候也

何府(北海道)何郡何町何番地 居住
 何縣(北海道)區何村何番地 寄留
 本質族籍
 發明者 何 某 印
 年月日

農商務大臣何某殿
 前書ノ通願出候ニ付進達候也
 年月日 何府知事(北海道廳長官)何某印

第三相續者ヨリ專賣特許ヲ願出ルトキ

專賣特許願

一何々發明ノ名稱ヲ掲クヘシ

此處ニ成規ニ從ヒ印紙ヲ貼用スヘシ

右ハ明細書ニ記載スル通ノ機械(物品)(方法)ニシテ亡何某ノ發明ニ候處家名相續ノ願ヲ以テ私受續候就テハ專賣特許條例ニ相觸儀無之且ツ此願書及明細書ニ記載セル事實並ニ圖面(圖面ヲ添ニ相違之廉無之段確信致候間何箇年ヲ期限トシ專賣特許證御下附相成度此段奉願候也

發明者亡何某相續人

何府(北海道)何郡何町何番地(居住)何縣(北海道)何郡何村何番地(寄留)

本質族籍

年月日

何 某 印

農商務大臣何某殿

前書之通願出候ニ付進達候也

年月日

何府知事(北海道廳長官)何某印

第四他人ノ發明ヲ讓受ケ專賣特許ヲ願出ルトキ

專賣特許願

一何々發明ノ名稱ヲ掲クヘシ

此處ニ成規ニ從ヒ印紙ヲ貼用スヘシ

右ハ明細書ニ記載スル通ノ機械(物品)(方法)ニシテ私(私共)儀發明者何某(住所本質族籍)ヨリ讓受候發明ニ有之候處專賣特許條例ニ相觸レ候儀無之且ツ此願書及明細書ニ記載セル事實並ニ圖面(圖面ヲ添ニ相違之廉無之段確信致候間何箇年ヲ期限トシ專賣特許證御下附相成度此段奉願候也

何府(北海道)何郡何町何番地(居住)何縣(北海道)何郡何村何番地(寄留)

本質族籍發明者

證明人 何 某 印

肩書同斷

年月日

發明讓受人 何 某 印

農商務大臣何某殿

前書之通願出候ニ付進達候也

年月日

何府知事(北海道廳長官)何某印

第五追加專賣特許ヲ願出ルトキ

追加專賣特許願

一何々改良發明ノ名稱ヲ掲クヘシ

此處ニ成規ニ從ヒ印紙ヲ貼用スヘシ

右ハ私(私共)所有ノ明治何年何月何日付第何號專賣特許證ニ係ル何々(原發明ノ名稱)ノ發明ニ就キ明細書ニ記載之通改良ヲ加ヘ候モノニシテ專賣特許條例ニ相觸レ候儀無之且ツ此願書及明細書ニ記載セル事實並ニ圖面(圖面ヲ添ニ相違之廉無之段確信致候間追加專賣特許證御下附相成度此段奉願候也

何府(北海道)何郡何町何番地(居住)何縣(北海道)何郡何村何番地(寄留)

本質族籍

年月日

專賣人 何 某 印

農商務大臣何某殿

前書之通願出候ニ付進達候也

年月日

何府知事(北海道廳長官)何某印

第六他人ノ專賣特許年限中ノ發明ニ改良ヲ加ヘテ專賣特許ヲ願出ルトキ

改良發明專賣特許願

一何々改良發明ノ名稱ヲ掲クヘシ

此處ニ成規ニ從ヒ印紙ヲ貼用スヘシ

右ハ何某(住所本質族籍)所有ノ明治何年何月何日付第何號專賣特許證ニ係ル何々(原發明ノ名稱)ノ發明ニ就キ明細書ニ記載之通私(私共)改良ヲ加ヘ候モノニシテ專賣特許條例ニ相觸レ候儀無之且ツ此願書及明細書ニ記載セル事實並ニ圖面(圖面ヲ添ニ相違之廉無之段確信致候就テハ該條例第九條第一項ニ據リ專賣人ノ承諾ヲ經候間何箇年ヲ期限トシ專賣特許證御下附相成度此段奉願候也

何府(北海道)何郡何町何番地(居住)何縣(北海道)何郡何村何番地(寄留)

本質族籍專賣人

證明人 何 某 印

肩書同斷

年月日

改良發明者 何 某 印

農商務大臣何某殿

前書之通願出候ニ付進達候也

何府知事(北海道廳長官)何某印

第七 專賣特許年限中ノ發明ニ改良ヲ加ヘ其專賣人ノ承諾ヲ經ル能ハスシテ專賣特許ヲ願出ルトキ

第八 專賣權ノ讓與又ハ分與ヲ願出ルトキ

改良發明專賣特許願

此處ニ成規ニ從ヒ印紙ヲ貼用スヘシ

一 何々 改良發明ノ名稱ヲ掲クヘシ
右ハ何某 在所本貨族籍 所有ノ明治何年何月何日付第何號專賣特許證ニ係ル何々 原發明ノ名稱ノ發明ニ就キ明細書ニ記載之通私(私共)改良ヲ加ヘ候モノニシテ專賣特許條例ニ相觸レ候儀無之且ツ此願書及明細書ニ記載セル事實並ニ圖面(圖面ヲ添フルトキ)ニ相違之廉無之段確信致候然ル處專賣人ニ於テ何々ノ廉ヲ以テ承諾ヲ拒ミ 其他承諾ヲ經ル能ハシ 候ニ付該條例第九條第二項ニ據リ何箇年ヲ期限トシ專賣特許證御下附相成度此段奉願候也

何府(北海道)何郡何町何番地 居住
本貨族籍
農商務大臣何某殿
改良發明者 何 某 印
前書之通願出候ニ付進達候也
年月日 何府知事(北海道廳長官)何某印

專賣權讓與(分與)願

此處ニ成規ニ從ヒ印紙ヲ貼用スヘシ

一 明治何年何月何日付第何號專賣特許證
一 何々 發明ノ名稱ヲ掲クヘシ
一 發明者何某
一 專賣人何某
右ハ今般何某 在所本貨族籍(讓與(分與)致度依テ約定書本書相添此段奉願候也)

何府(北海道)何郡何町何番地 居住
本貨族籍
農商務大臣何某殿
讓主 何 某 印
前書之通願出候ニ付進達候也
年月日 何府知事(北海道廳長官)何某印

第九 專賣特許證ノ再渡ヲ願出ルトキ

第十 明細書(圖面)脫漏補正(誤謬改正)願

專賣特許證紛失(燒失流失等)ニ付再渡願

此處ニ成規ニ從ヒ印紙ヲ貼用スヘシ

一 明治何年何月何日付第何號專賣特許證
一 何々 發明ノ名稱ヲ掲クヘシ
一 發明者何某
一 專賣人何某
右專賣特許證ハ私所有ニ有之候處明治何年何月何日何地ニ於テ何々ノ際紛失(又ハ燒失流失等)其始末ヲ記スヘシ 候ニ付再渡相成度此段奉願候也

明細書(圖面)脫漏補正(誤謬改正)願
一 明治何年何月何日付第何號專賣特許證
一 何々 發明ノ名稱ヲ掲クヘシ
一 發明者何某
一 專賣人何某
右專賣特許證ニ係ル明細書(圖面)中脫漏(誤謬)有之候ニ付別紙之通補正(改正)致度尤之カ爲メ發明ノ重要事項ニ變更ヲ生スル儀無之ト確信候間此段奉願候也

何府(北海道)何郡何町何番地 居住
本貨族籍
農商務大臣何某殿
專賣人 何 某 印
前書之通願出候ニ付進達候也
年月日 何府知事(北海道廳長官)何某印

專賣人發明者ニアラサルトキハ發明者存生中ハレハ連署スヘシ
何府(北海道)何郡何町何番地 居住
本貨族籍
農商務大臣何某殿
專賣人 何 某 印
前書之通願出候ニ付進達候也
年月日 何府知事(北海道廳長官)何某印

第十一 專賣特許願人他人ニ代理ヲ委任シタルトキ

代人御届

一 明治何年何月何日專賣特許願
右願ニ關スル事件ニ付何某(在所本實族籍ヲモ証スヘシ)ヲ以テ代人ト相
定メ候條此段御届申上候也

何府(北海道)何郡何町何番地寄留
本實族籍

年 月 日 願人 何 某 印
農商務大臣何某殿

前書之通届出候ニ付進達候也

年 月 日 何府(北海道)何郡何町何番地寄留
何縣知事(北海道廳長官)何某印

第十二 願書訂正ノ違ヲ受ケ訂正ヲ加ヘ進達スルトキ

願書訂正ノ儀ニ付上申

一 交付番號 何府(北海道)何郡何町何番地寄留
一 明治何年何月何日付 本實族籍

一 何々專賣特許願 願人 何 某

氏名以上ナルトキハ外何名トスヘシ以下此例ニ依ル

右願書訂正方御達書明治何年何月何日到達依テ御達ノ趣ニ從ヒ訂正ヲ加ヘ進達仕候也

年 月 日 右 何 某 印
農商務省專賣特許局長何某殿

第十三 明細書ニ關シテ理由書ノ違ヲ受ケ訂正書又ハ答辨書ヲ進達スルトキ

訂正書(答辨書)進達之儀ニ付上申

一 第何室

一出願順號

一 明治何年何月何日付 本實族籍

一 何々專賣特許願 願人 何 某

右願書附屬明細書ノ儀ニ付明治何年何月何日付御達ノ趣ニ從ヒ別紙訂正書(又ハ御達ノ趣承服致シ難ク候ニ付別紙答辨書)進達仕候也

年 月 日 右 何 某 印
農商務省專賣特許局長何某殿

第十四 圖面訂正ノ違ヲ受ケ訂正ヲ加ヘ進達スルトキ

圖面訂正ノ儀ニ付上申

一 第何室

一出願順號

一 明治何年何月何日付 本實族籍

一 何々專賣特許願 願人 何 某

右願書附屬圖面不完全ノ旨明治何年何月何日付ヲ以テ御達ニ付訂正ノ上進達仕候也

年 月 日 右 何 某 印
農商務省專賣特許局長何某殿

第十五 圖面徴收ノ違ヲ受ケ進達スルトキ

圖面進達ノ儀ニ付上申

一 第何室

一出願順號

一 明治何年何月何日付 本實族籍

一 何々專賣特許願 願人 何 某

右發明審査上圖面入用ノ旨明治何年何月何日付ヲ以テ御達ニ付進達仕候也

年 月 日 右 何 某 印
農商務省專賣特許局長何某殿

明細書式

- 一 明細書ハ美濃紙ニツ折ニシテ上部曲尺一寸下部八分左二分綴料一寸ヲ除シ楷行ノ内ニテ十三行二十五字詰ヲ以テ字體明瞭ニ認ムヘシ
- 一 明細書ニハ專賣特許願手續第五條ニ掲ケタル事項ヲ記載スヘシ其他之カ説明ニ必要ナラサルコトハ決シテ記載スヘカラス

一 明細書ハ書損ナキ様認ムヘシ若シ書損アリテ加除訂正スルトキハ其上部ニ存スル餘白ニ第何行第何字目何々ノ下何々ノ上何々ノ何字ヲ加ヘ又ハ除クトカ或ハ何々ノ字ヨリ何々ノ字ニ至ル何字ヲ何々ノ何字ニ改ムト記シテ捺印スヘシ決シテ紙ヲ糊付シテ書損ノ部分ヲ掩ヒ其上ニ書改ムル等ノコトヲナスヘカラス但シ削除訂正セラレタル文字ハ墨ニテ一ノ縦線ヲ引キ之ヲ抹消スヘシ

製圖法

一 明細書ニハ末尾ニ在所本貨族籍氏名ヲ記シテ捺印スヘシ年月日及宛名ハ認ムルヲ要セス

- 一 圖面ハ成ルヘク美濃紙ノ純白ナルモノヲ用ヒ其上部曲尺一寸下部八分左三分右一寸五分位ヲ餘シ堅曲尺七寸二分横四寸六分ノ長方形面内ニ認メ且ツ右一寸五分ノ内一寸ヲ綴料トシ綴料ト該長方形トノ間ニ於ケル餘白ノ上部ニ發明ノ名稱ヲ掲クヘシ但署名捺印ハ該長方形面内左右ノ下部ニ於テ圖面ニ妨ケナキ様之ヲナスヘシ
- 一 圖面ニハ明細書ト同様ノ署名捺印ヲ要ス但シ署名ハ細字ニテ氏名ノミヲ記スヘシ
- 一 圖面ハ寫眞石版ノ原料ニ適スヘキ様濃墨ヲ用ヒ鮮明ニ畫キ着色スヘカラス
- 一 圖ノ離レタルモノハ一箇毎ニ第一圖第二圖ト番號ヲ付シ又一ノ部分ニシテ數圖ニ亘ルモノアレハ必ス同一ノ符號ヲ用フヘシ但シ番號及符號ハ圖ノ妨ケトナラサル様墨ニテ明瞭ニ認ムヘシ
- 一 截断面ヲ現ハスニハ線間凡三厘ヲ離レタル平行線ヲ斜ニ引クヘシ又截断面中部分ヲ異ニスル所ハ各方向ノ差ヒタル斜線ヲ用フヘシ
- 一 圖面ノ凹凸ヲ明瞭ナラシムル爲メ陰ヲ施スコトヲ要スルトキハ線ヲ用ヒ簡明ニ畫クヘシ射影ハ決シテ施スヘカラス

第一器械ノ發明ヲ記載スルトキ

一 圖面ハ明細書ノ説明文中ニ畫キ入ルヘカラス必ス別紙ニ認ムヘシ

明細書

肉類細切器械

肉類細切器械ノ新規有益ナル改良ヲ發明セリ依テ左ニ之ヲ詳細確實ニ説明ス

此發明ハ昇降運動ヲナス庖丁ト回轉スル組ト相須テ其用ヲナス肉類細切器械ノ改良ニシテ其目的トスル所三アリ
 第一組ヲ支持スルニ常ニ滑カナル承盤ヲ設備スルコト第二組ノ表面ニ對シ數箇ノ庖丁ヲ各々別々ニ整理スルヲ得セシムルコト第三組丁ヲ運動セシムル昇降桿ノ摩擦ヲ減省スルコト是ナリ

別紙圖面ハ右ノ目的ヲ達スヘキ機構ヲ示シタルモノニシテ即チ其第一圖ハ全器械ノ縱斷面圖ナリ第二圖ハ組及庖丁ヲ取除キタル器械ノ頂面圖ニシテ第三圖ハ該器械ノ第二圖ニ示セル部分ヲ(一)(二)ノ線ニ於テ截斷シタル縱斷面圖トス而シテ第四圖ハ昇降桿ト其庖丁トヲ示シタル詳圖ナリ總テ此圖面ニ附シタル同一ノ符合ハ同一ノ部分ヲ示シタルモノトス

蓋(イ)及其脚(ろ)並ニ蓋ノ裏面ニ固着シタル軸吊(イ)ヲ以テ本器械ノ構礎トス軸吊(イ)ニハ軸(ロ)ヲ通シ且ツ同軸ニ飛輪(ロ)ヲ備ヘ而シテ飛輪ノ殼ニ設ケタル曲柄桿ヲ橫桿(ニ)ヲ通シタル串ニ接續スルニ連桿(ロ)ヲ以テシ該橫桿(ニ)ニハ昇降桿(ニ)ヲ固着シ此桿ノ上端ニ庖丁(二)ヲ備ヘタル橫桿(ニ)ヲ附着シタリ
 橫桿(ニ)ハ軸(ロ)ニ藉リテ昇降ス而シテ之ニ備フルニ蓋(イ)ノ裏面ニ固着シタル導字(ケ)ニ適應セシメタル減阻轉子(ホ)ヲ以テセリ是レ該橫桿ノ昇降スルニ成ルヘク摩擦ヲ減殺セシメンカ爲メナリ
 木製組(ハ)ノ裏面ニハ蓋(イ)ニ設ケタル輪溝(マ)ニ嵌合スルニ適應シタル環狀ノ輪(チ)ヲ固着シタリ此輪溝ハ全部同一ノ深サニアラスシテ一箇所若クハ二箇所以上茲ニ示ス所ノモノハ二箇所ナリニ油ヲ貯フヘキ積々深キ凹所(ヌ)ヲ設ケ而シテ輪(チ)ハ常ニ此油ニ觸レテ回轉スルヲ以テ輪ト溝トノ間ハ不斷太甚タ滑カナリ昇降桿(ニ)ハ中央架子(ル)ヲ貫通シ此架子ニ因テ直導セラレ該

架子ハ蓋(イ)ニ固着シ組ニ接觸セシテ之カ中央孔ヲ通シテ上方ニ突出シ其上部ハ組ニ緊着シタル環罩(ル)ノ内ニ在リ而シテ此環罩ハ組ノ中央孔内ニ肉片ノ入ルヲ防クモノトス

第四圖ヲ以テ其詳圖ヲ示シタル横桿(マ)ハ昇降桿(カ)ニ直垂ニ嵌入スルヲ得而シテ其位置ヲ整理シタルトキハ止螺旋(ウ)ヲ以テ緊着スル様ニ作りタリ又該昇降桿ノ上端ニハ螺旋ヲ刻シ之ニ螺旋止ヲ嵌合シ以テ庖丁ノ激シク運動シテ組上ノ肉ニ接スルトキ横桿ノ受クル激動ニ抗セシムルナリ

庖丁(ニ、三)ハ相互及前項ニ述ヘタル横桿ニ關係ナク各自ニ整理セシムヘキカ故ニ常ニ庖丁ノ刃ト組ノ面トヲシテ適宜ニ相應セシムルコトヲ得ルナリ

自分ノ發明中此庖丁ニ關スル考案ヲ實施スルニハ第四圖ニ示ス所ノ装置ヲ可トス即チ二箇ノ螺旋根(ワ、リ)ヲ各庖丁ノ背部ニ固着シ該根ヲシテ横桿ノ凸邊(カ、カ)ヲ貫通セシメ而シテ各螺旋根ノ貫通セル上下ニ螺旋止ヲ装置

シ以テ此各箇螺旋止ノ作用ニ藉リ最モ精密ニ庖丁ヲ整理スルヲ得ルモノトス

組ノ周邊ニハ圓形ノ圓繞板(タ)ヲ固着シテ槽(カ)ヲ形成セシメ以テ肉類ヲシテ其組面外ニ出テサラシム又環狀ノ輪(チ)ノ邊縁ニ於テ組ノ裏面ニ固着スルニ小齒輪(レ)ニ啮合フヘキ刻齒ヲ以テス而シテ該小齒輪ハ軸(ハ)ニ藉リ適宜ナル聯動機ノ作用ヲ以テ運轉セシムルヲ得ヘシ但シ別紙圖面ニ示セル聯動機ノ如キハ此發明ノ部分トシテ示シタルモノニアラス

該軸(ハ)ハ滑車(ツ)ニ帶革ヲ繞ラシテ以テ之ヲ回轉セシムルコトヲ得ヘク又一端ニ把手(子)ヲ備ヘ他端ニハ軸(ハ)ニ設ケタル小齒輪ニ啮合ハシメタル齒輪(ハ)ヲ備フル軸(ハ)ヲ裝置シテ手ヲ以テ回轉スルコトヲ得ヘシ蓋(イ)ノ一邊ニ蝶錠ヲ以テ蓋板(ハ)ヲ附着シ以テ細切シタル肉ヲ入ルヘキ器物ヲ載スル用ニ供スルヲ得ヘシ該蓋板ヲ支撐シ又ハ不用ナルトキ之ヲ除去スルニ最簡便ナル方法ハ第一圖ニ示セルカ如シ

本質族籍
發明者(又ハ相續人讓受人)何某印

本發明ハ回轉組ト昇降スル庖丁ト相須テ作用ヲ爲ス所ノ肉類細切器械ノ改良ナルカ故ニ上陳結合ノ全部ヲ以テ自分ノ發明ナリトセス特許證ヲ得シカ爲メニ自分ノ發明トシテ其權利ヲ請求スル區域ハ左ノ如シ

一 肉類細切器械中環狀ノ輪(チ)ヲ備ヘタル回轉組ト輪溝(マ)及其溝ニ接觸スル凹所(ヌ)ヲ一箇若クハ二箇以上設ケタル蓋トノ結合

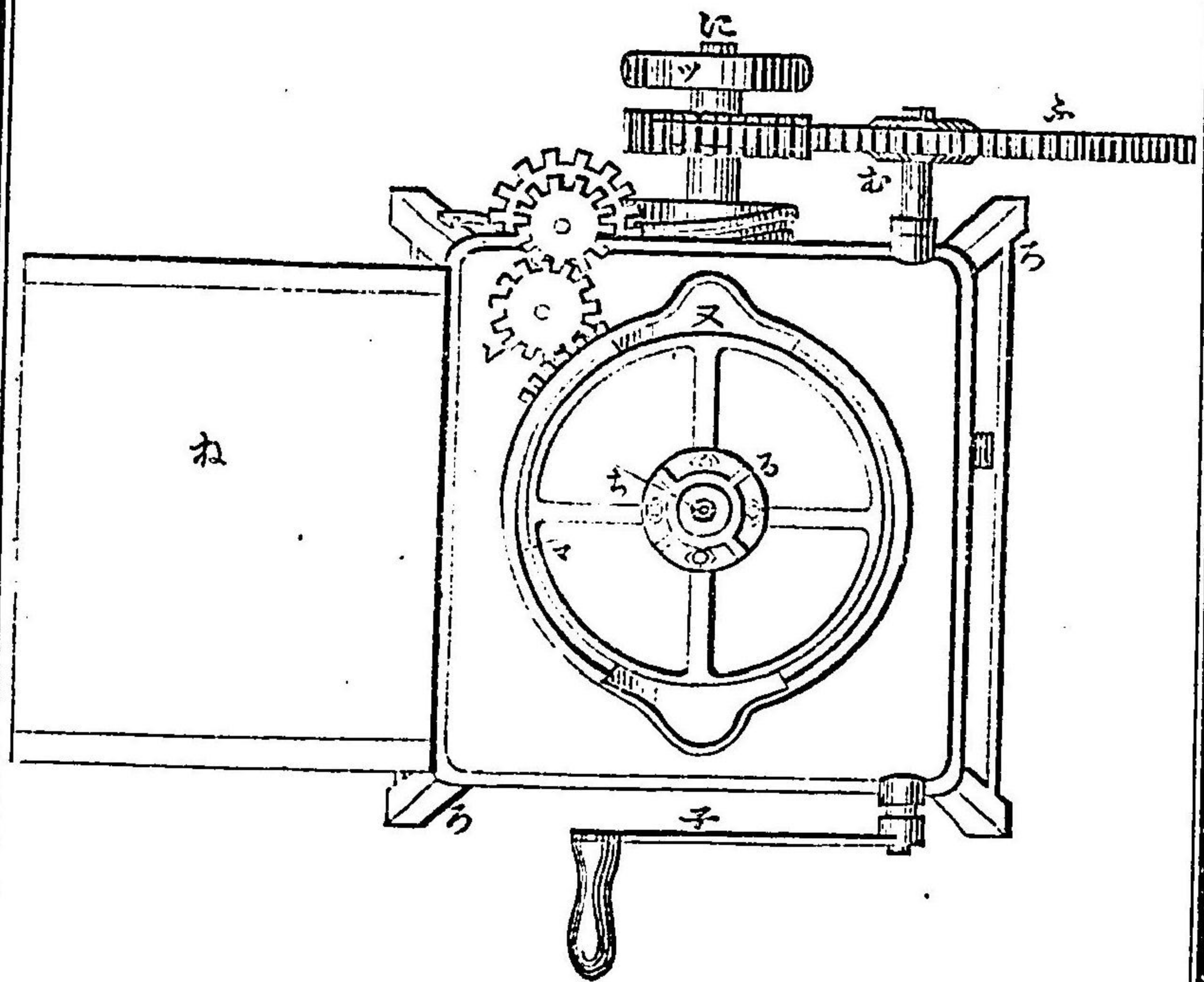
二 肉類細切器械中回轉組ト各自互ニ關係ナク横桿ニ直垂ニ整理シ得ヘキ庖丁(ニ、三)ヲ備ヘタル昇降横桿トノ結合

三 前ニ詳記シタル目的ヲ以テ背部ニ二箇ノ螺旋根(ワ、リ)ヲ固着シタル庖丁

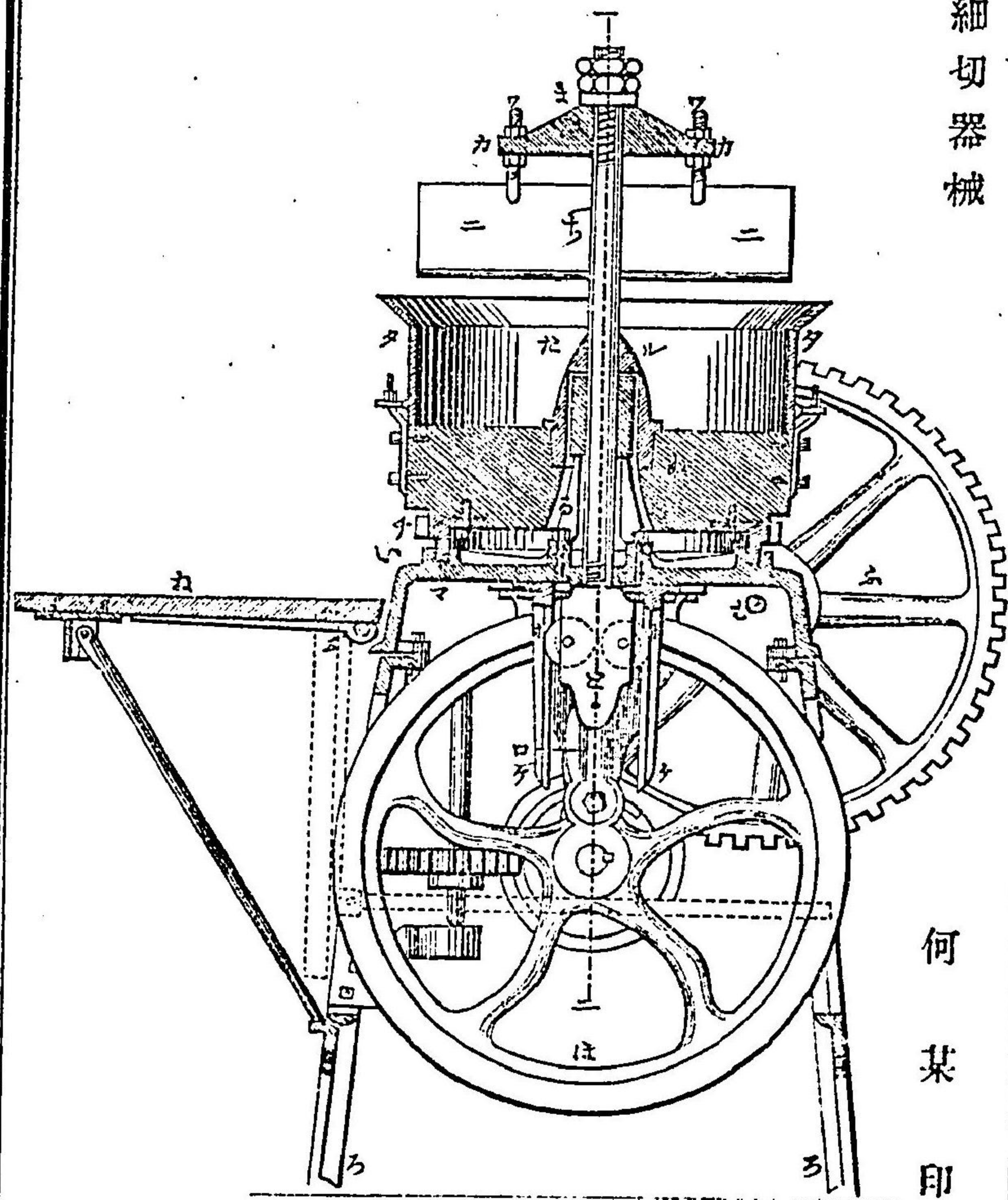
四 肉類細切器械中庖丁(ニ、三)ヲ昇降運動シ且ツ摩擦ヲ減殺スル減阻轉子(ホ、ホ)ヲ備フル横桿(カ)ヲ固着シタル昇降桿(カ)ト該減阻轉子ニ適應スル様ニ設ケタル導子(ケ、ケ)トノ結合是レナリ

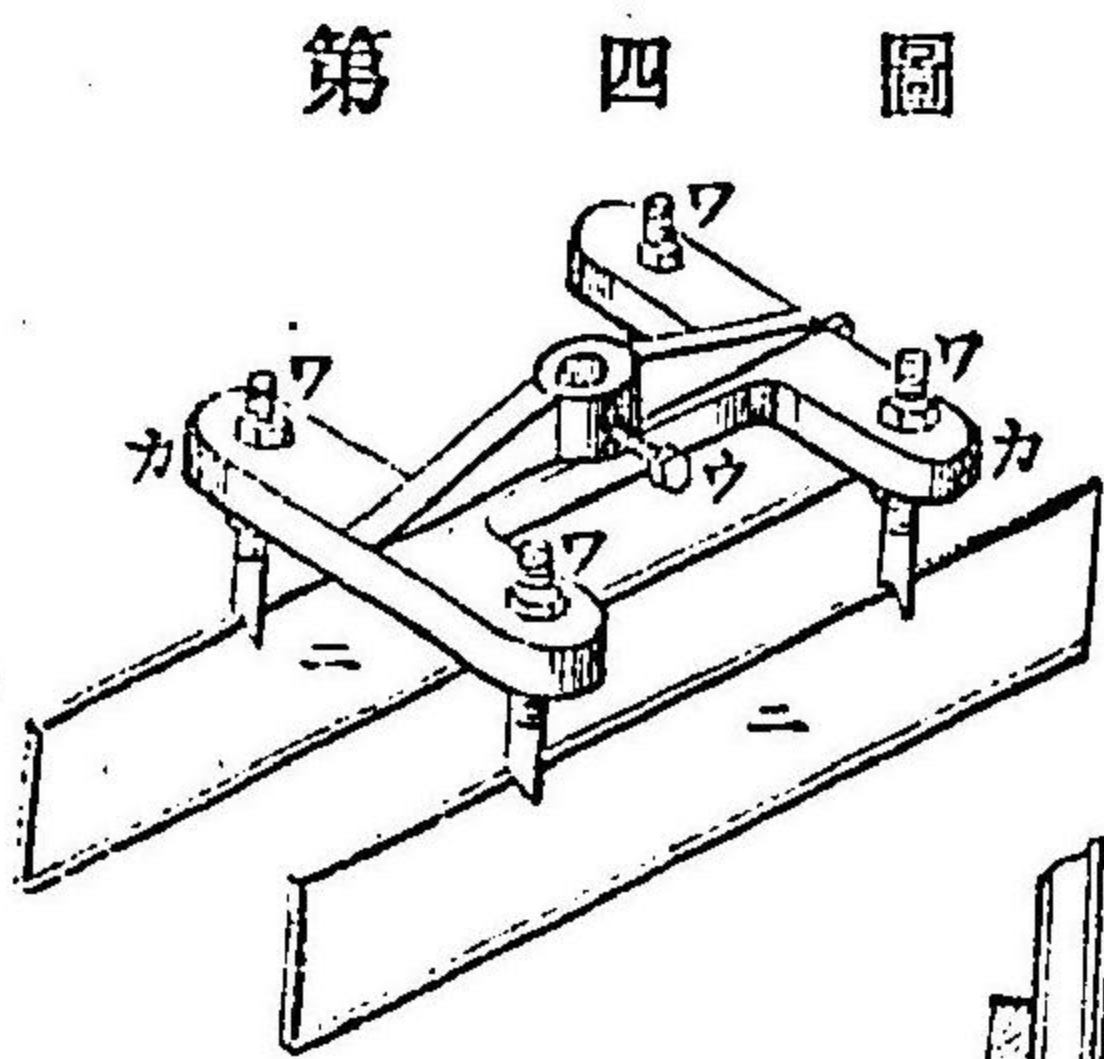
何府(北海道)何郡何町何番地居住
何縣(北海道)何郡何町何番地寄留

圖二第

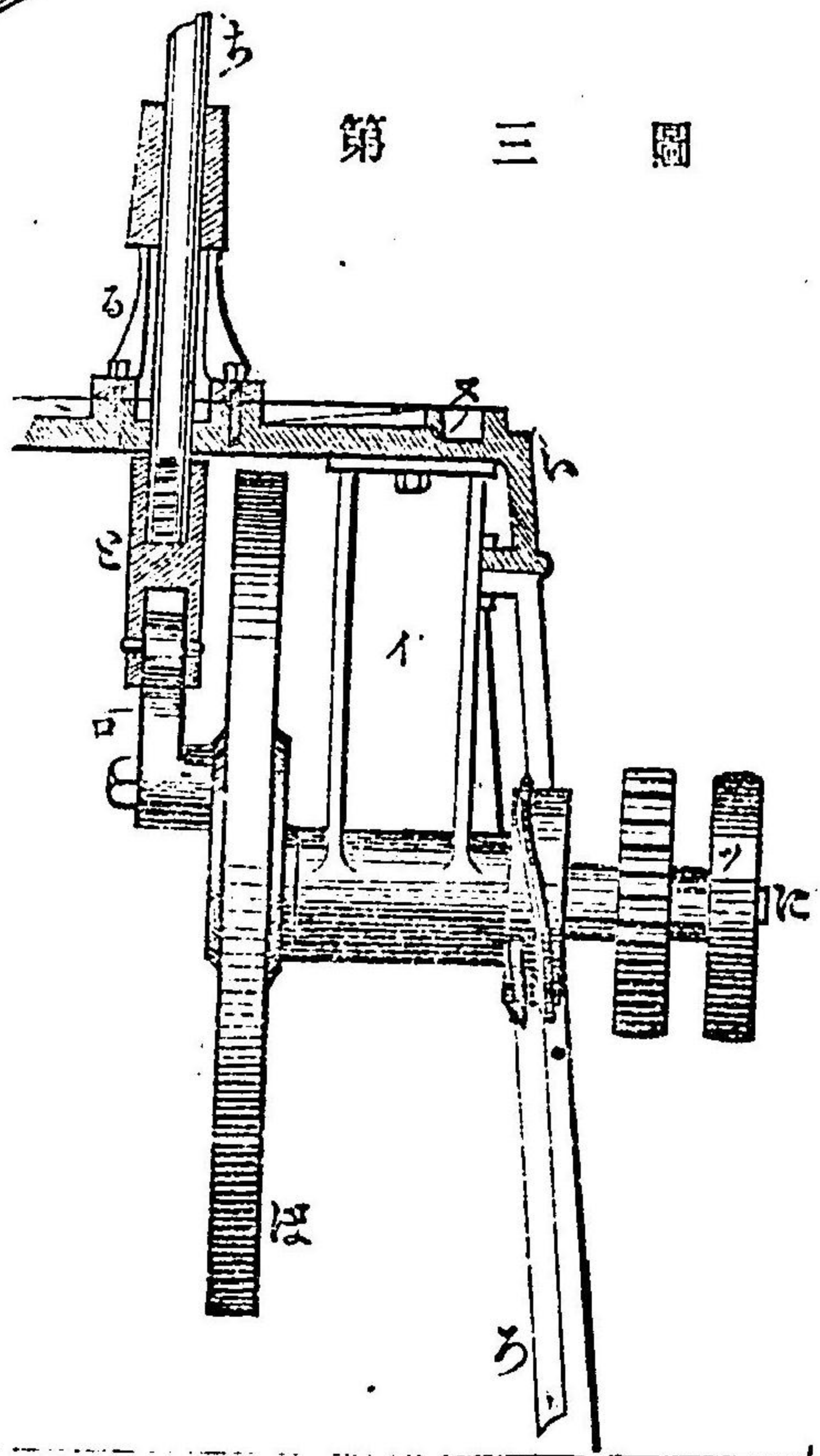


第一圖





第四圖



第三圖

第二物品ノ發明ヲ詳載スルトキ

明細書

挿書匣

文書ノ保存檢閲ニ用フル新規有益ノ挿書匣ヲ發明セリ左ニ之ヲ詳細確實ニ説明ス
 此發明ノ目的ハ公私ノ執務所ニ於テ文書ヲ保存シ且ツ之ヲ檢閱スルニ便利ナラシムルニ在リ
 此發明ハ木材金屬又ハ其他ノ適當ナル資料ヲ以テ作リタル矩形ノ匣ニシテ其前面ノ上縁ト後面ノ下縁トノ平面若クハ其接近ノ部分ヲ斜ニ截斷シ蝶鉸ヲ以テ之ヲ番ヒ匣ノ兩側ニ浴ヒ頂ト底トノ間ニ於テ制齒ヲ具シタル硬固ノ透溝ヲ縦設シ又樞ニ附着シテ補足ノ用ヲ爲シ樞ヲ鎖定スル所ノ側心樞ヨリ成レル押止スヘキ装置ヲ設ケ且ツ導棍ヲ備ヘタル隨從板ヲ附シ導棍ト隨從板トノ間ニ前記ノ樞ヲ串通セルモノナリ
 別紙圖面ニ於テ同一ノ符號ヲ附シテ同一ノ部分ヲ示セリ

第十四類 勸業

第一圖ハ匣ノ閉合シタル所ヲ示シ第二圖ハ在中ノ文書ヲ檢閱スル爲メ又ハ文書ヲ挿入スル爲メニ匣ヲ開キタル所ヲ示セルナリ第三圖ハ變形ノモノニシテ即チ蓋ナキ挿書具トス
 圖面中示ス所ノ(イ)ハ匣ノ前面(ロ)ハ底(ハ)ハ側面(ニ)ハ上截分ナリ(ハ)ハ制齒ヲ具シタル硬固ノ透溝ヲニシテ即チ樞(ニ)ノ由テ以テ隨從板(ニ)ヲ運用スル所ナリ(ト)ハ補足ノ用ヲ爲シ樞ヲ鎖定スル爲メニ之ニ附着シタル側心樞トス(チ)ハ隨從板ニ附着シタル導棍ニシテ樞ハ此導棍ト隨從板トノ間ニ串通スルナリ
 制齒杆ニハ橫溝ヲ設ケ而シテ此橫溝ノ端ハ樞(ニ)ノ兩端ヲ承クル承架ヲナス所ノ直立シタル縱透溝ニ至テ終レリ是レ隨從板(ニ)ヲシテ後方ニ傾下セシメ以テ在中文書ヲ檢閱スルニ便スルカ爲メナリ

此挿書匣ヲ使用スルニハ上截分(ニ)ヲ舉ケタル後側心樞(ト)ヲ制齒ヨリ樞ノ離ル、丈ニ揚起シ欲スル所ノ距離ニ移シテ制齒ニ掛クルナリ爾スレハ則チ隨從板(ニ)ハ後方

へ倒ル、カ故ニ兩手ヲ以テ文書ヲ檢閲シ又ハ之ヲ隨從板
 (ち)及ヒ先端(い)ノ間ニ挿入スルヲ得ヘシ而シテ摺ヲ押
 送シ文書ヲ充分押壓シ兩側ノ制齒ニ摺ヲ下シ隨從板ニ向
 テ側心挺ヲ下方へ壓スレハ壓力ヲ補足シ摺ヲ鎖定スルヲ
 得然ル後上截分ヲ閉合スルナリ

第三圖ノ蓋ナキ挿書具モ其使用法前條ニ同シ

專賣特許ニ依リ自分カ此發明ノ保護ヲ請求スル區域ハ左
 ノ如シ

- 一 別紙圖面ニ示シ且ツ本書ニ記載シタルカ如ク一箇ハ
 制齒ヲ具スル透溝ヲ備ヘタル杆ト之下適合セシメラ
 ルヘキ隨從板トヲ備ヘ一箇ハ蓋トナル所ノ共ニ三角
 形ニシテ蝶鉸ニテ附着セラレタル兩箇ノ截斷分ヲ以
 テ外圍ト爲ス挿書匣
- 二 接合シタル縱横ノ透溝ヲ備ヘ溝ニ制齒ト隨從板ノ摺
 ノ承架トヲ具シ屈折シタル兩杆
- 三 匣ト各々一端ニ摺ヲ承クヘキ承架ニ至テ終ル所ノ縱
 透溝ヲ設ケタル硬固ナル二箇ノ制齒杆ト摺ヲ附シタ

ル隨從板トノ結合

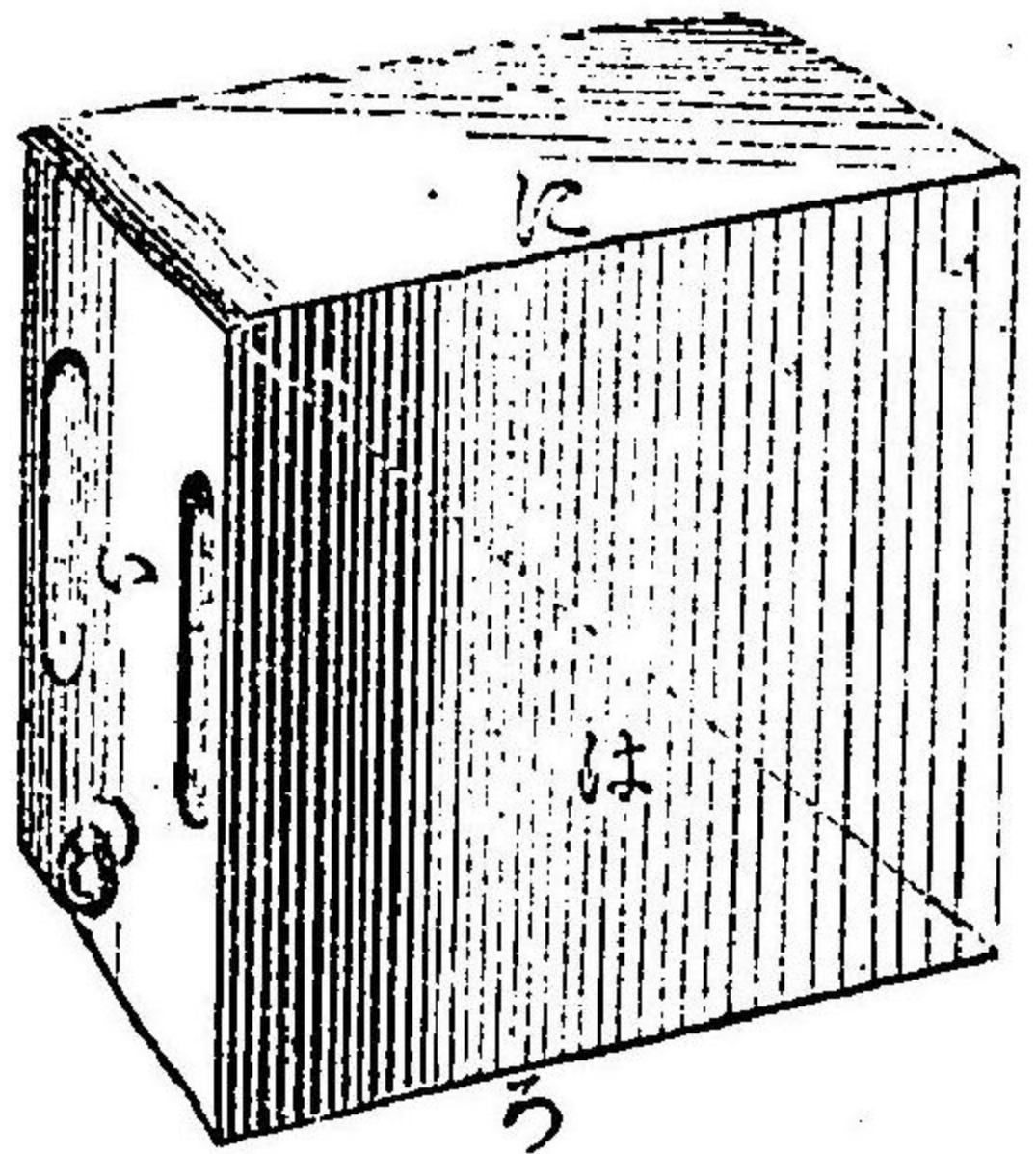
- 四 前板(い)底板(ろ)隨從板ノ摺ノ承架ニ終リタル縱透
 溝ヲ備ヘ硬固ニシテ制齒ヲ具セル透溝ヲ設ケタル兩
 杆(は)下及押止スヘキ装置ヲ附シタル隨從板(ち)
 トノ結合

五 三角形ニシテ蝶鉸ヲ以テ番ヒタル兩截分縱透溝(即
 チ承架)ヲ備ヘ硬固ニシテ制齒ヲ具セル透溝ヲ設ケ
 タル兩杆(は)下(は)兩導棍(チ、チ)ヲ附シタル隨從板
 (ち)及ヒ側心挺(ト)ヲ備ヘタル摺(ロ)ヨリ成ル所ノ
 全備セル挿書匣ナル新製造品是レナリ

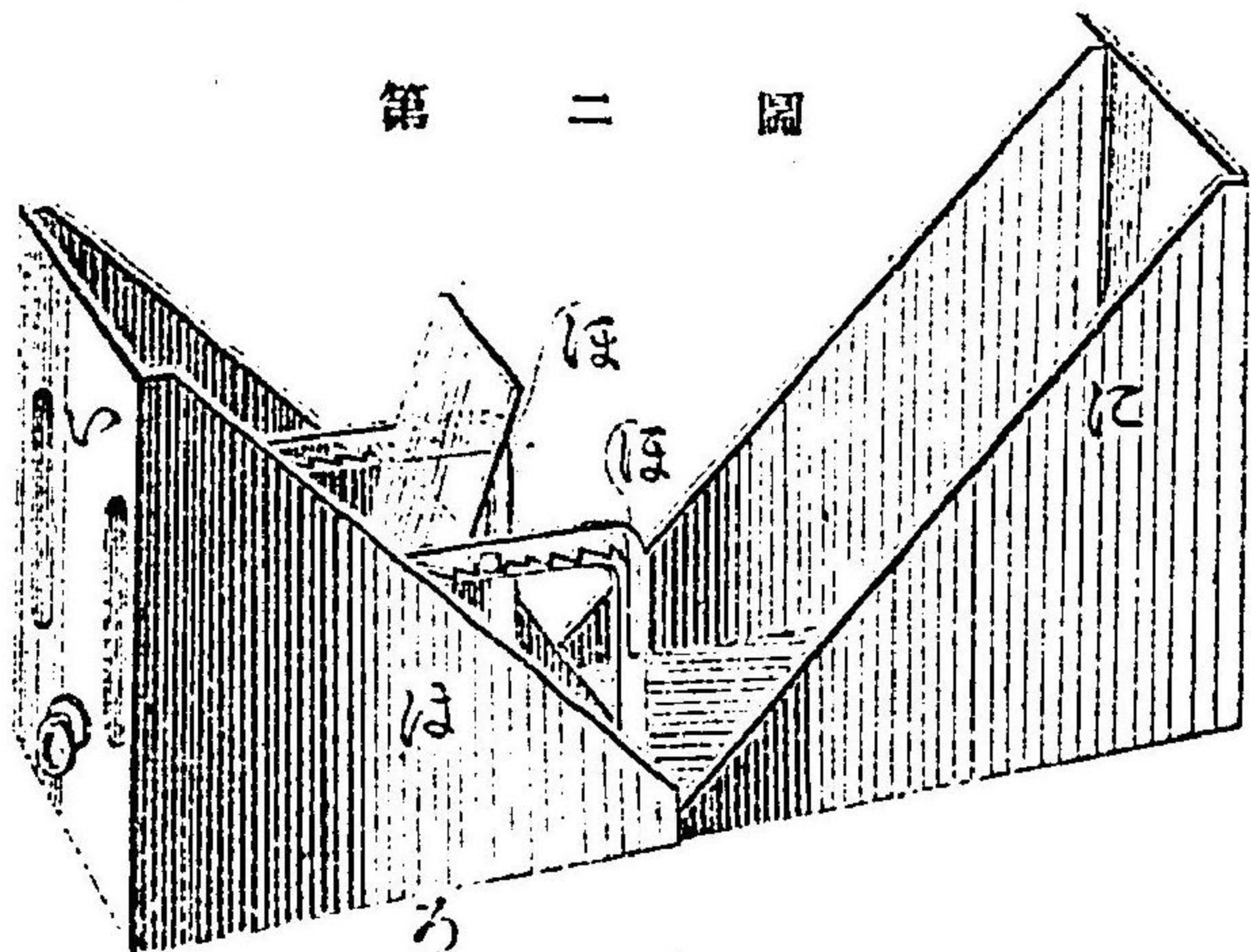
署名ノ式ハ第
 一書式ニ同シ

挿書匣

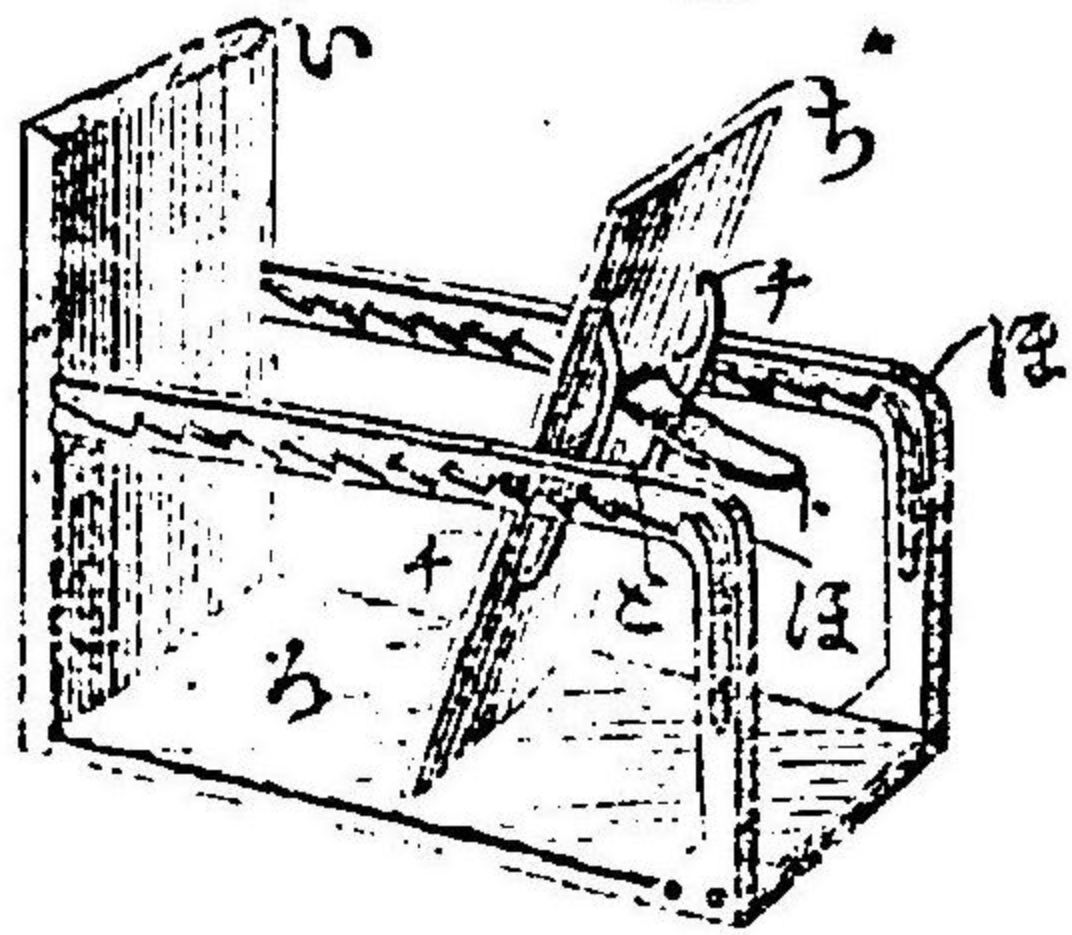
第一圖



第二圖



第三圖



何
 某
 印

第三方法ノ發明ヲ
詳載スルトキ

明細書

軟鐵及銅鐵製造法

軟鐵及銅鐵ヲ製造スルニ用フル鹽基的方法ノ新規有益ナル改良ヲ發明セリ依テ左ニ之ヲ詳細確實ニ説明ス
此發明ノ目的ハ熔解シタル粗鐵ヨリ燐及硫黃ヲ除去スルニ在リ其方法ハ鹽基性物即チ珪酸ヲ含有セサルモノヲ以テ内壁ヲ塗布シタル顛回爐ニ鐵ヲ投入シ珪素ヲ奪除スル爲メ大氣ヲ鼓入シテ之ヲ處理シ從テ化生スル所ノ含珪熔滓ヲ該爐ヨリ注脱シ然ル後燐及ヒ硫黃ヲ奪除スル爲メニ大氣ト螢石即チ「弗化カルシウム」トヲ用井テ鐵ヲ處理スルモノトス

此發明ヲ施行スルニハ顛回爐ヲ用ヒ之ニ熔鑄爐ヨリ熔鐵ヲ移注シ顛回爐ノ底若クハ側部ヨリ鼓入スル大氣ヲ以テ處理ス而シテ其鼓入ハ方法ノ初期ノ終尾即チ奪珪作用ノ起發スルニ至ルマテ連續シ該期ノ終尾ヲ待テ顛回爐ヲ傾

ケ其熔滓ヲ除却スルナリ
次テ又大氣ノ鼓入ヲ爲スニ方リ顛回爐ヲ直立ノ地位ニ復シ而シテ直チニ之ニ螢石ヲ投入ス尤其細粉ナルモノヲ宜トス然スレハ則チ螢石ハ大氣ノ鼓入ニ由リ熔鐵中ニ射入セラルハナリ否ラサレハ熔滓ヲ除去シタル後顛回爐ノ口部ニ其小塊ヲ投入スルモノナリ
斯ノ如クスレハ熱ノ爲メニ螢石分解シ弗素ト石灰トヲ化生シテ以テ硫黃ト燐トヲ蒸氣及ヒ熔滓トシテ除去シ(珪素ノ殘留スルモノアレハ亦同シ)而シテ粗鐵ハ奪珪作用ノ完否ニ依テ銅鐵若クハ軟鐵ニ變化ス
顛回爐ノ内壁ヲ塗布スルニハ石灰若クハ「マグネシア」石灰ヲ用フルヲ長トス然レトモ亦他ノ適應ナル石灰質ノモノヲ用フルモ妨ケナシ
前記粗鐵ハ普通「ベセマー」法ニ於テ通常用ユルモノニシテ百分中珪素ニ炭素三乃至四及ヒ若干ノ螢石ヲ用フルニアラサレハ銅鐵ヲ生成スル能ハサル程ニ過量ノ燐ヲ含有スルモノナリ

粗鐵中ニ多量ノ燐存在スルハ珪素ノ在量稍少カルヘシ(然レモ稍多量ナル珪素ヲ含有スルモ妨ケナシ)茲ニハ百分中三乃至五ノ燐含有スル粗鐵ヲ用フルヲ長トス是レ大氣鼓入ノ終リニ當リテ燐ノ加入ヲ要セサレハナリ若シ粗鐵燐含有セサレハ奪珪作用ノ後直チニ鏡鐵ノ一乃至一、五分ヲ投入ス是レ奪珪作用ノ間ニ燐存在スレハ之ヲ次期ニ於テ加入スルニ比シ鐵ノ質ヲシテ大ニ良好ナラシムルニ由ル然レモ鐵ヲ精製スル間ノ燐含有否ハ必スシモ銅鐵ノ生成ニ緊要ナリトセス何トナレハ鼓入間燐含有否ニ關セス大氣ノ鼓入ノ終リニ當テ燐ヲ投入スルモノナレハナリ

粗鐵中含有スヘキ螢石ノ量ハ其鐵中ニ含有スル珪燐及ヒ硫黃ノ三乃至五倍アルヲ可トス
石灰又ハ酸化鐵ヲ螢石ト混和シ或ハ奪珪作用前ニ石灰ヲ粗鐵ト共ニ顛回爐ニ投入スルモノナリ然レモ斯ク石灰又ハ酸化鐵ヲ使用スルハ敢テ緊要ノコトニアラス
螢石ヲ奪珪作用ノ後ニ用ヒテ之ヲ其前ニ用井サルノ利益

第十四類 勸業

タル所以ハ若シ「ベセマー」法ノ始メニ當テ之ヲ適用スレハ大ニ熔鐵ヲ冷却シ從テ之ヲ流注シ難カラシメ且螢石ノ多量ヲ要スルヲ以テナリ
奪珪作用後ニ含珪熔滓ヲ除去スルノ利益タル所以ハ之ニ依テ熔滓ヲ中和スル爲メ螢石ヲ浪費スルノ憂ナカラシメンカ爲ナリ若シ鹽基性物ヲ承ク顛回爐内ニ留滞セシムレハ其多量ハ無益ニ熔滓ト相化合スヘシ
「ベセマー」法ニ於テ鐵ヨリ燐ヲ奪除スルカ爲メニ螢石並ニ大氣ヲ使用スルハ已ニ世ニ知ラレタル方法ナルヲ以テ自分ノ發明トシテ其權利ヲ請求スルヲ爲サス自分ノ發明ハ即チ前陳方法ノ改良ニシテ少量ノ螢石ヲ用ヒテ以テ精製スルコトヲ得ルニ在リ
專賣特許證ニ依テ自分カ發明ノ保護ヲ請求スル區域ハ左ノ如シ
第一次適應ナル鹽基性物ヲ以テ塗布シタル顛回爐内ニ於テ珪素ヲ奪除スル爲メ大氣ノ鼓入即チ噴射ヲ以テ粗鐵ヲ處理シ第二次生成シタル含珪熔滓ヲ注脱シ第三次硫黃及

ヒ燐ヲ奪除スル爲メ螢石若クハ同値ノ鹽基性物ヲ以テ熔
滓ヲ處理スルヨリ成ル軟鐵及ヒ鋼鐵製造ノ改良法是ナリ
署名ノ式ハ第
一書式ニ同シ

第四合成劑ノ發明ヲ
記載スルトキ

明細書

脫毛媒助劑
毛皮ヲ鞣化スルニ用フル新規有益ナル合成劑ヲ發明セリ
依テ左ニ之ヲ詳細確實ニ説明ス
此發明ノ目的ハ毛皮ヲ鞣化スルニ當リ豫メ其毛皮脂肪ヲ
脫除シ易カラシムルニ在リ
此合成劑ハ清水、生石灰、炭酸曹達、硝石及ヒ花狀硫黃ヨリ
成ル即其割合ヲ掲グルルニ左ノ如シ
清水 一三五〇
生石灰 八〇
炭酸曹達 一三〇
硝石 二二四

花狀硫黃

一二

以上ノ成分ヲ攪擾シテ能ク之ヲ混和セシムルモノトス此
合成劑ノ用法ハ豫メ毛皮ヲ一日乃至八日間水中ニ浸シ皮
裡ニ含有スル鹽類及汚物ヲ脫除シ之ヲ清淨ニシタル後此
液劑中ニ浸スリ四十八時間ニシテ之ヲ取出シ通常ノ法ヲ
以テ其毛ヲ脫除スルモノトス

此合成劑ヲ使用スルトキハ管ニ其毛ヲ脫除シ易カラシム
ルノミナラス却テ毛皮ヲ鞣化スルニ當リ妨礙ヲ來タスヘ
キ脂肪及ヒ其他ノ物質ヲ脫除シ精良ノ皮革ニ變成スヘキ
質ハ之ヲ保存ス

上文記載スル所ニ依リ自分ノ發明トシテ其權利ヲ請求ス
ル區域ハ左ノ如シ

毛皮ヲ脫除スルニ當リ豫メ其毛ヲ脫除スルニ易カラシム
ル爲メ使用スヘキ前記ノ割合ニ於テ清水、生石灰、炭酸曹
達、硝石、花狀硫黃ヨリ成ル合成劑是ナリ

署名ノ式ハ第
一書式ニ同シ

符號第六十六
ノ三項見合

第六十七

商標條例中改正

二十年四月二十日布告
勅令第九號

朕商標條例中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十年四月十八日

内閣總理大臣伯爵伊藤博文
農商務大臣伯爵山縣有朋

勅令第九號

明治十七年第九號布告商標條例第十四條左ノ通改正シ明治二十年六月一日ヨリ施行ス

- 第十四條 商標ノ登録ニ係ル願書ニハ左ノ區別ニ從ヒ證券印紙ヲ貼用ス可シ
 - 一 商標ノ登録、登録商標ノ兼用轉用又ハ改正及登錄證ノ再渡 壹圓
 - 二 登録商標ノ滿期續用 五圓
 - 登録ノ證ヲ受クル者ハ左ノ區別ニ從ヒ登録料ヲ納ム可シ
 - 一 商標ノ登録 金拾圓
 - 二 登録商標兼用轉用又ハ改正ノ登録 金五圓
 - 三 登録商標ノ讓與又ハ分與ノ登録 金五圓

○商標登録願手續中加除改正

二十年五月五日
農商務省令第二號

明治十七年六月太政官第十三號布達商標登録願手續中左ノ通加除改正シ明治二十年六月一

第十四類 勸業

日ヨリ施行ス

第二條改正

商標ノ登録ヲ願出ツルトキハ商標見本五枚ヲ添へ願書一通明細書二通ヲ差出ス可シ

第五條改正

條例第八條ニ據リ商標ノ讓與分與ヲ願出ツルトキハ讓主ヨリ約定書本書ヲ添へ願書一通ヲ差出ス可シ

其登録ヲ經タルトキハ約定書本書ニ登録濟ノ證印ヲ捺シ之ヲ下付ス可シ

第六條第二項追加

條例第十條第十一條ニ據リ商標ノ續用及登録證ノ再渡ヲ願出ツルトキハ願書一通ヲ差出ス可シ

第七條改正

商標ノ登録ヲ願出ル者及登録商標ノ兼用轉用改正讓與又ハ分與ヲ願出ル者ハ其登録ヲ聞届ヘキ旨ノ通知ヲ得タル日ヨリ三十日以内ニ其登録料ヲ納ム可シ此期限内ニ登録料ヲ納メサルトキハ其出願無効タル可シ但已ヲ得サル事由アリテ延期シタルモノト認ムルトキハ此限ニアラス

第九條改正

商標登録願書ノ訂正ニ關シ達ヲ受ケタルトキハ其日ヨリ十五日以内ニ明細書ノ訂正ニ

關シ達ヲ受ケタルトキハ其日附ヨリ三箇月以内ニ訂正書又ハ答辨書ヲ出ス可シ此期限内ニ之ヲ出サ、ルトキハ其出願無効タル可シ但已ヲ得サル事由アリテ延期シタルモノト認ムルトキハ此限ニアラス

第十條改正

商標登録願人ハ專賣特許局ノ達ニ隨ヒ其商標ノ木版又ハ鉛版ヲ差出ス可シ其達ノ日附ヨリ六箇月以内ニ之ヲ差出サ、ルトキハ其出願無効タル可シ但已ヲ得サル事由アリテ延期シタルモノト認ムルトキハ此限ニアラス

第十二條追加

商標ニ關スル諸願書式及明細書文例等ハ別ニ告示ス可シ

○商標ニ關スル諸願書式文例等ヲ定ム 二十年五月十八日 農商務省告示第四號

商標ニ關スル諸願書式及明細書文例等別冊ノ通相定メ明治二十年六月一日ヨリ施行ス

但明治十七年當省第五號告示ハ右施行ノ日ヨリ廢止ス

(別冊)

商標ニ關スル諸願書式及明細書文例等

一書面ハ總テ美濃紙ニツ折ニシテ上部曲尺一寸下部八分左二分綴料一寸ヲ餘シ摺行ノ内ニテ十三行二十五字詰ヲ以テ字體明瞭ニ認ムヘシ

第一新ニ商標ノ登録ヲ願出ルトキ

商標登録願

此處ニ成規ニ從ヒ印紙ヲ貼用スヘシ

私(當會社當組)儀別紙明細書ニ記載ノ商標ヲ自今相用度(條例頒布以後即チ明治十七年六月七日以後ニシテ登録出願以前ヨリ使用セル商標ナルトキハ)去明治何年何月何日ヨリ又ハ何月頃ヨリ相用來候處)右ニ付商標條例ニ相觸レ候儀無之段確信致候間御登録ノ上證書御下付相成度此段奉願候也

何府(北海道)何郡何町何番地 寄留

本貨族籍

何業

年月日

何 某 印

又ハ

何府(北海道)何郡何町何番地

何業

何 會 社(組) 印

組長

本貨族籍

何 某 印

農商務大臣何某殿

前書ノ通願出候ニ付進達候也

年月日

何府知事(北海道廳長官)何某印

第二登録商標ノ改正兼用又ハ轉用登録ヲ願出ルトキ

登録商標改正(兼用轉用)登録願

一何年何月何日附第何號登録證

一第何種何品 又ハ 何々品ニ用フル商標

前記ノ商標ヲ自今別紙明細書ニ記載ノ通改正(商標登録願手続第十一條第何種何品 又ハ 何々品ニ兼用又ハ轉用)致度右ニ付商標條例ニ相觸レ候儀無之段確信致候間御登録ノ上證書御下付相成度此段奉願候也

何府(北海道)何郡何町何番地 寄留

此處ニ成規ニ從ヒ印紙ヲ貼用スヘシ

本貨族籍

何業

年月日

何 某 印

又ハ

何府(北海道)何郡何町何番地

何業

何 會 社(組) 印

組長

本貨族籍

何 某 印

農商務大臣何某殿

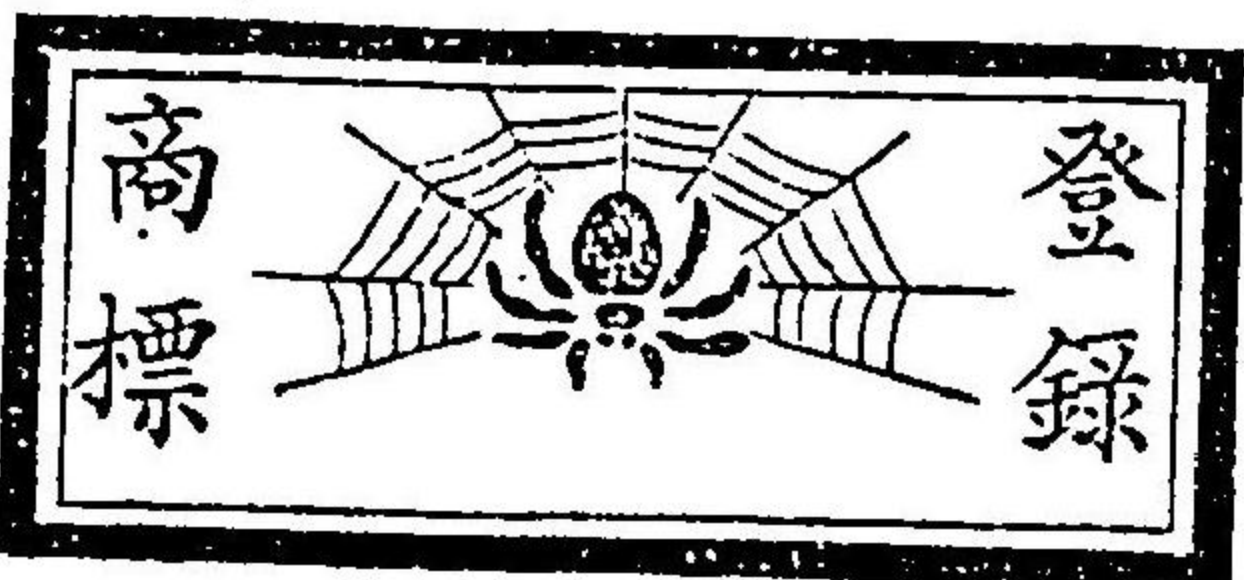
前書ノ通願出候ニ付進達候也

年月日

何府知事(北海道廳長官)何某印

第三甲一箇人ヨリ新ニ商標ノ登録ヲ願出テ又ハ登録ノ改正兼用若クハ轉用登録ヲ願出ルル片

商 標 見 本



明細書 商標見本ハ明細書ニ附スル外ニ三枚ヲ出ス可シ

此處ニハ商標全部ノ眞形ヲ模寫シ又ハ印刷シ又ハ模寫若クハ印刷セルモノヲ貼附ス可シ但シ商標ヲ貼附シタルトキハ其商標ト本紙トニ掛ケテ捺印ス可シ

一此商標ハ子母線ヲ以テ橫長方形ノ欄ヲ設ケ其正中ニ蠅ノ巢中ニ栖メル圖ヲ畫キ其右側ニ楷書ニテ登録左側ニ商標ト記シタル者ニ有之候 本項ニハ商標全部ノ構造ヲ遺漏ナク明瞭ニ記ス可シ
一此商標ノ要部ハ蠅ノ巢中ニ栖メル圖ニ有之候

第十四類 勸業

一此商標ヲ用ヒ候物品ハ商標登録願手續第十一條第三十種ノ絹織物ニ有之候 本項ニハ藥劑ノ如キ其品目夥多ニ得サレ然ラサルモノハ逐一其品名ヲ記ス可シ

一此商標ハ厚紙ニ印刷シ製品絹織物ニ結附相用候 本項ニ用ヒ方ヲ可成丈 詳細ニ記ス可シ

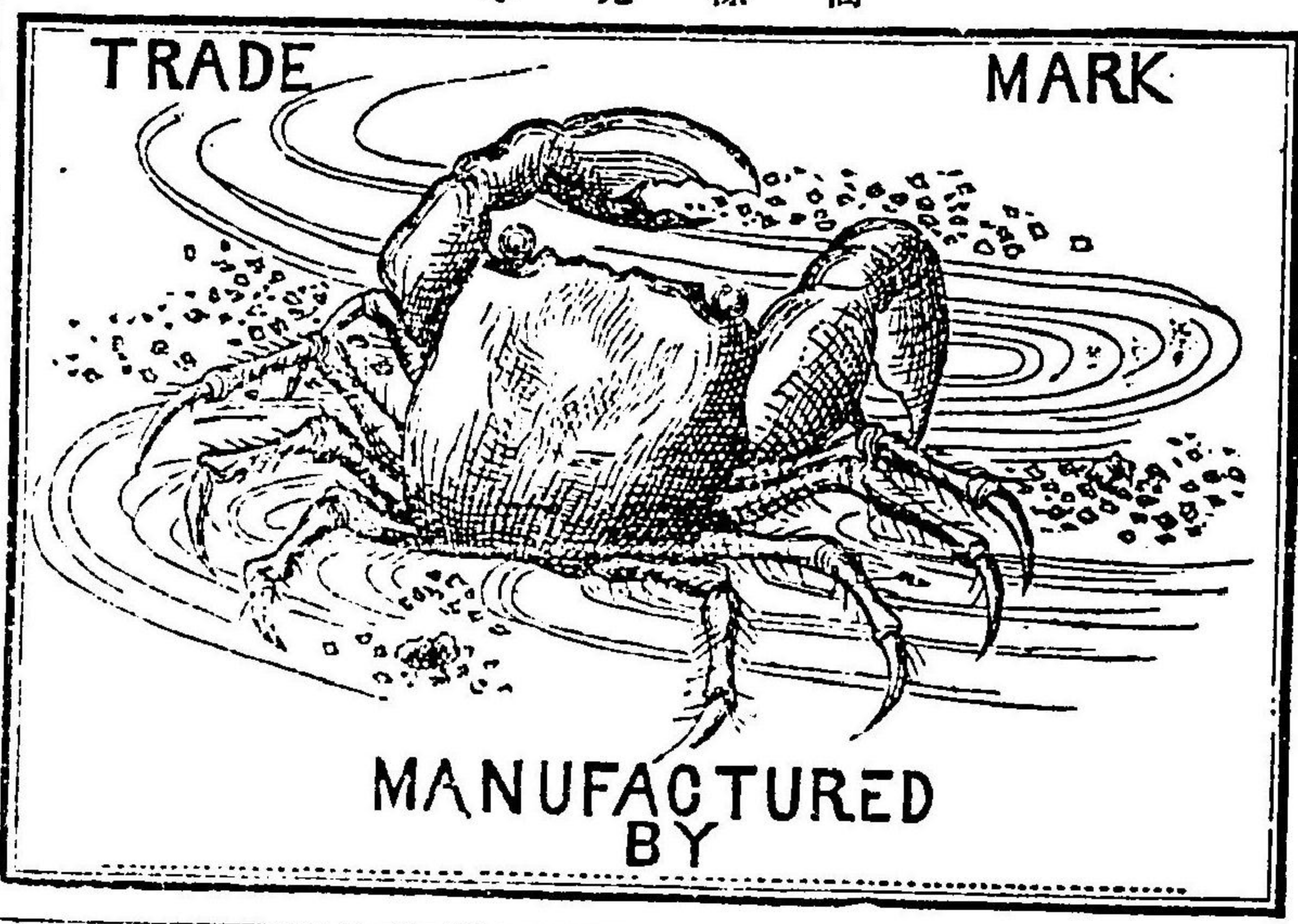
右之通相違無之候也

何府(北海道)何郡何町何番地寄留
本貨族籍
何業
何 某 印

第三シ會社又ハ組合ヨリ新ニ商標ノ登録ヲ願出テ又ハ登録商標ノ改正兼用若クハ轉用登録ヲ願出ルルハ

明細書 商標見本ハ明細書ニ附ス
ル外ニ三枚ヲ出ス可シ

本 見 標 商



何業
何 會 社(組)
組長
本貨族籍
何 某 印

第四 登録商標ノ讓與登
録ヲ願出ルトキ

登録商標讓與登録願

一何年何月何日付第何號登録證
一第何種何品 又ハ何々品ニ用フル商標
前記ノ商標ヲ令般何某 任所本貨族籍業名ヲ記スヘシ若シ
ハ組合ノ所在地業名及ヒ其社 會社又ハ組合ナルトキハ其會社又
長又ハ組長ノ姓名ヲ記スヘシ へ營業上ノ仕做ト共ニ讓與
致度候間其旨御登録相成度依テ約定書本書相添此段奉願
候也

何府(北海道)何郡何町何番地寄留
本貨族籍

一此商標ヲ用ヒ候物品ハ商標登録願手續第十一條第二十
六種ノ生絲ニ有之候 本項ニハ藥劑ノ如キ其品目夥多ニ
得サレ然ラサルモノハ逐一其品名ヲ記スヘシ
一此商標ハ西洋紙ニ印刷シ商品生絲ノ帶紙ニ貼附相用候
本項ニハ商標ノ用ヒ方ヲ
可成丈詳細ニ記ス可シ
右之通相違無之候也

何府(北海道)何郡何町何番地寄留

年月日 讓主 何 某 印
 又ハ 何府(北海道)何郡何町何番地
 何業
 何會社(組) 社印
 社長
 本貨族籍
 讓主 何 某 印
 農商務大臣何某殿
 前書之通願出候ニ付進達候也
 年月日 何府知事(北海道廳長官)何某印

前記ノ商標ヲ今般何某(住所本貨族籍)名ヲモ記スヘシト共同營業致候ニ付同人ハ分與致度候間其旨御登錄相成度依テ約定書本書相添此段奉願候也
 何府(北海道)何郡何町何番地 居住
 本貨族籍
 何業
 讓主 何 某 印
 年月日 農商務大臣何某殿
 前書之通願出候ニ付進達候也
 年月日 何府知事(北海道廳長官)何某印

第五 登錄商標ノ分與登
 錄ヲ願出ルトキ
 登錄商標分與登錄願
 一何年何月何日付第何號登錄證
 一第何種何品又ハ何々品ニ用フル商標

第六 登錄證ノ再渡
 ヲ願出ルトキ
 商標登錄證紛失(燒失流失等)ニ付再渡願
 一何年何月何日付第何號登錄證
 一何種何品又ハ何々品ニ用フル商標
 前記ノ商標ハ私(當會社當組)所有ニ有之候處其登錄證明治何年何月何日何地ニ於テ何々ノ際紛失(又ハ燒失流失
 此處ニ從ヒ印紙ヲ貼用スヘシ
 此處ニ從ヒ印紙ヲ貼用スヘシ

等其始末ヲ記スヘシ候ニ付再渡相成度此段奉願候也
 何府(北海道)何郡何町何番地 居住
 本貨族籍
 何業
 何 某 印
 又ハ 何府(北海道)何郡何町何番地
 何業
 何會社(組) 社印
 社長
 本貨族籍
 何 某 印
 農商務大臣何某殿
 前書之通願出候ニ付進達候也
 年月日 何府知事(北海道廳長官)何某印

登錄商標續用登錄願
 一何年何月何日附第何號登錄證
 一第何種何品又ハ何々品ニ用フル商標
 前記ノ商標ハ私(當會社當組)所有ニ有之候處來ル明治何年何月何日ニテ專用年限相滿候得共其後モ尚從前之通願用致度ニ付更ニ御登錄相成度此段奉願候也
 何府(北海道)何郡何町何番地 居住
 本貨族籍
 何業
 何 某 印
 又ハ 何府(北海道)何郡何町何番地
 何業
 何會社(組) 社印
 社長
 本貨族籍
 何 某 印
 農商務大臣何某殿

第七 登錄商標ノ續用登
 錄ヲ願出ルトキ

前書ノ通願出候ニ付進達候也

年月日 何府知事(北海道廳長官)何某印

第八 商標登錄願人他人ニ代理ヲ委任シタルトキ

代人御届

一 明治何年何月何日附商標登錄願
右願ニ關スル事件ニ付何某(住所本實族籍ヲモ記ス可シ)ヲ以テ代人ト相定メ候條此段御届申上候也

何府(北海道)何郡何町何番地 居住
本實族籍 何業

年月日 願人 何 某 印

農商務大臣何某殿

前書ノ通届出候ニ付進達候也

年月日 何府知事(北海道廳長官)何某印

第九 商標登錄願人其登錄ヲ開届ク可キ旨ノ通知ヲ得テ其商標ノ木版又ハ鉛版ヲ專賣特許局ヘ差出ストキ

商標印版差出御届

一 明治何年何月何日附

一 商標(登錄商標改正兼用又ハ轉用)登錄願

右願御届可相成旨明治何年何月何日附ヲ以テ御通知相成候ニ付其商標ノ木版本日(内國通運會社ニ托シ)差出候間此段御届申上候也

何府(北海道)何郡何町何番地 居住
本實族籍 何業

年月日 又ハ 何府(北海道)何郡何町何番地 居住

何業

何會社(租)社印

社長

本實族籍 何 某 印

農商務省專賣特許局長何某殿

附言右印版ハ可成大サ曲尺方壹寸八分以内ナルヲ要ス尤商標ノ圖形ニ依リ此大サニテ不都合ナルトキハ之ヲ超ユルモ妨ケナシト雖モ必ス長サ七寸幅五寸ニ過キササルヲ要ス又版ノ厚サハ如何ナル場合ニ於テモ活字ノ高サ即チ曲尺七分六厘ヨリ増減セサルヲ要ス

第六十八 橫濱正金銀行條例ヲ頒布ス 二十年七月七日布告 勅令第二十九號

朕橫濱正金銀行條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十年七月六日

内閣總理大臣伯爵伊藤博文 大藏大臣伯爵松方正義

勅令第二十九號

橫濱正金銀行條例

第一條 橫濱正金銀行ハ有限責任ニシテ其負債ニ對シテ株主ノ負擔スヘキ義務ハ株金ニ止マルモノトス

第二條 橫濱正金銀行ハ本店ヲ橫濱ニ設置ス又内外國ニ於テ貿易上要用ナル地ニ支店又ハ出張所ヲ設置シ又他ノ銀行ト「コレスポンデンス」ヲ締約スルコトヲ得但支店出張所ヲ設置若クハ廢止シ又ハ外國銀行ト「コレスポンデンス」ヲ締約若クハ解約スルトキハ其事由ヲ大藏大臣ニ具狀シテ許可ヲ受ケヘシ

- 第三條 橫濱正金銀行ノ營業年限ハ開業ノ日即チ明治十三年二月二十八日ヨリ滿二十箇年トス但株主總會ノ決議ニ依リ營業ノ延期ヲ請願スルコトヲ得
- 第四條 橫濱正金銀行ノ資本金ハ六百萬圓ト定メ之ヲ六萬株ニ分チ一株ヲ百圓トス但株主總會ノ決議ニ依リ資本金ノ増減ヲ請願スルコトヲ得
- 第五條 橫濱正金銀行ノ株式ハ日本人ノ外賣買讓與スルコトヲ許サス
- 第六條 橫濱正金銀行ノ株券ハ記名券ニシテ定款ニ從ヒ賣買讓與スルコトヲ得
- 第七條 橫濱正金銀行ノ營業ハ左ノ如シ
 - 第一 外國ノ爲替及荷爲替
 - 第二 內國ノ爲替及荷爲替
 - 第三 貸付
 - 第四 諸預金及保護預
 - 第五 爲替手形約束手形其他諸證券ノ割引又ハ其代金取立
 - 第六 貨幣ノ交換
- 第八條 橫濱正金銀行ハ營業ノ都合ニ依リ公債證書地金銀又ハ外國貨幣ヲ買入レ又ハ賣拂フコトヲ得
- 第九條 橫濱正金銀行ハ政府ノ命令ニ依リ外國ニ關スル公債及官金ノ取扱ヲ爲スコトアルヘシ

- 第十條 橫濱正金銀行ハ第七條第八條及第九條ニ記載スル事業ノ外他ノ營業ヲ爲スコトヲ許サス
- 第十一條 橫濱正金銀行ハ左ノ場合ヲ除クノ外不動産株券其他ノ物件ヲ買取り又ハ引受クルコトヲ得ス
 - 第一 銀行營業ノ爲メ地所家屋ノ必要アルトキ
 - 第二 貸金返済ノ爲メ負債者ヨリ之ヲ引渡シ又ハ賣却スルトキ
 - 第三 貸金ノ抵當ニシテ裁判上公賣ニ付シタルトキ
- 第十二條 橫濱正金銀行ハ本行ノ株券ヲ抵當ニ取り又ハ之ヲ買戻スヘカラス但負債者其辨償ヲ怠リテ他ニ相當ノ抵當ナク若クハ返済ノ道ナキ場合ニ於テ之ヲ抵當ニ取り又ハ引受クルハ此限ニ在ラス
- 第十三條 第十一條第二項第三項及第十二條ノ場合ニ於テ不動産株券其他ノ物件ヲ引受ケシトキハ必ス十箇月以內ニ之ヲ賣却スヘシ但賣却代價不相當ト認メタルトキハ其事實ヲ大藏大臣ニ具申シ延期ヲ請フコトヲ得
- 第十四條 橫濱正金銀行ハ權利者ノ請求次第ニ支拂フヘキ諸預金ニ對シ其四分ノ一以上ニ當ル準備金ヲ備ヘ置クヘシ
- 第十五條 橫濱正金銀行取締役ハ五人以上トシ株主總會ニ於テ其人員ヲ定メ五十株以上ヲ所有スル株主中ニ就キ之ヲ選舉シ其任期ヲ一年トス但滿期ニ當リ復選スルモ妨ナキモノ

トス

第十六條 頭取ハ取締役ニ於テ之ヲ互選シ大藏大臣ノ認可ヲ受クヘシ但大藏大臣ニ於テ必要ト思考スルトキハ特ニ日本銀行副總裁ヲシテ横濱正金銀行頭取ヲ兼ネシメ又ハ横濱正金銀行頭取ヲシテ日本銀行理事ヲ兼テシムルコトアルヘシ

銀行事務ノ都合ニ依リ取締役ニ於テ副頭取一人ヲ互選スルコトヲ得但其職權ハ頭取事故アルトキ之ヲ代理スルニ止マルモノトス

頭取取締役ノ職權及責任ハ定款ヲ以テ定ムヘシ

第十七條 横濱正金銀行ハ毎年二回定式株主總會ヲ開キ定款ニ定メタル事項ヲ決定スヘシ又臨時ノ事件ヲ議スル爲メ何時ニテモ臨時總會ヲ開クコトヲ得

株主總會ニ出席スル者ハ會期六十日以前ヨリ株主タル者ニ限ルヘシ

第十八條 每半季利益金ヲ配當スルトキハ豫メ其割合ヲ大藏大臣ニ具申シテ認可ヲ受クヘシ

第十九條 每半季純益金總額ノ十分ノ一以上ヲ積立テ左ノ目的ニ供スヘシ

第一 資本金ノ損失ヲ補フコト

第二 配當金ノ不足ヲ補フコト

第二十條 貸金返済ノ期限ヲ過キ到底損失ニ歸スヘキモノト認ムルトキハ其損失ト見積リタル金額ニ對シテ準備金ヲ積立ツヘシ

第二十一條

横濱正金銀行營業上ニ於テ損失ヲ生シ資本金ノ半額以上ヲ減少シタルトキ又ハ此條例ニ背戾シタル所爲アリテ大藏大臣ニ於テ必要ト思考スルトキハ其營業ヲ停止シ又ハ解散ヲ命スルコトヲ得

又株主總會ノ決議ニ依リ政府ノ許可ヲ受クルニ於テハ任意ノ解散ヲ爲スコトヲ得但此總會ニ於テハ株主總員二分ノ一以上ニシテ總株金二分ノ一以上ニ當ル株主出席シ其議決權ノ三分ノ二以上ニ依テ決議スルモノトス

第二十二條 横濱正金銀行ニ於テ條例定款ニ背戾スル所爲アルトキ又ハ大藏大臣ニ於テ不利ナリト認ムル事件アルトキハ大藏大臣之ヲ制止スルコトヲ得

第二十三條 大藏大臣ハ時々官吏ヲ派遣シテ横濱正金銀行ノ業務及財産ノ實況ヲ検査セシムヘシ

第二十四條 横濱正金銀行ハ大藏大臣ノ命令ニ從ヒ其營業上ニ係ル計算報告書ヲ差出スヘシ

第二十五條 横濱正金銀行本支店及出張所ニ於テハ重要ノ文書ニ其本支店若クハ出張所ノ印ヲ捺捺スヘシ但横文ヲ以テ發スル文書ニハ之ヲ捺捺スルコトヲ要セス

第二十六條 横濱正金銀行ハ明治二十年七月十日ヨリ此條例ヲ遵奉シ株主總會ノ決議ヲ以テ更ニ定款ヲ制定シテ大藏大臣ノ認可ヲ受クヘシ但定款ノ改正増補ヲ要スルトキハ亦本條ニ準ス

第二十七條 橫濱正金銀行ノ頭取取締役其他ノ役員ニシテ此條例ヲ犯シタル者ハ五十圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十八條 此條例ノ改正ヲ要スルコトアルトキハ二箇月以前ニ之ヲ公布スヘシ

○銀行紙幣抵當金祿公債證書利札下渡方 二十年五月二十八日 大藏省訓令第三十五號 北海道廳府縣
金祿公債證書明治二十年以降ノ利札ハ同十八年大藏省第六十三號達ニ據リ本年五月其應ニ於テ貼付割印シテ下渡スヘキノ處各銀行紙幣發行ノ抵當トシテ大藏省金庫局及同局大阪出張所ニ預ケコレアル分ハ特ニ同局又ハ同出張所ニ於テ貼付割印スヘキニ由リ其應ニ於テハ利札ヲ證書所有者ニ下渡スヘシ

第六十九 取引所條例ヲ頒ツ 二十年五月十四日 布告

朕取引所條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十年五月十四日

内閣總理大臣 伯耆伊藤博文
農商務大臣 伯爵山縣有朋

勅令第十一號

取引所條例

第一章 總則

第一條 取引所ハ商業上ノ取引ヲ便利ニシ市價ヲ平準ニシ商業上公正直實ノ風ヲ養成シ商業上ノ慣習ヲ統一維持シ須要ノ報道ヲ傳播シ及取引所會員ノ間ニ生スル爭論ヲ仲裁スル

ヲ以テ目的トシ商業上便宜必要ノ地方ニ於テ其地方ノ商人農商務大臣ノ特許ヲ得テ設立スルモノトス

第二條 取引所ニ於テ賣買取引スヘキ物件ハ重要ノ商品公債證書證券株式等ニシテ創立員又ハ取引所ノ出願ニ依リ農商務大臣ノ認可シタルモノニ限ル

第三條 取引所ヲ設立スルニハ東京大阪ニ於テハ三十人以上其他ノ地方ニ於テハ十五人以上會員タルヲ得ヘキ者創立員トナリ地方官廳ヲ經テ農商務大臣ニ願出ヘシ

第四條 取引所ハ其賣買取引スヘキ物件ニ就キ之ヲ各部ニ分チ又ハ數物件ヲ合セテ一部トシ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第五條 取引所ノ創立ニ係ル費用及之ヲ維持スルニ必要ナル費用ハ會員之ヲ負擔スヘシ 取引所ハ前項ノ費用ヲ補充スル爲メ賣買取引ニ就キ相當ノ手数料ヲ領收スルコトヲ得其手数料ノ割合ハ役員之ヲ議定シテ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ 前項ノ手数料ハ之ヲ分配スルヲ得サルモノトス

第六條 農商務大臣ハ取引所ヲ監督シ地方長官ヲシテ之ヲ監視セシメ其賣買取引法律命令ニ違反シ或ハ公衆ノ安寧ニ妨害アリト認ムルトキハ其全部又ハ幾部ヲ停止若クハ禁止シ其賣買取引ニ關涉シタル役員ヲ罷免シ仲買人ノ營業ヲ停止若クハ禁止シ及會員ヲ一時若クハ永久ニ除名スルコトヲ得

第七條 農商務大臣ハ必要ト認ムルトキハ取引所ノ規約ヲ改正セシメ又ハ決議及處分ヲ停

止禁止若クハ取消スコトヲ得

第八條 農商務大臣ハ必要ト認ムルトキハ取引所ニ對シ委員ヲ命シ其一般ノ事務ヲ監察シ取引所ニ關スル法律命令ノ施行ヲ監視シ且其役員ノ集會ヲ整理セシムルコトヲ得

第九條 取引所ハ毎日一定ノ時間ニ於テ商業上ノ集會ヲ開キ其時間外ハ賣買取引ヲ爲スコトヲ許サス

第十條 本條例施行ニ關スル細則ハ農商務大臣之ヲ定ム

第十一條 取引所ノ賣買取引ニ關スル稅則ハ別ニ之ヲ定ム

第二章 會員

第十二條 會員タルコトヲ得ル者ハ其取引所所在ノ地ニ居住スル商人ニシテ會員タルノ義務ヲ盡スコトヲ得ル者ニ限ル會員ニ非サレハ取引所ニ集會シ賣買取引ヲ爲スコトヲ得ス

第十三條 會員タル者ハ身元保證金三百圓以上二千圓以下ヲ差出スコトヲ要ス

第十四條 左ニ掲クル者ハ會員タルコトヲ得ス

- 一 婦女及未丁年者
- 一 但婦女ノ代理人未丁年者ノ後見人ハ會員タルコトヲ得
- 一 公權剝奪若クハ停止中ノ者
- 一 身代限ノ處分ヲ受ケ未タ辨償ノ義務ヲ終ヘサル者
- 一 第六條第十五條ニ依リ除名セラレタル者

第十五條 會員ニシテ不當ノ舉動ヲ爲シ爲メニ取引所内ニ於テ紛擾爭論ヲ醸スカ法律命令及規約ニ違反シタル不正ノ契約ヲ爲スカ又ハ故意ニ其商業上ノ責任ヲ果サハルトキハ役員ノ決議ヲ以テ百圓以内ノ過怠金ヲ科シ一時若クハ永久ニ之ヲ除名スルコトヲ得

第三章 役員

第十六條 取引所ニ役員ヲ置クコト左ノ如シ

- 一 理事長
- 一 理事
- 一 常置委員

第十七條 役員ハ一箇年ヲ以テ任期トシ會員中ヨリ投票ヲ以テ選舉シ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ但理事長及理事ハ會員ノ決議ニ由リ會員外ヨリ選舉スルコトヲ得

役員任期中ト雖モ其職務ヲ盡サハルカ又ハ不正ノ所爲アルトキハ會員ノ決議ヲ以テ農商務大臣ノ認可ヲ受ケ退職セシムルコトヲ得

第十八條 理事長及理事ハ取引所ニ於テ賣買取引ヲ爲スコトヲ許サス

第十九條 役員ハ法律命令ノ範圍内ニ於テ農商務大臣ノ認可ヲ經其業務ニ關シ規約ヲ定ムルコトヲ得

第四章 仲買人

第二十條 取引所ニ仲買人ヲ置ク仲買人ハ他人ノ委託ニ由リ賣買取引ヲ爲スコトヲ以テ業トシ

自己ノ爲メニ賣買取引ヲ爲スコトヲ得ス

第二十一條 仲買人ノ營業ハ一部ニ限リ數部ヲ兼ヌルコトヲ得ス

第二十二條 仲買人ヲラント欲スル者ハ農商務大臣ノ免許ヲ受クヘシ之ヲ受ケタルトキハ
免許料金五十圓ヲ納ムヘシ

第二十三條 仲買人タルヘキ者ハ會員ニシテ營業保證金一千圓以上二萬圓以下ヲ差出スコ
トヲ要ス

第二十四條 仲買人ニシテ第十五條ニ掲クル所爲アルトキハ役員ノ決議ヲ以テ二百圓以內
ノ過怠金ヲ科シ其營業ヲ停止若クハ禁止スルコトヲ得但營業ヲ禁止スルトキハ農商務大
臣ノ認可ヲ受クヘシ

第二十五條 仲買人ハ自ら取引所ノ賣買取引ニ從事スヘシ代理人又ハ手代ヲ使用スルコト
ヲ得ス

第二十六條 仲買人口錢ノ額ハ役員會議ニ於テ議決シ農商務大臣ノ認可ヲ得テ之ヲ定ム

第五章 賣買取引

第二十七條 取引所ニ於テ爲ス所ノ賣買取引ハ直取引及定期取引ノ二様トス其方法ハ農商
務省令及取引所ノ規約ヲ以テ之ヲ定ム

第二十八條 取引所ニ於テ賣買取引スヘキ物件ノ種類ニヨリ農商務大臣ハ取引所外ニ於テ
取引所ノ賣買取引ト同一又ハ類似ノ方法ヲ以テ賣買取引ヲ爲スコトヲ禁止スルコトヲ得

第二十九條 取引所ニ於テ賣買取引シタル物件ノ相場ヲ以テ公定相場トス

第六章 仲裁

第二十條 取引所ニ於テ爲シタル賣買取引ニ關シ爭論ヲ生スルトキハ役員ニ申告シテ仲裁
ヲ受クヘシ但代理人ヲ出スコトヲ得ス

第二十一條 前條ノ場合ニ於テハ常置委員ノ多數決ヲ以テ其爭論ヲ仲裁スヘシ

第二十二條 法律上ノ見解ニ關スルモノヲ除クノ外前條ノ仲裁ニ對シテ裁判所ニ上訴スル
コトヲ得ス

第七章 罰則

第二十三條 第五條第三項第九條第十八條第二十條及第二十五條ヲ犯シ又ハ第二十七條ニ
依リ農商務省令ヲ以テ定メタル賣買取引法ニ違ヒ賣買取引ヲ爲シタル者ハ二十圓以上五
百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十四條 第二十八條ニ依リ農商務大臣ノ禁止シタル賣買取引ヲ爲シ又ハ第二十九條ノ
公定相場ヲ偽リタル者ハ十圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス

附則

本條例ハ明治二十年九月一日ヨリ施行ス但米商會所條例及株式取引所條例ハ米商會所及株
式取引所ノ營業滿期ヲ待ツテ廢止スルモノトス

○取引所條例施行細則ヲ定ム 二十年六月一日 農商務省令第三號

本年五月勅令第十一號取引所條例施行細則左ノ通相定ム
取引所條例施行細則

第一章 總則

- 第一條 取引所ヲ設立セントスル者ハ設立願書ニ左ノ事項ヲ詳記シ創立員各自署名調印シ地方官廳ニ差出スヘシ
 - 一 取引所ノ名稱及位置
 - 二 設立ヲ要スル事由
 - 三 取引所ノ部分ケ及其各部ニ於テ賣買取引スヘキ物件ノ種類
 - 四 會員タルヲ得ヘキ商人ノ概數及其差入ルヘキ身元保證金額
 - 五 各部仲買人ノ差入ルヘキ營業保證金額
 - 六 賣買取引スヘキ物件集散ノ實況及將來賣買取引高ノ目算
 - 七 取引所設立ニ關スル費用ノ豫算額及徵收ノ方法
- 第二條 地方長官前條ノ設立願書ヲ受ケタルトキハ其要否ヲ考ヘ創立員ノ身元ヲ糺シ意見ヲ具シ農商務省ニ進達スヘシ
- 第三條 農商務大臣取引所ノ設立ヲ特許シタルトキハ特許狀ヲ下付スヘシ
- 第四條 取引所設立ノ特許ヲ得タルトキハ創立員ニ於テ其創立員中ヨリ委員ヲ撰定シ其氏名ヲ農商務省ニ届出ツヘシ

- 委員ハ假ニ役員ノ事務ヲ執行シ取引所設立ノ特許ヲ得タル旨ヲ官報又ハ其地方重モナル新聞紙ヲ以テ廣告シ取引所ヲ開クニ付必要ノ準備ヲ爲スヘシ
- 第五條 會員ノ員數第一條第四項概數ノ十分ノ一以上ニ達スルトキハ總會ヲ開キ役員ヲ選舉スヘシ
- 役員ハ取引所ノ業務ヲ經理スル爲メ規約ヲ作り農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ
- 第六條 規約ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ但自餘ノ事項ト雖モ必要ト認ムルモノハ掲載スルコトヲ得
 - 一 取引所ノ名稱及位置
 - 二 取引所各部ノ名稱
 - 三 會員入退及除名ニ關スル規程
 - 四 會員ノ權利義務
 - 五 會員組合ニ關スル規程
 - 六 會員ノ手代入場ニ關スル規程
 - 七 役員ノ員數及其選舉ノ方法
 - 八 役員ノ職務章程
 - 九 仲買人開廢業及營業停止禁止ニ關スル規程
 - 十 仲買人組合ニ關スル規程

- 十一 仲買人ノ補助員入場ニ關スル規程
- 十二 仲買口錢ニ關スル規程
- 十三 身元保證金及營業保證金ニ關スル規程
- 十四 賣買取引スヘキ物件ノ種類
- 十五 新株式賣買舉行ニ關スル規程
- 十六 直取引及定期取引ニ關スル規程
- 十七 賣買取引受託ニ關スル規程
- 十八 證據金ニ關スル規程
- 十九 賣買取引ノ結了ニ關スル規程
- 二十 市場整理ニ關スル規程
- 二十一 休暇日及市場開閉時刻ノ定限
- 二十二 公定相場ニ關スル規程
- 二十三 會議ニ關スル規程
- 二十四 帳簿及記錄ニ關スル規程
- 二十五 取引所ノ經費收支ニ關スル規程
- 二十六 仲裁ニ關スル規程
- 二十七 違約處分ニ關スル規程

第七條 役員規約ノ認可ヲ得タルトキハ農商務省ニ届出ノ上賣買取引ヲ開始スヘキモノトス

第八條 取引所ノ位置ヲ移轉セントスルトキハ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第九條 取引所ニ關スル一切ノ文書ハ所名ヲ署シ役員ノ印章ヲ捺スヘシ但願同届其他重要ノ文書ハ理事長之ニ署名調印スヘシ

第二章 會員

第十條 會員タラント欲スルモノハ加入申込書ニ履歷書ヲ添付シ役員ニ差出スヘシ役員ハ其履歷ヲ糺シ身元保證金ヲ差入レシメタル上加入ヲ承諾シ會員名簿ニ記名調印セシメ會員ノ證ヲ交付スヘシ

第十一條 婦女ノ代理人若クハ未丁年者ノ後見人會員タラント欲スルトキハ加入申込書ニ履歷書及委任狀若クハ戸長ノ證書ヲ添付シ役員ニ差出シ其承諾ヲ請フヘシ但條例第十四條ニ觸ル、モノハ代理人タルコトヲ得ス

第十二條 商社ノ名義ヲ以テ會員タラント欲スルトキハ代表人ヲ定メ加入申込書ニ商社ノ規約及代表人ノ履歷書ヲ添付シ役員ニ差出シ其承諾ヲ請フヘシ但條例第十四條ニ觸ル、モノハ代表人タルコトヲ得ス

第十三條 會員退去セントスルトキハ其旨ヲ役員ニ申出ツヘシ役員ハ十日間其旨ヲ市場ニ揭示シ賣買取引其他計算上關係ナキヲ認メタル上承諾ヲ與ヘ身元保證金ヲ返付スヘシ

第十四類 勸業

第十四條 會員ハ役員ノ承諾ヲ得手代ヲシテ入場セシムルコトヲ得
第十五條 會員ハ適宜人員ヲ定メテ組合ヲ爲シ組合中ヨリ委員一名ヲ選定シ役員ニ届置クヘシ

委員ハ其組合會員ノ代議人トナリ取引所總會ニ列スルモノトス

第三章 仲買人

第十六條 仲買人タランコトヲ欲スルモノハ營業願書ヲ役員ニ差出スヘシ役員ハ役員會ヲ開キ過半数ノ同意ヲ得タル上地方官廳ヲ經由シテ其願書ヲ農商務省ニ進達スヘシ
第十七條 農商務大臣ニ於テ仲買人タルコトヲ免許スルトキハ役員ヲ經テ銀章ヲ下付スヘシ役員ハ免許料及營業保證金ヲ差出サシメタル上之ヲ本人ニ交付スヘシ

第十八條 仲買人ハ取引所ニ於テ賣買立會中銀章ヲ佩用スヘシ
第十九條 仲買人ハ自己ノ名義ヲ以テ賣買約定ヲ爲シ其賣買取引上一切ノ責任ヲ負フヘシ

第二十條 仲買人ハ其部内同業者中適宜人員ヲ定メテ組合ヲ爲シ組長一名ヲ撰定シ役員ノ認可ヲ受ケ組合中一切ノ取締ヲ爲サシムヘシ但組長ノ氏名ハ役員ヨリ農商務省ニ届出ヘシ
第二十一條 仲買人ハ其部ノ名稱ヲ冠シ某部仲買人ト稱スヘシ

第二十二條 仲買人ハ役員ノ承諾ヲ得一名若クハ二名ノ補助員ヲシテ取引所ニ於テ其業務ヲ補助セシムルコトヲ得但補助員ハ賣買契約ヲ爲シ又ハ之ヲ執行スルコトヲ得ス

第二十三條 仲買人廢業セント欲スルトキハ其届書ヲ役員ニ差出スヘシ役員ハ十日間其旨ヲ市場ニ揭示シ賣買取引其他計算上關係ナキヲ認メタル上營業保證金ヲ返付シ地方官廳ヲ經由シテ其届書ヲ農商務省ニ進達スヘシ
第二十四條 仲買人其資格ヲ失フタルトキハ本人又ハ相續人若クハ親族ヨリ役員ヲ經由シテ銀章ヲ農商務省ニ返納スヘシ

第二十五條 仲買人銀章ヲ紛失シタルトキハ其事由ヲ詳具シ役員ノ保證ヲ得テ更ニ銀章ノ下付ヲ請フヘシ但此場合ニ於テハ手數料トシテ金拾圓ヲ上納スヘシ
第四章 身元保證金及營業保證金

第二十六條 身元保證金及營業保證金ハ取引所ニ於テ其額ヲ定メ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ農商務大臣ハ時宜ニ由リ其増額ヲ命スルコトアルヘシ
營業保證金ハ各部ニ由リ其額ヲ定ムヘキモノトス

第二十七條 身元保證金及營業保證金ハ左ニ掲クル證書ヲ以テ代用スルコトヲ得但身元保證金ノ預リ證書ハ營業保證金中ニ合算スルコトヲ得
現金ヲ以テ差入レントスルトキハ役員ノ指命スル銀行ニ預ケ入レ其預リ證書ヲ以テ役員ニ差入ルヘシ

一 預金局ノ預リ證書

一 公債證書

一 政府ノ保證アル會社ノ株券

(公債證書ハ農商務大臣株券ハ役員ノ指定スル價格ニ據ルヘシ)

第二十八條 身元保證金及營業保證金ヲ差出シタルトキハ役員ハ預リ證書ヲ付與スヘシ其證書ハ質入書入其他抵當ト爲スコトヲ許サス

第二十九條 身元保證金ニ缺額ヲ生シタルトキハ之ヲ補填スルニアラサレハ會員タルノ權利ヲ失フモノトス又營業保證金ニ缺額ヲ生シタルトキハ之ヲ補填スルニアラサレハ仲買人ノ業ヲ營ムコトヲ許サス

第三十條 營業保證金ハ之ヲ差入タル仲買人ニ於テ賣買取引上ノ違約ヲ爲シタルトキ損害賠償ノ用ニ供スルモノトス
身元保證金ハ之ヲ差入タル會員ニ於テ其會員タルノ義務ヲ盡サハルトキ賠償ノ用ニ供スルモノトス

第三十一條 賣買取引上ヨリ生シタル損害ノ賠償ハ證據金及營業保證金ヲ以テ充テ猶ホ不足アルトキハ被害者ヨリ賠償ノ責ニ當ル本人ニ對シ追求スルヲ得

第五章 役員

第三十二條 理事長ハ理事ヲ率ヒテ取引所全部ノ事務ヲ總轄シ總會及役員會ノ議事ヲ整

理シ理事ノ分掌ヲ定メ所屬員ヲ任免シ及規約違反者ヲ處分スルノ權ヲ有シ取引所一切ノ事務ニ付其實ニ任スルモノトス

第三十三條 理事ハ指揮ヲ理事長ニ受ケ各部ノ事務ヲ分掌シ及部下ノ屬員ヲ指揮監督スルノ權ヲ有ス

第三十四條 常置委員ハ取引所全般ノ事務ニ付意見ヲ具シ理事長ヲ輔佐シ金錢ノ出納及他ノ諸役員ノ行爲ヲ監視スルノ權ヲ有ス

第三十五條 理事ハ理事長事故アルトキ其事務ヲ代理スルノ任アルモノトス

第三十六條 會員外ヨリ理事長及理事ヲ撰擧シ農商務大臣ノ認可ヲ請フトキハ其願書ニ履歷書ヲ添付スヘシ

會員外ヨリ撰擧シタル理事長及理事ハ會員同額ノ身元保證金ヲ役員ニ差出スヘシ

第六章 賣買取引法

第三十七條 役員ノ印章ハ其印鑑ヲ農商務省ニ届出ノ上使用スヘシ

第三十八條 取引所ニ於テ爲ス所ノ賣買取引ハ現物、見本品、銘柄ニ據リ賣買約定ヲ爲スヘキモノトス

第三十九條 直取引ハ現物、見本品又ハ銘柄ヲ以テ賣買約定ヲ爲スモノトス約定ヲ爲シタルトキハ賣買雙方ヨリ相手方ノ氏名、數量、直段等ヲ其部理事ニ届出テ取引所ノ帳簿ニ記入ヲ請ヒ五日以内ニ受渡ヲ爲スヘシ

第四十條 定期取引ハ見本品又ハ銘柄ニ據リ期日ヲ定メテ賣買約定ヲ爲スモノトス
 第四十一條 定期取引ノ約定ヲナシタルトキハ賣主ヨリ其記名ノ賣渡證書ヲ買主ニ交付スヘシ但賣買約定ノ高ニ應シ賣渡證書ヲ數葉ニ分割スルコトヲ得
 買受ケタルモノヲ他ヘ轉賣セントスルトキハ證書記名者ニ其旨ヲ通知シ證書記名者ニ於テ更ニ證據金ノ差入ヲ請求スルトキハ一定ノ證據金額内ニ於テ證書記名者ノ満足スル證據金ヲ差入レシムヘシ

第四十二條 定期取引ノ約定ヲナシタルトキハ賣買雙方ヨリ相手方ノ氏名、約定期日、數量及直段等ヲ詳記シタル書面ヲ以テ其部理事ニ届出テ取引所ノ帳簿ニ記入ヲ請フヘシ
 第四十三條 定期取引ノ約定ヲ鞏固ナラシメンカ爲メ賣買主ノ一方ニ於テ證據金ノ差入ヲ必要トスルトキハ相手方ニ其差入ヲ請求スルコトヲ得此場合ニ於テハ其請求者モ亦同額ノ證據金ヲ差入ルヘキモノトス

證據金ノ最上額ハ役員ニ於テ豫メ之ヲ定メ農商務省ニ届出ヘシ

第四十四條 定期取引ノ期限ハ役員之ヲ定メ農商務省ノ認可ヲ受クヘシ

第四十五條 賣買品ノ受渡ハ其部理事立會ノ上執行完結スヘシ

第四十六條 賣買品ノ受渡ハ制法又ハ特許ニ依リ成立シタル倉庫ノ預リ手形ヲ以テ其用ニ供スルコトヲ得

第七章 公定相場

第四十七條 公定相場ハ取引所ニ於テ日々賣買取引スル物件ノ種類ニ依リ左ノ種別ニ從ヒ直取引ト定期取引トヲ區畫シ役員之ヲ調定シ表ヲ作りテ市場ニ揭示スヘシ

寄付相場(賣買立會ノ最初ニ賣買取引シタル一口ノ直段ヲ云フ)

大引相場(賣買立會ノ最終ニ賣買取引シタル一口ノ直段ヲ云フ)

最昂相場(賣買立會中最モ高キ直段ヲ云フ)

最低相場(賣買立會中最モ低キ直段ヲ云フ)

平均相場(賣買立會中相場ノ異ナルモノヲ加ヘ更ニ其數ニテ除シタル直段ヲ云フ)

第八章 取引所經費

第四十八條 取引所ノ創立ニ係ル費用ヲ支辨スル爲メ一時負債ヲ起スコトヲ得此場合ニ於テハ償却ノ方法及年限ヲ定メ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

取引所ノ經費ヲ支辨スル爲メ賣買取引上ニ就キ手数料ヲ徵收スルノ外各會員ニ賦金ヲ課スルコトヲ得

取引所經費ノ豫算額及其賦課徵收ノ方法ハ總會ニ於テ之ヲ議定シ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第四十九條 取引所ノ經費ハ毎年兩度收支ノ決算ヲナシ會員一同ニ報告スヘシ

第九章 會議

第五十條 會議ヲ分テ總會役員會ノ二トナス

第十四類 勸業

第五十一條 總會ハ委員一同集會シ毎年二回之ヲ開クモノトス

第五十二條 總會ニ於テ議スヘキ事項ハ左ノ如シ

- 一 賣買取引上ノ利害得失ニ關スル事項
- 二 取引所經費ノ豫算額及賦課徵收ノ方法
- 三 取引所維持ニ關スル事項
- 四 役員ノ選舉

第五十三條 役員會ハ理事長理事及常置委員集會シテ之ヲ開ク其議スヘキ事項ハ左ノ如シ

- 一 取引所規約ノ改正
 - 二 仲買人ノ口錢額
 - 三 取引所事務ノ整理及賣買取引ノ便否
 - 四 金錢取扱ノ方法
 - 五 臨時必要ノ事項
- 第五十四條 總會ハ委員三分ノ一以上ノ請求又ハ理事長ノ意見若クハ常置委員ノ衆議ニ依リ臨時開會スルコトヲ得
- 第五十五條 總會ハ議員ノ半ニ滿タサレハ議事ヲ開クコトヲ得ス但急速ノ事件ハ此限ニアラス

第五十六條 會議ハ議員過半數ニ由テ決ス可否同數ナルトキハ議長ノ決スル所ニ依ル

第五十七條 會議ハ理事長之レカ議長トナルヘシ

但條例第十七條後項ノ場合ニ於テハ議員中ヨリ議長ヲ選舉スルコトヲ得

第五十八條 臨時總會ヲ開カントスルトキハ開會ニ先チ議件ヲ詳記シ農商務省ニ届出ヘシ農商務大臣ハ時宜ニ由リ開議ヲ差止メ又ハ中止スルコトアルヘシ

第十章 報告

第五十九條 役員ハ左ニ掲クル件々ヲ農商務省ニ報告スヘシ

- 一 毎日公定相場表
- 二 毎月賣買景况報告
- 三 每半季功程及計算報告
- 四 每半季會員入退報告

第六十條 取引所ニ於テ爲ス所ノ賣買取引上ニ異狀アルトキハ其時々役員ヨリ農商務省ニ報告スヘシ

第十一章 帳簿

第六十一條 役員會員及仲買人ハ必要ノ諸帳簿ヲ備ヘ名目用法ヲ農商務省ニ届出ヘシ其帳簿ハ記載ノ末日ヨリ滿五ヶ年間保存スヘシ

第六十二條 役員會員及仲買人ハ毎日取扱タル事項及金錢ノ出納ヲ帳簿ニ詳記スヘシ農

商務大臣ハ時宜ニ由リ帳簿ノ補正ヲ命シ又ハ記載ノ方法ヲ指示スルコトアルヘシ

第十二章 仲裁

第六十三條 仲裁ヲ請フ者アルトキハ理事長ニ於テ常置委員中ヨリ三名以上ノ掛員ヲ撰任シ理事長之カ議長トナリ仲裁ヲ爲スヘシ

仲裁ハ一定ノ期日及時間ニ於テ其實質ヲ審理シ之ヲ爲スモノトス

第六十四條 仲裁ヲ請フ者ハ口頭又ハ書面ヲ以テスルモ妨ケナシ但掛員ニ於テ必要ト認ムル場合ニ於テハ書面ヲ出サシムルコトヲ得

第六十五條 仲裁ヲ請フモノ其取調ヲ受クルトキハ自身出頭スヘシ止ヲ得サル事故アルトキニ限り會員ハ手代仲買人ハ補助員ヲ以テ代理タラシムルコトヲ得

第六十六條 仲裁ノ言渡ヲ爲ストキハ掛員一同其言渡書ニ記名調印スヘシ但細事ニ限り口頭ヲ以テ言渡スモ妨ケナシ

第六十七條 掛員必要ト認ムルトキハ會員及仲買人中ヨリ證據人ヲ召喚スルコトヲ得此場合ニ於テ召喚セラレタルモノハ理由ナク之ヲ辭スルコトヲ得ス

第六十八條 掛員ハ其仲裁ヲ爲シタル事件ヲ詳記シ之ヲ保存スヘシ

第六十九條 掛員ハ仲裁ニ關スル費用ヲ曲者ヨリ差出サシムルコトヲ得

第七十條 掛員ハ會員外ノ者ヲ以テ仲裁事件ノ顧問トナシ又ハ仲裁ノ席ニ參セシムルコトヲ得

第十三章 違犯處分

第七十一條 本則ニ違犯シタル者ハ條例ニ據リ處分セララル、モノ、外二圓以上二十五圓以下ノ罰金又ハ二日以上二十五日以下ノ禁錮ニ處ス

第七十一 郵便條例

○地方郵便局電信局便宜合併ヲ得セシム 十九年十一月十六日(同月十七日官報) 閣令第二十號

第一條 地方郵便局及電信分局ハ土地ノ情況ニ依リ便否ヲ斟酌シテ之ヲ合併シ其事務ヲ取扱ハシムルコトヲ得

第二條 郵便局及電信分局ヲ合併シタルトキハ郵便電信局ト稱シ局長ハ郵便電信局長、書記ハ郵便電信書記ト稱ス

第三條 郵便局及電信分局ヲ合併シタルトキ其局ノ等級ハ郵便局及電信分局ノ高キモノニ依ル

○郵便爲換細則中一章ヲ追加ス 十九年十二月八日 逓信省告示第百六號
明治十八年九月農商務省第二十號告示郵便爲替細則中左ノ一章ヲ追加シ明治二十年一月十六日ヨリ施行ス

第六章 爲替金渡濟通知

第三十七條 爲替差出人其爲替金ノ渡濟通知ヲ要スルトキハ豫メ振出局ニ之ヲ請求スヘシ

第三十八條 爲替金渡濟ノ通知ハ拂渡局ニ於テ爲替金ヲ拂渡ストキ通知書ニ受取人ノ證印ヲ取リ即日之ヲ差出人ニ送

第十四類 勸業

付スルモノトス

第三十九條 爲替金渡濟ノ通知料ハ爲替證書壹枚ニ付金貳錢トス

第四十條 通知料ハ郵便切手ヲ以テ納ムヘシ其切手ハ爲替願書又ハ小爲替原符ニ貼付スヘシ

但通知料ニ用ヒタル郵便切手ハ振出局ニ於テ消印シ納濟ノ証トス

第四十一條 爲替金返戻ノ場合ニ於テモ既納ノ通知料ハ還付セズ

第四十二條 通知料納濟ノ爲替ハ振出局ニ於テ其爲替證書(電信爲替ハ)ニ通知料納濟ノ印ヲ押捺シ交付スヘシ

第四十三條 受取人ハ通知料納濟ノ爲替ヲ受取トキ拂渡局ノ求メニ隨ヒ通知書ニ記名調印スヘシ又小爲替ニアリテハ

其差出人ノ宿所氏名ヲ陳述スヘシ

第四十四條 爲替金渡濟ノ通知ヲ脱漏シタルトキハ其通知料ヲ還付スヘシ

第四十五條 通知料還付ハ爲替振出ノ日ヨリ六箇月内ニ差出人ヨリ驛遞局長ニ請求スヘシ此期限ヲ過クルトキハ之ヲ還付セズ

○郵便爲替規定ヲ改正删除ス 十九年十二月二十三日

郵便小爲替規定左ノ通改正來ル二十年一月十六日ヨリ施行ス 逓信省告示第百十三號

但本規定改正施行前郵便切手ヲ以テ端金ニ充用タルモノハ尚現行規定ニ準シ取扱フモノトス

第一項 郵便小爲替證書一枚ノ金額ハ參圓以下トシ端數ハ厘位ヲ限リトス

但拾錢未満ノ端數ハ拾錢以上ノ金額ト各別ニ爲替證書ニ記載スルモノトス

第五項 删除

第十五項 删除

○郵便條例中驛遞局長驛遞局等改稱ヲ心得シム 二十年三月二十六日

郵便條例第六條驛遞局長及驛遞局第六十六條第百二十條第百二十三條第百二十五條第百二十八條第百五十五條第百五

十六條第百一十一條第百一十二條第百一十五條金類年月日ト符合セサルモノ下驛遞局第百三十九條ノ驛遞局長及驛遞局ハ逓信省第十八條第百五條ノ驛遞局長ハ内信局長第三十一條第三十六條第三十七條ノ驛遞局ハ逓信管理局第三十九條第六十八條第百二十三條ノ驛遞局ハ逓信省逓信管理局第五十二條第九十四條第百七十七條第百三十三條第百三十九條第百四十一條ノ驛遞局長ハ逓信大臣第百三十七條第百四十六條第百四十八條第百五十一條第百六十二條第百六十三條第百七十一條第百七十二條第百七十三條第百七十五條第百七十七條第百七十八條第百七十九條第百八十二條第百八十三條第百八十八條第百八十九條第百九十條第百九十一條第百九十二條第百九十三條第百九十四條第百九十六條第百九十七條第百九十八條第百九十九條ノ驛遞局ハ爲替貯金局第百四十七條第百七十四條第百九十七條ノ驛遞局長ハ爲替貯金局長第十三章第百五十七條第百四十二條ノ驛遞局ハ郵便第百二十二條ノ驛遞局ハ主管廳其他郵便條例中ノ郵便局ハ郵便電信局郵便局ト心得ヘシ

○郵便物受取人又ハ差出人居所不分明ナルトキ戶長役場ノ取調ヲ乞ハシム 二十年五月十九日

逓信省訓令第四號北海道廳府廳

郵便物受取人又ハ差出人居所不分明ナル時ハ郵便電信局郵便局ヨリ其地戶長役場ノ取調ヲ乞フ義モ可有之ニ付其際ハ故障ナク其求メニ應セシム可シ

○郵便小爲替規定ヲ改定ス 二十年六月二十五日

逓信省告示第百十七號

郵便小爲替規定左ノ通改定シ本年七月十五日ヨリ施行ス

郵便小爲替規定

第一條 郵便小爲替證書壹枚ノ金額ハ參圓以下トシ端數ハ釐位ヲ限リトス

第二條 爲替料ハ小爲替證書一枚ニ付參錢トス

第三條 小爲替ハ差出人ノ指定シタル爲替ヲ取扱フ郵便局ニ於テ拂渡スモノトス

第四條 爲替差出人ハ郵便局吏員ニ爲替金及爲替料ヲ差出シ小爲替證書及受領證書ヲ受取ヘシ

- 第五條 爲替差出人ハ小爲替證書ニ設ケアル相當ノ區畫ニ受取人ノ宿所氏名ヲ記入シテ送ルヘシ其宿所氏名ヲ記入シ能ハサルモノハ郵便局吏員ニ之ヲ請求スルヲ得
 - 第六條 小爲替證書ニ記載ノ拂渡局又ハ受取人ノ宿所氏名ヲ變換シテ其宿所氏名ノ訂正ヲ要スルトキハ差出人ニ於テ爲替ヲ取扱フ郵便局ノ許可ヲ受クヘシ
 - 但郵便局ノ許可ヲ請フトキハ受領證書ヲ以テ其差出人タルコトヲ證明スヘシ
 - 第七條 爲替受取人爲替金ヲ受取ルトキハ其證書裏面ニ記名調印スヘシ又郵便局ニ於テ證書ヲ送シタル信書ノ封皮又ハ其受取人タルコトヲ證明スヘキ他ノ物件ヲ要スルトキハ之ヲ差出スヘシ
 - 第八條 爲替差出人爲替金ノ返戻ヲ受タルトキハ其證書裏面ニ記名調印シ且受領證書ヲ郵便局ニ納メ差出人タルコトヲ證明スヘシ
 - 第九條 代人ヲ以テ爲替金ヲ受取ルモノハ其爲替證書ノ裏面ニ委任文ヲ記載シ記名調印シ且代人ハ爲替金受取方相當ノ手續ヲナスヘシ
 - 第十條 小爲替證書ノ効用ハ其證書ノ日附ヨリ六十日ヲ限リトス
 - 第十一條 郵便局ノ許可ヲ受ケス拂渡局又ハ受取人ノ宿所氏名ヲ變換シテ其宿所氏名ヲ訂正シタルトキハ爲替金ヲ拂渡サハルモノトス
 - 但第六條ニ依リ更ニ許可ヲ經タルモノハ此限ニアラス
 - 第十二條 左ニ掲グル場合ニアリテハ差出人ニ於テ受領證書ヲ納メ爲替ヲ取扱フ郵便局ヲ經テ爲替貯金局ニ再度小爲替證書ヲ請求スヘシ
 - 但第一項ノ場合ハ受取人ヨリ之ヲ請求スルヲ得
- 一 小爲替證書有効期限ヲ經過シタルトキ
 - 二 小爲替證書ヲ失ヒタルトキ

- 三 小爲替證書毀損汚斑シ點檢上支障アルトキ
 - 第十三條 再度小爲替證書ヲ請求スルトキハ更ニ爲替料ヲ納ムヘシ
 - 第十四條 小爲替證書ヲ失ヒ再度證書ヲ請求シタルトキハ當初振出ノ日ヨリ百二十日經過スルニ非サレハ之ヲ交付セズ
- 定稅遞送認可ノ定時刊行物休廢刊改題届出方 二十年九月二日 遞信省告示第百五十五號
- 十七年農商務省第二十五號達ヲ廢ス 二十年四月十九日 遞信省訓令第二號廳府縣
- 明治十七年十一月十一日 農商務省第三十五號達自今相廢止候條此旨心得ヘシ

● 伺指令

● 號外新聞紙定稅ノ件ニ付東京遞信管理局ヨリ遞信省ヘ伺 十九年十二月六日 (同二十年二月七日官報)

新聞紙號外取扱方ノ儀ハ去ル明治十七年十二月十五日附報知新聞社ニ對シ元驛遞總官ヨリ指令ノ旨ニ準シ候答ノ處該指令ノ但書タル號外ハ本紙新聞ノ重量ニ超過セサルモノニ限ルヘシ且該新聞ニ添付シ差出スルハ二號一東ノモノニ付キ云々ト之ノ其前段ニ於テハ號外ヲ以テ附録ト同視シ後段ニ於テハ自ラ一箇ノ三種郵便物トナスモノノ如ク其性質不判明ナルノミナラス取扱上モ極メテ困難ノ儀之アリ何トナレハ號外ハ多クハ本號新聞ト時ヲ異ニシテ刷出シ隨ヒテ殊別ニ發送スルモノナレハ本紙ノ重量ニ超過スルヤ否ヲ確ムルニ由ナク又號外ハ附録ト異ニシテ本號新聞ニ属セサルモノナルヲ以テ發送ノ際郵便心得第三條ノ制限ニ從ヒ目方ニ應シ納稅セシムルニ於テハ假令其目方ハ本號新聞ニ超過スルモ聊カ差支ナキ儀ト存セラレ候之ニ依リテ爾後號外ハ本紙ノ重量ニ超過ヲ標準トセス即一箇新聞ト見做シ三種ノ部類ニ入レ取扱然ルヘキヤ

指令 十九年十二月二十三日

何之通但冊子トナシタルモノハ此限ニアラス

第七十一 日本形船

●同指令

●日本形五拾石未満ノ船へ檢印烙記方ニ付島根縣ヨリ大藏省へ上申 (二十年七月二十一日 (同九月十日官報))

船舶ノ脱税ハ新規造船シ鑑札下付ヲ願出スシテ其儘之ヲ使用スルモノ其多キニ居候處近來檢査ノ周密ナルニ隨ヒ更ニ通税ノ策ヲ案出シ流失船紛失船ノ鑑札ヲ剽取リ之ヲ無鑑札船ニ釘付スル者或ハ解船ノ届出ヲ差出シテ依然之ヲ使用スル者又ハ無鑑札船ヲ有シ檢査ノ之アルヲ聞ケハ則チ窃ニ他船ノ鑑札ヲ剽取リ之ニ釘付シテ以テ一時ノ僥倖ヲ得ントスル者等日ヲ逐フテ増加ノ勢ニ有之候就テハ船稅規則第七條但書ノ諸船舶ニ烙印致候ハ、鑑札ヲ剽取釘付セントスルモ其烙印ナキガ故通税ニ由ナクシテ此奸策モ迹ヲ收ルニ至ルヘク又解船届出ノ際檢印アル部分ヲ差出サシムルコトニ致候ハ、解船ヲ届出ナカラ尚ホ且ツ依然之ヲ使用スルノ弊害モ隨テ減スヘク旁取締上良策ト存候ニ付自今鑑札下付ノ際船體間ノ内部へ檢印烙記シ其他ハ管内一般船籍ニ照査シテ悉皆烙印ヲ施スヘキ見込ニ有之候條右様御聽置相成度候

指令 二十年九月八日

上申ノ趣允可ス

第七十二 船燈信號器製造販賣規則

○船燈監査手續概目ヲ廢シ船燈信號器監査手續ヲ定ム

二十年二月一日 逕信省訓令第一號 廣瀨沿海府縣並滋賀縣沖繩縣ヲ除ク

明治十八年四月農商務省第十一號達船燈監査手續概目ヲ廢止シ船燈信號器監査手續左ノ通定ム

船燈信號器監査手續

- 第一條 船燈信號器ノ監査ハ所轄廳ノ官吏ヲシテ船燈發火信號器製造所販賣所及繫泊ノ船舶ニ就テ施行セシムヘシ 但西洋形船舶檢査規則ニ據リ檢査スヘキ船舶及甲板ナキ漁船小舟ハ此限ニアラス
- 第二條 監査官吏ハ船燈信號器製造販賣規則第九條ニ從ヒ製器ノ適否ヲ監査シ合格ノ船燈ニハ其廠名アル檢印(檣燈ハ燈ハ)ヲ銘シ不合格ノ船燈發火信號器ハ該規則第十條第十一條ニ據リ處分スヘシ
- 第三條 繫泊ノ船舶ハ船籍ノ自他ニ拘ハラズ定時(四月)又ハ臨時之ヲ監査シ甲號書式ニ從ヒ監査證書ヲ下付スヘシ
- 第四條 無檢印ノ船燈ヲ所持スルモノ其購入ノ年月監査手續 施行以後ニ係ルトキハ之ヲ製造及販賣セシモノ、住所氏名ヲ取札シ逕信省ニ報告スヘシ
- 第五條 製造人ノ確證ナキ發火信號器ヲ所持スルモノアルトキハ製器ノ適否ニ拘ハラズ其確證アルモノト更換セシムヘシ
- 第六條 號角號鐘ノ尺度ハ本年當省告示第八號ニ據リ其音響ノ充分ニ達スルモノヲ要スヘシ
- 第七條 監査證書ハ第一回ヨリ第五回目ノ監査ヲ了ル迄ハ各地方ヲ通シ該證書欄内ニ其都度監査官吏加書押印シ參照ノ便ニ供スヘシ
- 第八條 毎回監査ヲ了リタル上ハ七丙號書式ノ監査表ヲ製シ一箇年兩度(六月)ニ取總メ逕信省ニ報告スヘシ
- 第九條 製造人販賣人ノ住所氏名ハ廳府縣ヨリ官報ニ掲載スヘシ 但人員増減改名轉籍等其都度本項ニ據ルヘシ
- 第十條 船燈信號器犯則ノ處分ニ係ルモノハ其事實ヲ詳記シテ逕信省ニ届出ヘシ

第十一條 監登官吏ハ船長ヲクハ重立クル海員ニ向ツテ海上衝突豫防規則ノ要件ヲ尋問シ若シ通曉セサル者アレハ想篤ニ教示スヘシ

但船燈隔板錠泊燈火箭焰管號角號鐘信號旗ノ装置若クハ使用ヲ熟知セサルモノアレハ船篤ニ之ヲ指示スヘシ
第十二條 前數條ニ基キ地方ノ便宜ニ依リ別ニ細目ヲ設クルトキハ幾信省ニ届出ヘシ
甲號

船燈信號器監查之證

氏船頭本名籍	氏船主本名籍	場本船定名籍	積石(噸)	船名	廳府縣監查印	監查年月日	監查回数
							一回
							二回
							三回
							四回
							五回
							回

及舷燈番種類	氏船燈製造人	隔舷燈白燈及	氏發火信號器製造人	適火箭或八燭管	號角鐘及	N. C. 旗適否	改更	記事

明治 年 月中
船燈發火信號器製造所及販賣所監查報告書

廳府縣名 印

監登日期	監登地名	舷燈大小	櫓燈大小	船燈製造人	磁礮	火箭	焰管	發火信號器製造人	販賣人
		適及	適及	氏名	適及	適及	適及	氏名	任所氏名
		否及	否及		否及	否及	否及	名	記事

一 海外電報ノ受信人住所氏名ニ畧號ヲ常用セントスルトキハ配達ヲ受クル郵便電信局又ハ電信局ト約定シテ之ヲ常用スルコトヲ得其略號常用料ハ一箇年正貨拾圓

一 内國電報ニ用ユル畧號ヲ海外電報ニ併用スルトキハ内國電報ニ就テ納ムル常用料ノ外 海外電報ニ對シ更ニ其常用料ヲ納ムルニ及ハス

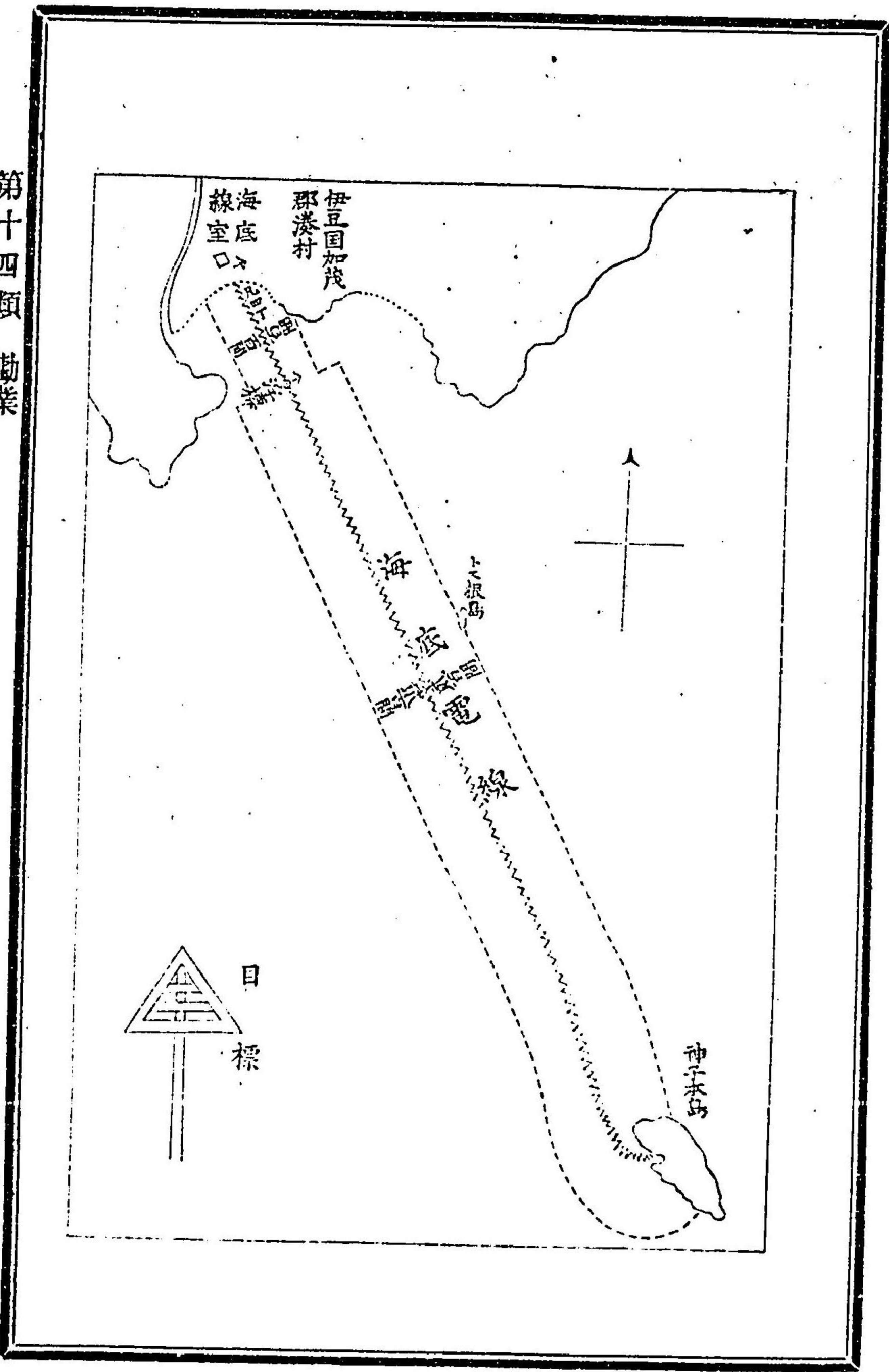
○ 電信條例中電信局長等改稱ヲ心得シム 二十年三月二十六日 逓信省告示第三十六號

電信條例第四條第六十七條ノ電信局長ハ逓信大臣第七條ノ電信局長ハ郵便電信局長電信局長第二十五條ノ一等電信分局及逓信大臣ノ告示ヲ以テ定メタル分局ハ逓信管理局第二十六條ノ一等電信分局及逓信大臣ノ告示ヲ以テ定メタル分局ハ逓信管理局又ハ一等郵便電信局一等電信局長第四十二條第四十五條第四十八條ノ電信局ハ逓信省電信取扱規則第二條ノ電信局ハ逓信省逓信管理局第五十一條ノ電信局長ハ逓信省第十八條ノ電信局ハ郵便電信局又ハ電信局其他電信條例電信取扱規則中ノ電信分局ハ郵便電信局電信局ト心得ヘシ

○ 電柱位置變更ヲ請求スル者願書差出方 二十年七月七日 逓信省告示第二百二十一號
電柱位置變更ヲ請求スルモノハ管轄廳ヲ經由シ所轄逓信管理局ヘ願書差出スヘシ

第七十四 靜岡縣伊豆國湊村ト神子本島トノ間ニ海底電線沈布 二十年六月十三日
逓信省告示第八號

靜岡縣下伊豆國加茂郡湊村ト同郡神子本島トノ間ニ海底電線ヲ沈布シ左ノ圖面點線内ヲ以テ該線路ト定ム



第七十五 〇 私設鐵道條例ヲ頒ツ 二十年五月十八日布告

朕私設鐵道條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム 勅令第十二號

御名 御璽

明治二十年五月十七日

内閣總理大臣伯爵伊藤博文

勅令第十二號

私設鐵道條例

- 第一條 旅客及荷物運輸營業ノ目的ヲ以テ鐵道ヲ布設セントスル者ハ發起人五人以上結合シ鐵道會社創立願書ニ起業目論見書ヲ添ヘ本社ヲ設置セントスル地ノ地方廳ヲ經由シテ政府ニ差出スヘシ
- 馬車鐵道ハ本條例定ムル所ノ限ニアラス
- 第二條 起業目論見書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ
- 第一 社名及本社所在地
- 第二 線路ノ兩端及其經過スヘキ地名但畧圖ヲ添フヘシ
- 第三 資本金ノ總額及總株數並一株ノ金額
- 第四 鐵道布設ノ費用及運輸營業上ノ收支概算
- 第五 發起人ノ氏名住所及發起人各自ノ引受クヘキ株數但發起人總員ノ引受クヘキ株數

ハ總株數十分ノ二以上タルヘシ

- 第三條 政府ニ於テ第一條ノ願書及目論見書ヲ查閱シ起業ノ大體ニ不都合ナキト認ムルトキハ假免狀ヲ下付シ本社ヲ設立セントスル地ノ地方廳ニ令シ發起人ヲシテ線路圖面工事方法書工費豫算書及會社ノ定款ヲ調製シ之ヲ差出サシムヘシ
- 既設ノ鐵道ニ妨害ヲ生スルノ虞アリ又ハ其地方ノ狀況鐵道ノ布設ヲ要セスト認ムルトキハ願書ヲ却下スヘシ
- 第四條 政府ニ於テ前條ノ圖面書類ヲ審査シ妥當ナリト認ムルトキハ裁可ヲ經テ會社設立及鐵道布設ノ免許狀ヲ下付スヘシ
- 第五條 發起人前條ノ免許狀ヲ下付セラレタル後ニアラサレハ社名ヲ以テ株金ヲ募集シ鐵道布設ノ工事ニ著手スルコトヲ得ス
- 第六條 會社ハ免許狀下付ノ日ヨリ三箇月以内ニ鐵道布設工事ニ著手シ免許狀ニ記載シタル豫定期限内ニ竣功スヘシ若シ其期限内ニ竣功シ難キ事由アルトキハ少クトモ二箇月以前本社所在ノ地方廳ヲ經由シテ政府ニ具申シ延期ヲ請フヘシ但其延期ハ豫定期限ノ半ヲ超ルコトヲ得ス
- 第七條 軌道ノ幅員ハ特許ヲ得タル者ヲ除クノ外總テ三呎六吋トス
- 第八條 左ニ記載スルモノヲ以テ鐵道用地トス
- 第一 線路ニ當ル敷地但其幅員ハ築堤切取架橋等工事ノ必要ニ應シテ定ムルモノトス

第二 停車場及之ニ附屬スル車庫貨物庫等ノ建築用ニ供スル土地
第三 前項ノ構内ニ常住ヲ要スル驛長車長及機關方等ノ家宅番人小屋等ノ建築用ニ供スル土地

第四 鐵道布設又ハ運輸ニ要スル車輛器具ヲ製作修繕スル器械場及同上ノ資材器具ヲ貯藏スル倉庫ノ建築用ニ供スル線路ニ沿ヒタル土地

第九條 鐵道布設ノ爲メ舊來ノ道路橋梁溝渠運河等ヲ變換シ又ハ一時之ヲ移設セントスルトキハ所管官廳ノ許可ヲ受クヘシ但其費用ハ會社ニ於テ之ヲ支辨スヘシ

第十條 線路ノ道路ヲ橫斷スル場所ニハ橋梁ヲ架設シ若クハ踏切道ヲ設クヘシ其他危險防止ヲ爲メ必要ノ場所ニハ柵柵門戶堤防ヲ設ケ若クハ番人ヲ配付スル等充分ノ警備ヲナスヘシ

第十一條 線路ノ全部若クハ一部ノ工事竣功シ旅客及貨物ノ運輸ヲ開業セントスルトキハ鐵道局長官ニ届出ヘシ

第十二條 鐵道局長官ハ前條ノ届出ニ依リ監査員ヲ派遣シテ工事方法書ニ照シ軌道橋梁車輛建物等ヲ監査セシメ完全ナリト認ムルトキハ開業免許狀ヲ下付スヘシ若シ不完全ナリト認ムルトキハ其改築修理ヲ命スヘシ但此場合ニ於テハ監査員ノ復命書ヲ會社ニ示スヘシ
會社ハ前項ノ開業免許狀ヲ得スシテ運輸ノ業ヲ開クコトヲ得ス

第十三條 鐵道局長官ハ鐵道布設中臨時監査員ヲ派遣シテ工事ヲ監査セシメ又運輸開業ノ後ニ於テモ監査員ヲ派遣シテ軌道橋梁車輛建物等並運輸上ノ實況ヲ監査セシメ危險ナリト認ムルトキハ其改築修理ヲ命スヘシ但此場合ニ於テハ監査員ノ復命書ヲ會社ニ示スヘシ

第十四條 第十二條第十三條ノ改築修理ヲナシタルトキハ更ニ監査ヲ受クヘシ

第十五條 官有ノ土地ニシテ鐵道用地ニ必要ナルモノ及第九條ノ土地ハ相當代價ヲ以テ之ヲ拂下ケ其民有ニ係ルモノハ公用土地買上規則ニ據リ買上ケ會社ニ拂下クヘシ但其土地ニ建物アルトキハ本條ニ準シテ之ヲ處分スヘシ

第十六條 會社ニ於テ鐵道布設ヲ止メ又ハ線路ノ變更ニ依リ不用トナリタル鐵道用地ニシテ最初公用土地買上規則ニ據テ買上ラレタルモノハ原所有者ニ於テ原價ヲ以テ之ヲ買戻スコトヲ得

會社ハ前項ノ土地不用トナリタル旨ヲ原所有者ニ通知スヘシ若シ原所有者ニ於テ三箇月以内ニ之ヲ買戻サハルトキハ其權利ヲ失フモノトス

第十七條 政府ハ鐵道用地内ニ於テ線路ニ沿ヒ電線ヲ架設スルコトヲ得又會社ハ其架柱ノ一部ヲ使用シ鐵道用ノ電線ヲ架スルコトヲ得但其一部ニ對スル費用ヲ支辨スヘシ

第十八條 會社ハ鐵道用地及停車場建物ノ一部ヲ無料ニテ郵便及ヒ電信ノ用ニ供スヘシ但政府ニ於テ建物ノ改造ヲ要シ又ハ用地ノ買上ヲナストキハ其實費ヲ支辨スヘシ

第十九條 明治十五年第五十九號布告郵便條例ニ依リ郵便物ト稱スルモノ及其遞送ニ關スル人員ノ運賃ハ左ニ記載スル割合ヲ以テ遞信省ト會社ト豫メ之ヲ約定スヘシ
第一 下等旅客二十人ノ坐位ニ當ル積量

一哩ニ付金一錢五厘以內
第二 一車(四噸積)貸切

一哩ニ付金五錢以內

但車室ヲ構造シ又ハ之ヲ改造セシメタルトキハ遞信省ヨリ其實費ヲ支辨スヘシ

第二十條 鐵道事務ニ關シテ往復スル官吏ハ無料ニテ乘車セシムヘシ但其官吏ハ常乘切手ヲ帶ル者ニ限ル

第二十一條 公務ヲ以テ往復スル陸海軍軍人軍屬及警察官吏又ハ軍馬銃砲彈藥糧食被服陣具工鐵兵器天幕等ハ總テ半價ヲ以テ輸送スヘシ但其公務タルコトヲ證スヘキ通券ヲ帶ル者ニ限ル

第二十二條 囚徒及其護送官吏ハ半價ヲ以テ乘車セシムヘシ

第二十三條 戰時若クハ事變ニ際シテハ徵發令ノ定ムル所ニ從ヒ鐵道ヲ使用セシムヘシ平時ト雖モ至急ニ兵隊ノ派遣ヲ要スル場合ニ於テハ當該官廳ノ命ニ從ヒ速ニ之ヲ輸送スヘシ但其運賃ハ第二十一條ノ例ニ依ル

第二十四條 陸海軍ニ於テ軍事上必要ノ爲メ車輛ニ改修ヲ加ヘ又ハ新裝置ヲ施シ或ハ載卸

用器具ノ製造ヲ命シ其實費ヲ支辨スルトキハ會社ハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第二十五條 鐵道局長官ハ公衆ノ安全ノ爲メ官有鐵道ニ實施スル事物ハ會社ニ命シ之ヲ施設セシムルコトヲ得

第二十六條 政府又ハ政府ノ許可ヲ得タル者ニ於テ會社ノ鐵道線路ニ接続シ若クハ之ヲ橫斷シテ鐵道ヲ布設シ又ハ會社ノ鐵道線路ニ接近シ若クハ之ヲ橫斷シテ道路橋梁溝渠運河ヲ設クルトキハ會社ハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第二十七條 官設鐵道ニ施行スル規則ハ私設鐵道ニモ亦之ヲ適用スヘシ

第二十八條 會社ニ於テ工事ノ方法又ハ會社ノ定款ヲ變更セントスルトキハ本社所在ノ地方廳ヲ經由シテ政府ニ具申シ認可ヲ受クヘシ

第二十九條 旅客及貨物ノ運賃額又ハ運輸規程ヲ定メ若クハ之ヲ變更セントスルトキハ鐵道局長官ノ認可ヲ受クヘシ但下等旅客運賃額ハ一哩ニ付金一錢五厘ノ割合ヲ超過スルトコトヲ得ス又其範圍内ニ於テ運賃額ヲ増加スル場合ニ於テハ少クトモ二週日前ニ之ヲ公示スヘシ

第三十條 列車發著時間及度數ヲ定メ又ハ之ヲ變更スルトキハ鐵道局長官ニ報告スヘシ

第三十一條 會社ハ半年度毎ニ營業ノ報告書ヲ調製シ四十日以内ニ鐵道局長官ニ差出スヘシ

第三十二條 會社ハ其財産ノ全部若クハ一部ヲ抵當トシテ負債ヲナスコトヲ得但其額ハ株

主ヨリ拂込タル資本金額十分ノ五ヲ超過スルコトヲ得ス

毎勘定季中ニ支拂フヘキ負債ノ元利金ヲ完償シタル後ニアラサレハ株主ニ純益金ノ配當ヲナスコトヲ得ス

第三十三條 會社ノ勘定ヲ分ツテ左ノ二種トス

第一 資本勘定 軌道車輛器械停車場土地建物等營業上收益アルヘキ物件ノ創設ニ係ル出納

第二 收益勘定 前項物件ノ維持保存ニ要スル費用及營業上ノ出納

第三十四條 私設鐵道ノ官設鐵道ニ接續スル場合ニ於テ交互運輸ノ手續及賃金ノ割合等ハ鐵道局長官之ヲ定ムヘシ

二箇以上ノ私設鐵道接續スル場合ニ於テ交互運輸ノ手續及賃金ノ割合等ニ係リ雙方ノ議協ハサルトキハ鐵道局長官ノ裁定ヲ請フヘシ

前項ノ場合ニ於テ鐵道局長官ノ裁定ハ終局トス

第三十五條 政府ハ免許狀下付ノ日ヨリ滿二十五箇年ノ後(特ニ營業期限ヲ定メタルモノハ其滿期後)ニ於テ鐵道及附屬物件ヲ買上ルノ權アルモノトス

第三十六條 前條ニ依リ鐵道及附屬物件ヲ買上ルトキハ前五箇年間ノ株券價格ヲ平均シ之ヲ以テ買上價格ト定ムヘシ

第三十七條 免許狀下付ノ日ヨリ三箇月以内ニ鐵道布設工事ニ著手セス又ハ豫定期限及延

期內ニ竣功セサルトキハ免許狀ノ返納ヲ命スヘシ但事宜ニ由リ其既設ノ鐵道及附屬物件ヲ公賣ニ附シ其買受者ヲシテ之ヲ竣功セシムルコトアルヘシ

第三十八條 旅客及貨物輸送ノ際社員ノ疎虞懈怠又ハ故意ニ依リ損害ヲ生シタルトキハ會社其賠償ノ責ニ任スヘシ

第三十九條 第五條ノ免許狀ヲ受ケスシテ社名ヲ以テ株金ヲ募集シ及鐵道布設ノ工事ニ著手シタルトキハ第三條ノ假免狀ヲ沒收シ第十二條ノ免許狀ヲ受ケス又ハ第十二條第十三條ノ改築修理ヲナサスシテ營業ヲナシタルトキハ鐵道局長官ハ之ヲ停止スヘシ但其營業中ノ收入金ハ之ヲ沒收ス

第四十條 鐵道運輸開業後會社ニ於テ此條例及會社定款ニ違背シ又ハ鐵道ノ正當ナル使用ヲ妨害シタルトキハ政府ハ役員ヲ改撰セシメ又ハ鐵道局ヲシテ運輸ノ業ヲ繼續セシムヘシ但鐵道局ヲシテ運輸ノ業ヲ繼續セシムル場合ニ於テモ其營業上ノ損益ハ仍ホ會社ニ屬スヘキモノトス

第四十一條 本條例ノ細則ハ閣令ヲ以テ之ヲ定ム

○私設鐵道條例中政府トアル場合指稱方

二十年五月十七日(五月十八日布告)閣令第十四號

勅令第十二號私設鐵道條例中政府トアル場合ニ於テ事務ノ關涉ハ内閣ヲ指ス儀ト心得ヘシ

○私設鐵道條例第三條ニ列記スル線路圖面工事方法書並工費豫算書

細則ヲ定ム 二十年六月三日 閣令第十六號

勅令第十二號私設鐵道條例第三條ニ列記スル線路圖面工事方法書並工費豫算書ニ關スル細則ヲ定ムルコト左ノ如シ

第一條 線路圖面ハ左ノ諸圖トス

一、實測平面圖

縮尺六千分以上ニシテ線路ノ左右凡五十間以内ニ在ル建物田野等ヲ詳ニシ其他市街村落山岳丘陵陵河海等ノ地形ヲ明カニシ鐵道中心線ハ赤色ヲ以テ彩リ距離ハ起點ヨリ一哩毎ニ之ヲ記シ更ニ細別シテ一哩八分ノ一毎ニ之ヲ記シ曲線ハ其直線ト接續點及半徑ヲ記シ又道路河流等ノ位置變換ヲ要スルモノハ變換ノ要點ヲ詳記スヘシ若シ他ノ鐵道線路ト連絡スルカ或ハ之ヲ橫斷スル處アレハ該線路ノ前後各半哩以内ノ圖ヲ示スヘシ

二、實測縱斷面圖

縮尺ノ長サ平面圖ト同一ニシテ高サ千分ノ一以上ニシテ中心線地面ノ高低軌道ノ高低赤築堤ノ高サ切取ノ深サ隧道橋梁溝渠ノ長サ及高サ等ヲ詳カニシ距離ハ平面圖ト同一ニ記シ高サハ尺ヲ以テ記シ又線路ノ勾配ヲ記入スヘシ
道路又ハ他ノ鐵道ヲ橫斷スル所アレハ之ヲ詳記シ若シ該道路若クハ鐵道ノ勾配ニ變更ヲ要スルトキハ之ヲ記スヘシ

他ノ鐵道ト連絡スル場合ニハ該鐵道ノ前後各一哩間ノ勾配ヲ此圖中ニ記スヘシ
三、實測橫斷面圖

縮尺適宜ニシテ中心線險崖ノ半腹ニアルカ如キ縱斷面圖ノミニテハ地形ヲ示スニ不十分ナル所ニハ之ヲ添付スヘシ

前記圖面ニ據リ工事ヲ實施スルニ當リ左ノ各項ニ注意スヘシ

- 一 線路ノ高低ハ市街ナレハ三尺以上其他ハ六尺以上變更スルヲ得ス
- 一 線路勾配ハ縱斷面圖ニ記セルモノヨリ緩ニスルヲ得
- 一 百分一ヨリ緩ナル勾配ヲ百分一ニ變更スルヲ得
- 一 百分一ヨリ急ナル勾配ハ認可ヲ經サレハ之ヲ急ニスルヲ得ス
- 一 曲線ノ半徑ハ平面圖ニ記セルモノヨリ長クスルヲ得
- 一 曲線ノ半徑四分ノ一哩以上ノモノヲ四分ノ一哩ニ變更スルヲ得
- 一 曲線ノ半徑四分ノ一哩以下ノモノハ認可ヲ經サレハ之ヲ短縮スルヲ得ス
- 一 平面圖ニ記スル中心線ノ移動ヲ要スルトキハ市街又ハ家屋稠密ノ地ナレハ左右各五間其他ハ五十間ヲ超ユルヲ得ス之ヲ超ユル時ハ更ニ認可ヲ經ヘシ
- 一 工事方法書ニハ左ノ事項ヲ詳記スルヲ要ス
- 一 土工ハ築堤切取ノ幅員傾斜面ノ勾配等詳記スヘシ
- 一 橋梁隧道等ハ其構造ヲ詳カニスルカ爲ニ必要ナル圖面及說明書ヲ附スヘシ

第二條

- 一 軌鐵ハ重量及其形狀ヲ明記スヘシ
- 一 車輛ハ機關車ノ形狀及重量客車貨車ノ容積等ヲ詳記スヘシ
- 一 停車場ハ縮尺六百分以上ノ平面圖ヲ以テ停車場車庫轉車臺等ノ位置副線ノ方向延長等ヲ詳記スヘシ

第三條 工費豫算書ハ左ノ書式ニ準據スヘシ

第四條 線路圖面工事方法書並工費豫算書ニハ其主任技術者ヲシテ署名セシムヘシ

何々鐵道建設費豫算表 延長何哩何釐(若クハ分)線

費目	摘要	金額	合計
用地費	土地何反何釐何歩	一反ニ付 0,000	0 00
	家屋何棟何坪	一坪ニ付 0,000	0 00
土工費	切取何坪	一坪ニ付 0,000	0 00
	築堤何坪	一坪ニ付 0,000	0 00
橋梁費	土置石垣及柵何坪又ハ何間一坪又ハ一間ニ付	0,000	0 00
	溝付道路付橋,川溝付換路切道等同一一坪ニ付	0,000	0 00
	何々川長何尺	一尺ニ付 0,000	0 00
	何所避益橋長何尺	一,〇〇〇	0 00

コルベルト費	何所陸橋接道等同一	一,〇〇〇	0 00	0 00
伏樋費	橋梁ノ例ニ同シ	一,〇〇〇	0 00	0 00
隧道費	何所長何尺	一,〇〇〇	0 00	0 00
軌道費	鐵條何噸	一噸ニ付 0,000	0 00	0 00
	枕木何本	一本ニ付 0,000	0 00	0 00
	ポイント及クロツシク何組	一組ニ付 0,000	0 00	0 00
	敷設費何哩	一哩ニ付 0,000	0 00	0 00
	砂利敷費何坪	一坪ニ付 0,000	0 00	0 00
	諸標費(里程勾配等)		0 00	0 00
停車場費	何驛何坪	一坪ニ付 0,000	0 00	0 00
	機關車庫何坪	一,〇〇〇	0 00	0 00
	客車庫何坪	一,〇〇〇	0 00	0 00
	荷物庫何坪	一,〇〇〇	0 00	0 00
車輛費	轉車臺給水器,信號,石炭臺,測重器,器具等		0 00	0 00
	機關車何輛	一輛ニ付 0,000	0 00	0 00

指令 二十年二月四日

伺ノ趣後見人ト同居ノ子孫親族ニ限リ被後見者ト互ニ賣買讓與不相成儀ト心得可シ

第七十七 登記法中ヲ改正ス 二十年七月十六日 布告 法律第一號

朕登記法中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十年七月十五日

内閣總理大臣伯爵伊藤博文
内務大臣伯爵山縣有朋
大藏大臣伯爵松方正義
司法大臣伯爵山田顯義

法律第一號

明治十九年八月法律第一號登記法第一條第十條第二十條左ノ通改正ス

第一條 地所建物船舶ノ賣買讓與質入書入ヲ爲ス者ハ本法ニ從ヒ地所建物ハ其所在地船舶ハ其定繫場ノ登記所ニ登記ヲ請フ可シ
已ニ登記ヲ受ケタル地所建物船舶ニ變更ヲ生シ又ハ亡失破壊シタルトキハ其物件ノ所有者ヨリ登記ノ變更又ハ取消ヲ請フ可シ
第十條 登記ハ第一條第二項第十五條第二項第十六條第十七條及第十八條ヲ除クノ外契約

者雙方ノ請求若クハ裁判所ノ命令アルトキニ非サレハ之ヲ爲シ又ハ變更シ又ハ取消スコトヲ得ス

第二十條 地所船舶ノ賣買讓與ニ因リ地券鑑札ノ下付若クハ書換ヲ請フ者ハ登記所ヨリ登記濟ノ證ヲ受ク可シ

○登記ヲ請フ者手續ヲ定ム 十九年十二月三日 司法省令甲第五號

本年八月法律第一號ヲ以テ登記法制定ニ付キ明治二十年二月以後登記ヲ請フ者ハ左ノ手續ニ依ル可シ

- 第一條 登記ヲ請フ者ハ第一號書式ニ準シ登記ノ件目等ヲ記載シ實印ヲ押シタル名刺ヲ登記所ニ差出ス可シ
- 登記簿ノ謄本若クハ拔書又ハ登記簿ノ閱覽ヲ請フ者亦同シ
- 第二條 後見人ヨリ登記ヲ請フトキハ後見人タルノ證書ヲ登記所ニ差出ス可シ
- 代人ヲ以テ登記ヲ請フトキハ代理ノ委任狀ヲ付與シ之ヲ登記所ニ差出サシム可シ
- 第三條 初テ登記ヲ請フ者ハ第二號書式ニ準シ區戸長ノ證明シタル印鑑ヲ登記所ニ差出ス可シ
- 第四條 地所ニ付キ初テ登記ヲ請フ者ハ地券ヲ登記官ニ示ス可シ但現ニ質入中ノ地所ニ付テハ此限ニ在ラス
- 船舶ニ付テハ鑑札ヲ示ス可シ但船舶ニ釘付シタルモノハ此限ニ在ラス

第五條 建物ニ付キ登記ヲ請フトキハ其圖面ヲ登記所ニ差出ス可シ

建物ノ圖面ハ邸地ノ形狀、坪數(段別)方位及ヒ建物ノ形狀、間尺、位置等ヲ記シ登記ヲ受ク可キ建物ノ圖ハ墨引墨字ト爲シ登記外ナル建物アルトキハ其圖ハ朱引朱字ト爲ス可シ

建物ノ圖面ニハ登記法第九條第十六條第十七條第十八條第十九條ノ場合ヲ除クノ外、結約者雙方之ニ署名捺印ス可シ但第十五條第二項ノ場合ニ於テハ親屬又ハ近隣戶主之ニ連署ス可シ

地所船舶ニ付キ圖面アルトキモ亦前項ニ定メタル署名捺印若クハ連署ヲ要ス

第六條 地所ヲ分割シテ賣買讓與シ又ハ質入書入ト爲ストキハ前條ニ準シ其圖面ヲ差出ス可シ

第七條 裁判執行上ノ糶賣若クハ入札ニ因リ地所建物船舶ノ所有權ヲ得タル者其登記ヲ請ヒ又ハ地所建物船舶ニ關スル差押假差留假差留假處分及地所建物ノ收益差押ニ付キ記入若クハ取消ヲ請フニハ裁判所ヨリ其命令書ヲ受ケ之ヲ登記所ニ示ス可シ
裁判言渡ニ依リ登記、變更若クハ取消ヲ請フトキ亦前項ニ同シ

第八條 登記法第三十二條ニ依リ評價ヲ要スルトキハ登記所ノ命令ニ從ヒ登記料ヲ納ムル者ヨリ評價費用ノ見積金額ヲ豫納ス可シ

第九條 登記濟ノ證ヲ請フ者ハ第三號書式ニ準シ物件等ヲ記載セル願書ヲ登記所ニ差出

ス可シ

第十條 登記ヲ受タル物件ノ全部若クハ一部毀壞燒失流亡等ニ依リテ消滅シタルトキハ其物件ノ所有者ヨリ登記ヲ爲タル登記所ニ書面ヲ以テ其旨ヲ届出ツ可シ但其物件質入書入又ハ差押差留等ニ係ルトキハ債主又ハ差押差留等ノ權利者ノ連印ヲ要ス
地目變換ノ場合ニ於テモ亦前項ノ例ニ準シ届出ヲ爲ス可シ

第十一條 船舶ノ定繫所ヲ更改シタルトキハ原登記所ヨリ登記簿ノ謄本ヲ受ケ之ヲ轉入地ノ登記所ニ差出シ其登記ヲ請フ可シ
同一ノ登記所ニ屬スル町村ニ轉入シタル場合ニ於テハ其登記所ニ登記ノ變更ヲ請フ可シ

第一號書式

(用紙半紙半截)

住所

賣渡人氏名[㊟]

住所

買受人氏名[㊟]

此代價金何圓

地所 建物 賣買(讓與)ニ付登記願
船舶

此登記料金何圓何錢

年月日

又ハ

何々質入ニ付登記願

此貸借金何圓
此登記料金何圓何錢

又ハ

家督
遺産相續ニ付登記願

此價格金何圓
此登記料金何圓何錢

又ハ

何々排下ヲ得候ニ付登記願

此排下代價金何圓
此登記料金何圓何錢

又ハ

何々登記ノ贈本又ハ拔書下付願

又ハ

何々登記簿附覽願

又ハ

此手數料金何錢
此登記取消又ハ變更願

他皆以上ノ例ニ倣ヒ各別ニ認ム可シ

第二號書式 (印鑑用紙堅五寸横一寸但厚紙ヲ用フ可シ)

印鑑證明願

區役所
又ハ戸長役場
ノ印

印鑑

右印鑑御證明被成下度奉願候也

明治何年何月何日

何國何區何町何番地

何 某

何國何區何町何番地

何 某

某區 長何某殿

右印鑑相違無之候也

明治何年何月何日

某區 長何 某官印

第三號書式甲

地所登記濟證下付願

何郡何町(村)字何
何番地

一田何段何畝步

地價金何圓

第十五類 契約

同郡同町(村)同字
何番地

一畑何畝步

地價金何圓

右ノ地所今般何郡何町(村)何番地何某ヨリ讓受(買受)候ニ付地券書換願出度候間登
記濟ノ證御下付被成下度此段奉願候也

年 月 日

何郡何町(村)何番地

何 某印

某登記所

御中

登記 濟 所 某登記
所 某登記
印

明治何年何月何日

第三號書式乙

船舶登記濟證下付願

定繫所何
第何號(鑑札番號)

一西洋形船何々丸

檣 何本

長	何尺	長	何間
幅	何尺	幅	何間
深	何尺	深	何間
登簿噸數	何噸	汽機	何々
公稱馬力	若干	汽鐘	何々
端船	何艘	汽鐘	何々
何々	何々	汽鐘	何々
何々	何々	汽鐘	何々
又ハ		汽鐘	何々
定繫所何		汽鐘	何々
第何號(鑑札番號)		汽鐘	何々
一日本形船何々丸		汽鐘	何々
石數	何石積	汽鐘	何々
長	何間	汽鐘	何々
幅	何間	汽鐘	何々
深	何間	汽鐘	何々

端船 何艘

何々 何々

何々 何々

右ノ船舶今般何郡何町(村)何番地何某ヨリ買受(讓受)候ニ付鑑札書換願出度候間登記濟ノ證御下付被成下度此段奉願候也

年 月 日

何郡何町(村)何番地

某登記所

何 某印

御中

登記 濟 所某登記印

明治何年何月何日

○登記事務ハ治安判事郡長戸長ヲシテ取扱ハシム 十九年十二月三日 司法省訓令第三十一號裁判所北海道廳府縣(沖繩縣ヲ除ク)

登記法第三條ニ基キ登記事務ハ治安裁判所判事及ヒ登記所所在ノ郡役所戸長役場ノ郡長戸長ヲシテ之ヲ取扱ハシム但治安裁判所書記郡書記及戸長役場吏員ハ判事郡長戸長ノ命ヲ受ケ事務ノ補助ヲ爲スコトヲ得

○登記法取扱規則ヲ定ム 十九年十二月三日 司法省訓令第三十二號裁判所登記所 本年法律第一號ヲ以テ登記法制定ニ付登記法取扱規則左ノ通之ヲ定ム

登記法取扱規則

第一章 登記所印章及ヒ登記簿

第一條 登記所ハ練書ヲ以テ其署名ヲ刻シタル印章大小二類ヲ調製シ其印影ヲ管轄始審裁判所ニ届ケ置ク可シ

第二條 登記簿ハ地所建物船舶ヲ分チ別冊ト爲ヌ可シ

登記簿ハ前項ノ外町村毎ニ冊ヲ分テ之ヲ設ク可シ但事件寡少ナル町村ニ付テハ數町村ヲ合セ一冊ト爲スコトヲ得此場合ニ於テハ各町村毎ニ見出ヲ付ヌ可シ

第三條 登記簿ハ一用紙毎ニ登記物件ノ番號ヲ付シ且其一用紙ヲ表題 登記簿用紙中物件ノ欄ヲ設ケタル所ヲ云フ以下準之 及ヒ甲乙丙ノ三區ニ分チ仍ホ其表題及ヒ各區ヲ數欄ニ分ツモノトス

其表題ハ登記法第七條ノ一二三四ニ掲ケタル項目ヲ登記スルノ所トス

其甲區ハ所有權ノ得育即チ賣買讓與等ヲ登記スルノ所トス

其乙區ハ抵當即チ質入書入ヲ登記スルノ所トス

其丙區ハ執行上ノ抵當即チ登記法第九條ニ記載シタル諸件ヲ記入スルノ所トス

第四條 登記簿ハ登記所ノ請求ニ因リ始審裁判所長之ヲ渡ヌモノトス

登記所ハ凡一年間用フヘキ登記簿ノ冊數及ヒ各冊ノ枚數ヲ見積リ豫メ前項ノ請求ヲ爲ヌ可シ

第五條 登記簿ハ始審裁判所長其枚數ヲ表紙ノ裡面ニ記載シテ之ニ氏名ヲ署シ官印ヲ捺シ且毎葉ニ契印ヌ可シ

第六條 町村ノ分合アリタル場合ニ於テハ登記所ハ其旨ヲ始審裁判所長ニ申告シ更ニ分合セシ町村ニ對スル登記簿ノ下付ヲ受ク可シ

前項ノ場合ニ於テ舊登記簿其他之ニ屬スル帳簿ハ現狀ノ儘之ヲ保存シ已ニ登記シタル事件ノ變更取消ハ其登記簿ニ登記ヌ可シ

第二章 登記手續

第十五類 契約

第七條 登記所ニ於テハ交付帳ヲ製シ置キ登記ノ出願若クハ請求等ノ順序ニ從ヒ之ニ其交付事件ヲ記載シ番號ヲ付ス可シ

第八條 登記官ハ交付番號ノ順次ニ從ヒ願人ヲ取調ヘ又ハ請求書等ヲ審査シ且登記簿ニ就キ本人ノ所有物件ナルコトヲ確認シ仍ホ質入書入又ハ差押差留等ノ記入ノ有無ヲ調査シ若シ是等ノ登記アルトキハ之ヲ本人ニ示シタル上登記ノ手續ヲ爲ス可シ

登記官ハ登記ヲ爲ス前本人ノ印影ヲ檢シ區戸長ノ證明アル印鑑ト符合スルニ非レハ登記ヲ爲ス可カラズ

第九條 登記簿ニ未タ登記セサル地所建物船舶ニ付キ初メテ登記ヲ爲ス場合ニ於テ治安裁判所及ヒ郡役所ニアル登記所ハ地券鑑札及ヒ所管ノ公簿並ニ登記法第四十條ニ記載スル證書ニ依リ戸長役場ニアル登記所ハ地券鑑札及ヒ所管ノ公簿並ニ其戸長役場ノ公簿若クハ登記法第四十條ニ記載スル證書ニ依リ物件ノ所有者ヲ確認シ其物件ニ故障ナキニ於テハ先ツ登記簿表題ノ部ニ其物件ヲ記載シ所有者ヲシテ之ニ認印セシメタル上各區ニ登記ノ手續ヲ爲ス可シ

第十條 抵當ヲ登記スル場合ニ於テ未タ物件及ヒ所有者ノ登記アラサルトキハ前條ノ手續ヲ爲シタル上甲區中登記事由ノ欄内ニ書入若クハ質入ノ登記出願ニ付キ何々ノ證書地券鑑札及ヒ登記法第四十條ニ記載セシ證書ヲ云フ及ヒ何々ノ公簿前條ノ公簿ヲ云フニ依リ記載セシ旨ヲ記シ負債者即チ物件ノ所有者ヲシテ所有者ノ欄内ニ署名捺印セシメタル上乙區中ニ出願事件ノ登記ヲ爲ス可シ

執行上ノ抵當ヲ記入スル場合ニ於テ未タ所有者ノ登記アラサルトキハ登記官ニ於テ前條及ヒ本條前項ノ手續ヲ爲シ物件及ヒ所有者ノ氏名ヲ記載シ其側ニ認印シタル上丙區中ニ命令事件ノ記入ヲ爲ス可シ但後日其物件ニ關シ所有者ヨリ他ノ登記ヲ出願シタルトキハ所有者ヲシテ物件ニ認印シ及ヒ其氏名ノ下ニ捺印セシム可シ

第十一條 登記物件ノ番號ハ初メテ其物件ヲ記載スル毎ニ出願若クハ請求ノ順序ニ從ヒ之ヲ付スルモノトス但其番號ハ町村毎ニ之ヲ區別シ仍ホ地所建物船舶ヲ區別シテ之ヲ付ス可シ

同時ニ登記ヲ求メ且ツ同一ノ所有者ニ屬スル同種類ノ物件ハ同町村内ニ在リテ且合録ノ爲メ混雜ヲ生スルノ憂ナキ

ニ於テハ之ヲ同番號中ニ記載ス可シ若シ其物件多數ニシテ同番號中ニ記載スル能ハサルトキハ所有者ノ意見ヲ聽キ便宜分割シテ之ヲ次ノ番號中ニ記載スルコトヲ得

第十二條 一番號中ニ登記セシ數物件ヲ分チ又ハ一物件ヲ割テ賣買讓與スルトキハ表題部中取消ノ欄内ニ其要領及ヒ第何號ニ移シタルコトヲ記載シ分割シタル物件ハ未タ登記ヲ爲サ、ル用紙ニ記載シテ新番號ヲ付シ且第何號ヨリ移シタルコトヲ付記ス可シ其他ノ手續ハ通常ノ場合ニ同シ

前項ノ場合ニ於テ舊番號中分割セラレタル物件ハ之ヲ未抹ス可シ若シ一物件ヲ割キタルトキハ更ニ殘餘ノ現狀ヲ記載ス可シ

數番號ニ登記セシ物件ヲ合併シテ賣買讓與スルトキハ各番號中甲區登記事由ノ欄内ニ其旨ヲ明記シテ登記ヲ爲ス可シ

第十三條 一番號中ノ物件ヲ分割シテ質入書入ト爲シ若クハ差押差留等ト爲ストキハ乙區若クハ丙區ノ抵當事由欄内ニ何々ノ物件ヲ質入書入若クハ差押差留等ト爲シタルコトヲ明記シテ登記ヲ爲ス可シ

數番號ニ屬スル物件ヲ合併シテ質入書入ト爲ストキハ各番號中乙區抵當事由ノ欄内ニ其旨ヲ明記シテ登記ヲ爲ス可シ

第十四條 質入書入ト爲リタル物件ヲ賣買讓與スルトキハ甲區登記事由欄内ニ買受人讓受人ニ於テ其質入書入中ニ係ルヲ了知セル旨ヲ明記シテ登記ヲ爲ス可シ

登記法第二十二條ノ場合ニ於テモ亦前項ノ例ニ準據ス可シ

第十五條 物件ヲ分割シテ賣買讓與スル爲メ第十二條ノ手續ヲ爲ス場合ニ於テ新ニ番號ヲ付スヘキ物件已ニ舊番號ノ物件ト共ニ書入質入ト爲リタルモノナルトキハ新番號ノ表題部中物件ヲ記載シタル側ニ第何號ヲ云フノ物件ト連帶シテ抵當物トナリタルモノナルコトヲ付記ス可シ

其抵當ヲ取消シタル場合ニ於テハ前項ノ付記ヲ未抹ス可シ

第十六條 質入書入ノ權ヲ賣買讓與シ相續ノ場合ヲ除ク又ハ他人ニ於テ負債者ノ負債ヲ辨濟シテ債主ノ權ニ代ル等抵當權ノ他

人ニ移リタル場合ニ於テ負債者承諾ノ上登記ヲ出願シタルトキハ之ヲ乙區變更ノ欄内ニ登記ス可シ

質入書入ノ債主負債者ト協議ノ上抵當物件ヲ引取り所有者ト爲リタル場合ニ於テハ乙區抵當取消ノ欄内及ヒ甲區登記事由ノ欄内ニ其要旨ヲ登記ス可シ

第十七條 質入ヲ變更シテ書入ト爲シ書入ヲ變更シテ質入ト爲シ又ハ利息期限等ヲ變更シタル場合ニ於テハ之ヲ乙區變更ノ欄内ニ登記ス可シ

第十八條 登記法第十五條ノ場合ニ於テ登記ヲ爲ス可キ土地若シ華族世襲財産ナルトキハ地券及ヒ同第四十條ニ記載スル證書ニ依リ世襲財産タルコトヲ認メ其旨ヲ表題部中物件ノ側ニ記入ス可シ

第十九條 賣買譲與其他ノ方法ニ因リ曾テ地所建物船舶ノ所有權ヲ得タル者其所有權ノ登記ヲ出願スルトキハ第九條ノ例ニ準シ之ヲ登記ス可シ

第二十條 従前ノ公證書ニ登記セシ書入質入ノ取消ヲ願出タルトキハ手数料ヲ徵收セス舊手續ニ依リ之ヲ終結ス可シ
若シ變更ノ登記ヲ願出タルトキハ第十條ノ例ニ準シ所有者及ヒ原契約ヲ登記シタル上乙區變更ノ欄内ニ其登記ヲ爲ス可シ此場合ニ於テハ變更ノ手数料ヲ徵收ス可キモノトス

第二十一條 登記ヲ受タル物件ノ全部若クハ一部毀壞滅失死亡等ニ依リテ消滅シ其旨ヲ届出タルトキハ表題部中取消ノ欄内ニ之ヲ登記シ其物件ハ朱抹ス可シ若シ殘餘アルトキハ第十二條第二項ノ例ニ準シ其現狀ヲ記載ス可シ
地目變換ヲ届出タルトキハ表題部中記載シタル地目ヲ更正シ其旨ヲ付記ス可シ
前二項ノ場合ニ於テハ手数料ヲ徵收セサルモノトス

第二十二條 登記所ノ同管内ニ在リテ船舶ノ定額所ヲ更改シ其登記ヲ請フ者アルトキハ轉入セシ町村ノ登記簿ニ其物件及ヒ所有者ヲ轉寫シ表題部中物件ヲ記載シタル側ニ其町村ヨリ轉入セシ旨ヲ付記シ若シ船舶既ニ抵當物トナリタルモノナルトキハ其旨ヲ付記ス可シ轉出セシ町村ノ登記簿ニハ其表題部中取消ノ欄内ニ轉出ノ旨ヲ記載シテ其物件ハ朱抹ス可シ

若シ他ノ登記所ニ屬スル町村ニ轉入スルトキハ原登記所ヨリ登記簿謄本ニ其旨ヲ付記シ之ヲ本人ニ下付シテ轉入スル登記所ニ差出サシメ其登記所ハ其謄本ニ依リ登記ヲ爲シ登記簿ノ通知書ヲ原登記所ニ送致ス可ク原登記所ハ其通知ニ依リ取消ノ手續ヲ爲ス可シ

前二項ノ場合ニ於テハ登記法第三十條第一第二ノ規則ニ依リ變更及ヒ謄本ノ手数料ヲ徵收スルモノトス

第二十三條 登記簿ニ記載スル願人ノ氏名ハ本人ヲシテ自署セシメ其名下ニ捺印セシム可シ若シ自署スル能ハサルトキハ登記官代書シ其旨ヲ付記ス可シ

第二十四條 登記事件ニ附屬スル圖面アルトキハ登記簿表題部中ニ其旨ヲ記載シ其圖面ニ登記物件ノ番號ヲ記シ登記官之ニ認印シ帳簿ニ編入ス可シ

第二十五條 登記ノ爲メ差出タル契約書ニハ登記簿ノ上登記官之ニ登記物件ノ番號ヲ記載シ且ツ認印シテ本人ニ還付ス可シ

第二十六條 登記簿ノ一用紙中或ル欄内更ニ登記ヲ爲スヘキ餘白ナキニ至リタルトキハ其登記簿中未タ登記ヲ爲サル他ノ用紙ニ原番號ヲ轉寫シ之ニ其番號ノ第二ナルコトヲ付記シ原用紙番號ノ下ニハ第一ノ文字ヲ追加シ且第何冊何丁ニ續ク旨ヲ記載ス可シ第三以下ノ續ヲ設クルトキ亦此例ニ準ス

前項ノ場合ニ於テ新用紙ニハ原用紙ニ記載アル登記ノ順番ヲ續續シテ之ヲ付ス可シ

第二十七條 登記簿ニ登記ヲ爲ス字體ハ楷書ヲ用ヒ鮮明ナルヲ要ス又金錢物品ノ日數及ヒ年月日ヲ記スルニハ必ス壹貳參拾ノ文字ヲ用フ可シ

登記ヲ爲スニハ之ヲ墨書ス可ク訂正若クハ挿入等ヲ爲スニハ之ヲ朱書ス可シ
文字ハ之ヲ改竄ス可カラス若シ刪除スルトキハ讀得ヘキ爲メ字體ヲ存ス可シ
訂正挿入削除等ヲ爲シタルトキハ本人ヲシテ之ニ認印セシム可シ

第二十八條 後見人若クハ代人ヨリ登記ヲ出願セントキハ後見人タルノ證若クハ代理ノ委任狀ヲ出サシメ之ヲ帳簿ニ

編入ス可シ

前項ノ證書ヲ差出サ、ルトキハ登記ヲ爲ス可カラズ

第二十九條 登記官自己ノ權利義務ヲ登記ス可キ場合ニ於テハ治安判事及ヒ郡長ハ書記戸長ハ次席吏員ヲシテ代テ登記ヲ爲サシム可シ

第三章 帳簿

第三十條 登記所使用ノ帳簿ハ左ノ如シ

- 一 地所登記簿
- 二 建物登記簿
- 三 船舶登記簿
- 四 受付帳
- 五 登記現出帳三種
- 六 印鑑簿區戸長ノ證明シタル印鑑ヲ挿入シタルモノ
- 七 謄本下付帳
- 八 登記清證下付帳
- 九 圖面綴込帳
- 十 請求書綴込帳行政廳ノ登記請求書ヲ綴込タルモノ
- 十一 登記願書綴込帳登記法第十五條第二項ノ書面ヲ綴込タルモノ
- 十二 證明書綴込帳登記法第四十條ノ證書及ヒ印鑑證明書等ヲ綴込タルモノ
- 十三 名刺綴込帳
- 十四 代理證書綴込帳

十五屆書綴込帳

第三十一條 登記簿ノ謄本若クハ按書ヲ請フ者アルトキハ其用紙ニ謄寫シ謄本下付帳ト割印シテ之ヲ下付ス可シ但手数料ヲ領收セサル前ニ謄本又ハ按書ヲ下附スルコトヲ得ス

第三十二條 謄本ハ登記簿一用紙ノ全部ヲ遺漏ナク謄寫シテ之ヲ作ル可シ
按書ハ請求アル部分ノミ登記簿ヨリ摘寫シテ之ヲ作ル可シ

第三十三條 登記簿ノ證ヲ請フ者アルトキハ其願書ニ記載アル物件ヲ登記簿ト照査シタル上登記簿ノ旨ヲ朱記シ登記清證下付帳ト割印シテ之ヲ下付ス可シ

第三十四條 登記見出帳ハ地所建物ニ付テハ地所ノ番號ニ依リ船舶ニ付テハ艦札ノ番號ニ依リ登記物件ノ番號ヲ付スル毎ニ各番號ヲ記入スルモノトス

同番號ノ地所ニシテ數筆ニ分レタルモノアルトキハ地券面ノ符號ヲ番地ノ下ニ記載ス可ク同番地ニアル建物ニシテ棟ヲ異ニシタルトキハ建物ノ番號ヲ番地ノ下ニ記載シテ之ヲ區別ス可シ番號若クハ符號ヲ同ノスル地所又ハ番地若クハ棟ヲ同ノスル建物ヲ分割シテ賣買譲與質入書入ト爲ストキハ其各部ノ地所若クハ建物ニ子丑寅卯ノ符號ヲ付シテ之ヲ區別ス可シ

前二項ノ區別ハ登記簿ニモ亦之ヲ記載ス可キモノトス

第三十五條 登記ニ關スル帳簿ハ常ニ書籍ニ載メ其封緘ヲ嚴ニシ非常持返ノ準備ヲ爲シ勉テ紛亂毀損ヲ豫防ス可シ
登記ニ關スル帳簿ハ裁判所ノ命令アルニ非サレハ登記所外ニ出スコトヲ得ス

第三十六條 登記簿ノ閱覽ヲ請フ者アルトキハ官吏ノ職務ヲ以テ閱覽スルトキノ外吏員ノ面前ニ於テ之ヲ閱覽セシム可シ

第三十七條 登記所ニ於テハ毎月登記件數表ヲ調製シ翌月五日マテニ其地ヲ發シ管轄地審裁判所ニ送致ス可ク其裁判所ニ於テハ之ヲ取纏メ合計表ヲ付シ其月末マテニ其廳ヲ發シ司法省ニ差出ス可シ

第四章 登記料手数料及ヒ評價費用

第十五類 契約

第三十八條 登記料ハ登記ヲ爲ス前之ヲ納メシム可シ登記事件ノ取消若クハ變更ノ登記ヲ請フ者ノ納ム可キ手数料ニ付テモ亦同シ

第三十九條 登記法第三十二條ニ依リ評價ヲ要スル場合ニ於テハ登記所ハ其費用ヲ見積リ登記料ヲ納ムル者ヨリ之ヲ豫納セシム可シ

第四十條 登記所ニ於テハ評價人ヲシテ速ニ物件ノ所在ニ就キ價格ヲ評定シ其評價書ヲ差出サシム可シ
評價人中ノ一名意見ヲ異ニスルトキハ他ノ二名ノ意見ニ依リ價格ヲ定ム可ク若シ各自意見ヲ異ニスルトキハ更ニ評價人ヲ選定ス可シ

第四十一條 登記法第三十三條ニ依リ評價ノ費用ヲ本人ニ負擔セシム可キトキハ豫納金ヲ以テ之ヲ支辨シ殘額アルトキハ之ヲ還付ス可ク不足スルトキハ之ヲ納完スルマテ登記ヲ爲ス可カラス若シ登記所ニ於テ費用ヲ負擔ス可キトキハ豫納金ノ金額ヲ還付ス可シ

○從前區役所戸長役場ニ於テ取扱タル地所建物賣買質入書入ニ關スル諸帳簿書類登記所
ニ引渡方 十九年十二月四日
內務省訓令第二十七號北海道廳府縣(沖繩縣ヲ除ク)

本年十二月 司法省令第四號ヲ以テ登記所ノ位置及管轄區域相定候ニ付テハ從前區役所戸長役場ニ於テ取扱タル地所賣買讓渡質入書入與書割印帳並ニ建物船舶賣買讓渡書入質割帳及右物件ニ關スル差押又ハ公證預預願ノ書類等悉皆取纏メ各業ノ合目ニ契印シ一帳簿毎ニ其紙數ヲ記シ之ニ官印ヲ捺シ別ニ引纏帳簿目錄ヲ調製シテ來ル明治二十年一月二十九日ヲ以テ管轄登記所ヘ引纏方取計フヘシ

○登記ニ關スル帳簿等ノ程式ヲ定ム 十九年十二月四日
司法省訓令第三十三號裁判所登記所
登記簿及ヒ登記簿附本其他登記ニ關スル帳簿等ノ程式別冊ノ通之ヲ定ム(別冊ハ別ニ頒ツ)(別冊略ス)

○登記料及手数料收納手續ヲ定ム 十九年十二月四日
司法省訓令第三十四號裁判所登記所
登記料及手数料收納手續左ノ通之ヲ定ム

登記料及手数料收納手續

第一條 登記料ハ第二部歳入科目ノ手数料ノ項中初行ヘ登記料及手数料ノ目ヲ設ケ整理スルモノトス

第二條 登記所ハ國庫金取扱所又ハ現金仕拂所ニ於テ登記料預リ證ニ押用スル印鑑ヲ徴シ置ク可シ

第三條 登記所ニ於テ登記料又ハ手数料ヲ上納セシムルニハ登記願人ヲシテ國庫金取扱所若クハ現金仕拂所ヘ現金ヲ預ケ入レ其預リ證ヲ以テ登記所ニ差出サシム可シ

第四條 登記所ニ於テハ前條預リ證ノ印ヲ檢シ收入簿ニ記入シタル上領收證ヲ登記願人ニ付與ス可シ但シ領收證及收入簿ハ左ノ雛形ニ準據スヘシ

第五條 治安裁判所ノ登記官ハ本年例令第三號歳入歳出納規則第二十七條ニ據リ納付書ニ預リ證ヲ添ヘ更ニ國庫金取扱所若クハ現金仕拂所ヘ納付シ其領收ヲ證シタル納付書ハ送付書ヲ以テ會計主務官ヘ送付報告ス會計主務官ハ大藏省令第四號歳入取扱順序第二十三條ニ依リ整理スルモノトス

第六條 郡役所戸長役場ニアル登記所ニ於テハ第五條ノ手續ニ依リ國庫金取扱所又ハ現金仕拂所ニ納付シ其領收ヲ證シタル納付書ハ一箇月毎ニ取纏メ翌月五日以内ニ其管轄始審裁判所ニ送納ス可シ

第七條 國庫金取扱所又ハ現金仕拂所ナキ地方ノ登記所ニ於テハ現金ヲ以テ收入シ十日毎ニ(金額五拾圓ニ充ツ)取纏メ納付書ヲ添ヘ便宜ノ國庫金取扱所又ハ現金仕拂所ヘ納付シタル上二條ノ手續ヲ爲ス可シ

第八條 始審裁判所ニ於テ郡區役所戸長役場ニアル登記所ヨリ送納ヲ受ケタルトキハ會計主務官ニ於テ登記件數表ト照合帳記ノ上大藏省令第四號歳入取扱順序第二十三條ニ據リ整理スルモノトス

明治何年何月

登記料及手数料收入簿

明治十九年十二月四日

司法省訓令第三十四號附屬雛形

某 登 記 所

● 伺指令

● 登記法ト證券印税ト矛盾セサル件ニ付鹿兒島縣ヨリ大藏省ヘ伺 (二十年一月十九日 (同二月七日官報))

登記法ト證券印税トハ矛盾セサル儀ト心得ヘキヤ
指令 二十年二月一日
申出ノ通

● 登記法關係稅務取扱方ノ件ニ付岡山縣ヨリ大藏省ヘ伺 (二十年二月五日(同二月二十二日官報))
本年二月以降登記法實施ニ付テハ船舶賣買讓與等ハ總テ登記簿ノモノニ非サレハ鑑札下付書換ヲ爲サ、ル儀ト相心得然ルヘキヤ
指令 二十年二月十七日

伺ノ趣登記ノ濟否ニ拘ハラズ直チニ鑑札書換下付可致儀ト可相心得申

● 不動産賣買讓與ノ際年期買戻シ等ノ契約アル者等登記處分ノ件ニ付福岡縣ヨリ内務
大藏司法三省ヘ伺 (二十年六月二十一日(同十月十九日官報))

地所船舶賣買讓與ニ際シ附帶ノ契約即チ年期買戻等ノ契約アリテ登記簿ニ登記シアルモノハ該物件ニ對シ公賣處分
ヲナストキ關係人ヘ通告スヘキ筋ト被相考候得共右ハ明治十年第七十九號布告第一條但書及十六年大政官第十六號
達ノ範圍外ニシテ他ニ成文無之ニ付若シ其通知ヲ怠リ處分ヲ決行セシ後關係人ヨリ不納金辨納ノ義申出ツルト雖公
賣處分ヲ取消スヘキ者ニ無之義ト相心得可然乎
指令 二十年十月七日

伺之通

但附帶ノ契約アルモノハ公賣ノ際公告ニ明記スヘシ

第十六類 訴訟

第七十八 代理人規則

○ 代理人出願試驗執行ノ月ヲ定ム (二十年十一月十四日 司法省告示第一號)
代官出願人試驗ノ儀ハ自今出願ノ都度之ヲ爲サス毎年四月ヲ以テ執行ス

初編符號第百六十八及第二編符號第九十三見合

第七十九 登記法及公證人規則ニ對スル抗告手續ヲ定ム

十九年十一月九日 司法省令甲第三號

今般法律第一號第二號ヲ以テ登記法及ヒ公證人規則制定相成候ニ付其抗告手續左ノ通之ヲ定ム

第二編符號第九十二及第九十三見合

抗告手續

第一條 登記官吏又ハ公證人ノ職務執行ニ關シ抗告ヲ爲ス者ハ抗告狀ヲ其登記官吏又ハ公證人ニ差出ス可シ

第二條 登記官吏又ハ公證人抗告狀ヲ受取リタルトキハ其翌日ヨリ三日以内ニ意見ヲ附シ且ツ關係書類ノ寫ヲ添ヘ抗告狀ヲ管轄始審裁判所ニ送致ス可シ

第三條 登記官吏又ハ公證人若シ前條ノ期限内ニ抗告狀ヲ管轄始審裁判所ニ送致セサルトキ又ハ急速ヲ要スル場合ニ於テハ抗告者ハ直チニ管轄始審裁判所ニ抗告狀ヲ差出スコト

第十六類 訴訟

ヲ得

始審裁判所ハ抗告ヲ受ケタル登記官吏又ハ公證人ヲシテ意見書ヲ差出サシメ及ヒ關係書類ヲ求ムルコトヲ得

第四條 登記官吏又ハ公證人ハ其職務執行上ニ關シ抗告ヲ受ケタルトキハ其處分ヲ停止ス可シ

第五條 抗告狀ヲ受取タル管轄始審裁判所ハ書面ニ依リ判定ヲ爲ス可シ
始審裁判所ハ必要ナリト認ムル場合ニ於テハ抗告者其他關係人ニ書面ヲ以テ答辯セシムルコトヲ得

第六條 始審裁判所ハ抗告ノ判定書ヲ管轄治安裁判所ニ送致シ之ヲ登記官吏又ハ公證人及ヒ抗告者ニ送附セシム可シ

始審裁判所ニ於テ抗告ヲ正當ナリト判定シタルトキハ登記官吏又ハ公證人ハ其判定ニ依リ處分ヲ更正ス可シ

第七條 公證人懲罰處分ニ對シ不服アル者ハ其處分ノ翌日ヨリ起算シ七日内ニ其處分ヲ爲シタル管轄始審裁判所ニ抗告狀ヲ差出ス可シ

裁判所ハ其抗告ヲ正當ナリト認ムルトキハ速ニ其不服ノ點ヲ更正ス可シ若シ之ヲ正當ナラスト認ムルトキハ第二條ノ期限内ニ意見ヲ附シ關係書類ヲ添ヘ抗告狀ヲ管轄控訴院ニ送致ス可シ

第八條 公證人懲罰處分ニ對スル抗告ニ付テモ亦第二條ノ手續ニ依ルコトヲ得

第九條 公證人懲罰處分ニ對スル抗告狀ヲ受取タル控訴院ハ第五條ノ手續ニ從ヒ判定ヲ爲ス可シ

第十條 控訴院ハ其判定書ヲ處分ヲ爲シタル始審裁判所ニ送致シ之ヲ言渡サシム可シ
控訴院ニ於テ抗告ヲ正當ナリト判定シタルトキハ處分ヲ爲シタル始審裁判所ハ其判定ニ依リ處分ヲ更正ス可シ

第十一條 抗告ノ判定ニ對シテハ總テ上訴ヲ爲スヲ得サルモノトス

第八十 出訴期限

● 伺指令

● 印紙代金未納者出訴期限ノ件ニ付和歌山縣ヨリ大藏省ヘ伺 十九年十月二十二日
十五年第二十七號布達印紙類賣捌手續第四條ノ期限ヲ過キ印紙代金納出テサル者ハ十六年三月租甲第六十號伺ニ對シ
同年四月十日 第二千五百十號御指令ニ基キ處理スヘキノ處右裁判所ニ申告スルハ十六年十一月第三百六十二號布告出訴
期限ニ關セサル儀ト相心得然ルヘキヤ
指令 十九年十一月二十九日
伺之通

第八十一 身代限規則

○裁判所ニ於テ身代限又ハ抵當物公賣處分ヲ爲ス時及其處分ヲ取消ス時登記所ニ通知セシム
二十年三月十四日 司法省訓令第十二號裁判所
裁判所ニ於テ身代限又ハ抵當物公賣ノ處分ヲ爲ス時ハ其地所建物船舶所在地ノ登記所ニ其旨ヲ通知ス可シ其處分ヲ取消ス時亦同シ

○裁判所ニ於テ身代限處分又ハ抵當物公賣處分ノ未落札セシトキ登記所ニ通知方
二十年三月十四日 司法省訓令第二十三號裁判所
裁判所ニ於テ身代限處分又ハ抵當物公賣ノ處分ヲ爲シ及ヒ其處分ヲ取消ス時ハ其地所建物船舶所在地ノ登記所ニ其旨ヲ通知ス可キ儀ニ付本年三月十四日附ヲ以テ訓令ニ及タル處右處分ノ未裁判所ニ於テ落札ヲ達タル時モ亦其旨及落札人ノ氏名ヲ該登記所ニ通知ス可シ

司法省訓令第二十三號裁判所
裁判所ニ於テ身代限處分又ハ抵當物公賣ノ處分ヲ爲シ及ヒ其處分ヲ取消ス時ハ其地所建物船舶所在地ノ登記所ニ其旨ヲ通知ス可キ儀ニ付本年三月十四日附ヲ以テ訓令ニ及タル處右處分ノ未裁判所ニ於テ落札ヲ達タル時モ亦其旨及落札人ノ氏名ヲ該登記所ニ通知ス可シ

第十七類 刑法

第十八類 治罪法

第八十二 逃亡犯罪人引渡條例ヲ定ム
二十年八月十日布告 勅令第四十二號

朕逃亡犯罪人引渡條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十年八月三日

内閣總理大臣伯爵伊藤博文
外務大臣伯爵井上 馨
司法大臣伯爵山田顯義

勅令第四十二號(官報八月十日)

逃亡犯罪人引渡條例

第一條 本條例ニ於テ締約國ト稱スルハ既ニ帝國ト犯罪人引渡條例ヲ締結シ若クハ今後締結スル外國ヲ謂フ

引渡犯罪ト稱スルハ外國ト締結シタル犯罪人引渡條例ニ掲クル犯罪ヲ謂フ

逃亡犯罪人ト稱スルハ締約國ノ管轄内ニ於テ犯シタル引渡犯罪ニ付告訴告發ヲ受ケ若クハ有罪ノ宣告ヲ受ケタル帝國臣民外ノ人ニシテ帝國ノ管轄内ニ逃避シタル者又ハ逃避シタルノ嫌疑若クハ逃避セントスルノ嫌疑アル者ヲ謂フ但左ノ場合ニ於テハ帝國臣民ヲ包含ス

一 帝國ト請求國トノ犯罪人引渡條約ニ交互其臣民ノ引渡ヲ爲スヘキ條款アルトキ

二 犯罪人引渡條約ニ交互ノ任意ヲ以テ其臣民ノ引渡請求ニ應スルコトアルヘキ旨ノ條款アリ且請求國ニ於テ同様ノ場合ニハ自國ノ臣民ヲ引渡スヘキ旨ヲ申出テタルトキ

第二條 締約國ヨリ逃亡犯罪人ノ引渡請求アリ之カ引渡ノ目的ヲ以テ其手續ヲ爲ストキハ本條例ニ定ムル所ノ條款ニ據ルヘキモノトス

第三條 左ノ場合ニ於テハ逃亡犯罪人ヲ引渡スコトヲ得ス

- 一 引渡ノ請求ニ係ル者ノ所犯政事上ノ犯罪ナルトキ
- 二 引渡ノ請求ハ實際政事上ノ犯罪ニ付審問シ若クハ處刑セントスルノ目的ニ出テタル旨ヲ本人ニ於テ證明シタルトキ

第四條 逃亡犯罪人其引渡請求ニ係ル犯罪外ノ事件ニ付帝國內ニ於テ告訴告發ヲ受ケ又ハ處刑中ナルトキハ無罪又ハ刑期滿限若クハ其他ノ事由ニ因リ釋放セラレタル後ニアラサレハ之ヲ引渡スコトヲ得ス

第五條 帝國ト外國ト犯罪人引渡條約ヲ締結シタルトキハ逃亡犯罪人ノ犯時其締約以前ニ係ルト雖モ該締約國ノ請求ニ應シ其引渡ヲ爲スコトアルヘシ

第六條 引渡犯罪ニ付帝國裁判所ニ於テ締約國裁判所ト均シク裁判權ヲ有スト雖モ若シ司法大臣ノ意見ニ於テ其審判ヲ便ナラシメンカ爲メ逃亡犯罪人ノ引渡ヲ可トスルトキハ之ヲ引渡スコトアルヘシ

第七條 本條例ニ據リ發シタル總テノ逮捕狀ハ帝國內何レノ地ニ於テモ効力アルモノトス

第八條 一逃亡犯罪人ヲ二國以上ノ締約國ヨリ各其國ニ於テ犯シタル罪ノ爲メ引渡請求ヲ爲シタルトキハ最初請求ヲ爲シタル國ニ之ヲ引渡スヘシ但其請求ヲ爲シタル締約國間ニ特別ノ約束若クハ協議アル場合ハ此限ニ在ラス

第九條 司法大臣ハ外務大臣ノ請求ニ依リ一名若クハ二名以上ノ上席檢事ニ命シ逃亡犯罪

人ヲ假ニ逮捕スル爲メ附錄第一號書式ニ依リ假逮捕狀ヲ發セシムルコトヲ得

外務大臣ハ締約國ヨリ相當ノ順序ヲ經由シ書面又ハ電信ヲ以テ逃亡犯罪人ヲ逮捕スル爲メ既ニ逮捕狀ヲ發シタルコトノ通知ト其引渡ハ正式ニ依リ請求スヘキ旨ノ保證トニ接シタル後ニ限リ本條ノ請求ヲ爲スヘシ

第十條 假逮捕狀ニ據リ逃亡犯罪人ヲ逮捕シタル場合ニ於テ二月ヲ過キサル相當ノ期限内ニ其引渡ノ請求ナキトキハ之ヲ釋放スヘシ但此場合ニ於テ逮捕シタル者ヲ釋放スルモ再ヒ之ヲ逮捕シ及引渡スコトヲ妨ケサルモノトス

假逮捕狀ニ據リ逮捕シタル者ノ引渡請求アリタルトキハ更ニ附錄第二號書式ノ逮捕狀ヲ發シ假逮捕狀ト交換スヘシ

第十一條 第九條ニ定メタル例外ノ場合ヲ除クノ外ハ引渡請求ヲ爲シタル國トノ條約ニ定メタル相當ノ順序ヲ經由シ左ノ書類ヲ添ヘ引渡ノ請求アリタル後ニアラサレハ何人ヲモ引渡ノ目的ヲ以テ逮捕スルコトヲ得ス

- 一 告訴告發ヲ受ケタル者ノ場合ニ於テハ其所犯ニ付訴アリタル國ノ相當官吏ニ於テ發シタルト認メ得ヘキ逮捕狀ノ公寫及該逮捕狀ヲ發スルノ根據ト爲リタル口供書若クハ陳述書ノ公寫
- 二 有罪ノ宣告ヲ受ケタル者ノ場合ニ於テハ其宣告ヲ爲シタル裁判所ノ證印アル宣告書ノ寫

第十二條 外務大臣引渡請求書ニ接シ犯罪人引渡條約ノ條款ニ適合シタリト思量スルトキハ該請求書ニ其關係書類ヲ添ヘ之ヲ司法大臣ニ送付スヘシ

司法大臣本條ノ請求ニ接シ妥當ノ事由アル請求ト思量スルトキハ逃亡犯罪人ノ所在又ハ其到着スヘシト認ムル地ノ上席檢事ニ命シ逮捕狀ヲ發セシムヘシ

第十三條 上席檢事前條ニ掲ケタル司法大臣ノ命令ニ接シタルトキハ附録第二號書式ニ依リ逮捕狀ヲ發スヘシ

第十四條 請求ニ係ル逃亡犯罪人ヲ逮捕シ若クハ假逮捕シタルトキハ其逮捕狀ヲ發シタル上席檢事又ハ之ヲ逮捕シタル地ノ上席檢事ニ引渡スヘシ

上席檢事ハ逃亡犯罪人逮捕ノ顛末ヲ直ニ司法大臣ニ具申スヘシ

司法大臣上席檢事ノ具申ニ接シタルトキ引渡請求書アレハ其寫及附屬書類ヲ速ニ該檢事ニ送付スヘシ但被告人ヲ釋放スヘキノ命令ヲ發スルトキハ此手續ヲ爲スニ及ハス

第十五條 告訴發ヲ受ケタル者ノ場合ニ於テハ上席檢事ハ速ニ之ヲ訊問シ其人違ナキコト及引渡請求書ニ附屬セル書類ノ確實公正ナルコトヲ認定スヘシ但上席檢事該書類ノミニテハ證據不充分ナリト認ムルトキハ仍ホ被告人ノ犯罪ニ對スル證據ヲ取ルコトヲ得

有罪ノ宣告ヲ受ケタル者ノ場合ニ於テハ上席檢事ハ速ニ之ヲ訊問シ其人違ナキコト及其引渡ヲ請求シタル締約國ノ相當裁判所ニ於テ宣告ヲ爲シタルノ確實ナルコトヲ認定スヘシ

第十六條 上席檢事被告人ノ訊問ヲ結了シタルトキハ訊問書ニ其處分方ニ關スル意見書ヲ添ヘ之ヲ司法大臣ニ具申スヘシ但上席檢事ハ之ト共ニ引渡請求書寫及附屬書類ヲ返却スヘシ

司法大臣該檢事ノ具申ニ接シタルトキハ附録第三號書式ニ依リ引渡狀ヲ發スルカ又ハ逮捕シタル者ヲ釋放スヘシ

第十七條 逃亡犯罪人ハ逮捕狀ニ據リ逮捕セラレタル後二月以上留置セラレハコトナカルヘシ

第十八條 司法大臣ハ左ノ場合ニ限り引渡狀ヲ發スルコトヲ得

- 一 引渡犯罪ニ付告訴發ヲ受ケタル者ノ場合ニ於テハ若シ其告訴發ヲ受ケタル罪ヲ帝國内ニ於テ犯シタルモノトセハ帝國ノ法律ニ據リ被告人ヲ審判ニ付スルニ充分ナル犯罪ノ證據アリト認メタルトキ
- 二 有罪ノ宣告ヲ受ケタル者ノ場合ニ於テハ相當裁判所ニ於テ其宣告ヲ爲シタルコトヲ認メタルトキ

第十九條 闕席裁判ニ由リ有罪ノ宣告ヲ受ケタル者ハ其引渡ヲ請求シタル締約國トノ間ニ特別ノ約款アルニ非サレハ本條例ニ於テハ之ヲ告訴發ヲ受ケタル者ト爲シ有罪ノ宣告ヲ受ケタル者ト認メス

第二十條 逮捕シタル者ヲ釋放シ又ハ其引渡ノ爲メ引渡狀ヲ發シタルトキハ司法大臣ハ引

渡請求書及附屬書類ニ其執行シタル手續及其理由ノ略記ヲ添ヘ之ヲ外務大臣ニ返付スヘシ

第二十一條 引渡狀ヲ發シタル後何人ヲモ一月以上留置スルコトヲ得ス但此期限内ニ之ヲ帝國外ニ引取ラサルトキハ請求國相當官吏ニ於テ正當ノ事由ヲ示スニアラサレハ釋放スヘシ

第二十二條 逃亡犯罪人ヲ引渡ストキハ其逮捕ノ際差押ヘタル本人ノ携帶品ハ正當ノ理由アルニアラサレハ其引渡ノ節本人ト共ニ悉ク之ヲ交付スヘシ

第二十三條 司法大臣ハ外務大臣ノ請求ニ依リ一外國ヨリ他ノ外國ニ引渡シタル者ノ帝國内海陸ノ通行ヲ認可スルコトヲ得

本條ノ請求ハ引渡ヲ受クヘキ國ノ政府ヨリ引渡狀ノ公寫ヲ添ヘ相當ノ順序ヲ經由シタル照會書ヲ外務大臣ニ於テ受領シタルトキニ限ル但帝國ト請求國トノ間ニ特別ノ約款ナキトキハ該照會書ノ外仍ホ請求國ノ政府ニ於テ之ト同一ノ場合即チ第三國ヨリ帝國ニ逃亡犯罪人ヲ引渡シタル場合ニ該請求國內海陸ノ通行ヲ均シク認可スヘキノ保證ヲ爲シタルトキニ限ル

附錄

假逮捕狀
逮捕セラルヘキ者ノ氏名
年齢本質住所

逮捕ヲ受タル者ノ署名若シ之ヲ得ル能ハサルトキハ其理由ヲ記スヘシ

第一號書式

司法大臣ノ命令ヲ受ケ逃亡犯罪人引渡條例ニ據リ此假逮捕狀ヲ發シ右ニ掲タル、、、ニ於テ、、、ノ犯罪ニ付(告訴發)有罪ノ宣告ヲ受タル、、、國ノ逃亡犯罪人、、、ヲ法律ニ遵ヒ處分スル爲メ逮捕スヘキコトヲ命スルモノ也

檢事局
明治 年 月 日
印

上席檢事署名捺印
裁判所書記署名捺印

執 行 年 月 日 時	執 行 所	執 行 手 續	家 宅 ヲ 搜 索 シ タル キ ハ 其 事 實 ヲ 記 ス ヘ シ	右ノ通執行候也 明治 年 月 日 巡查又ハ憲兵署名捺印
----------------------------	-------------	------------------	--	-----------------------------------

割印

(此狀ヲ送達シ一葉ヲ受取人ニ渡スヘシ)

(英譯文ヲ此狀ノ裏面ニ記スヘシ)

假逮捕狀
逮捕セラルヘキ者ノ氏名
年齢本質住所
司法大臣ノ命令ヲ受ケ逃亡犯罪人引渡條例ニ據リ此假逮捕狀ヲ發シ右ニ掲タル、、、ニ於テ

逮捕ヲ受タル者ノ署名若シ之ヲ得ル能ハサルトキハ其理由ヲ記スヘシ
執 行 年 月 日 時

第十八類 治罪法

式書號二第

逮捕狀 逮捕セラルヘキ者ノ氏名 年齢本質住所 司法大臣ノ命令ヲ受ケ逃亡犯罪人引渡條例ニ據 リ此逮捕狀ヲ發シ右ニ掲タル、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 國ノ逃亡犯罪人、 、 、 、 、 、 、 爲メ逮捕スヘキコトヲ命スルモノ也		明治 年 月 日 印 上席檢事署名捺印 裁判所書記署名捺印		執 行 所 場 所 執 行 所 手 續 右ノ通執行候也 明治 年 月 日 巡查又ハ憲兵署名捺印	
逮捕ヲ受タル者ノ署 名若シ之ヲ得ル能ハ サルトキハ其理由ヲ 記スヘシ		家宅ヲ搜索シタルト シキハ其事實ヲ記スヘシ		手 續 執 行 所 場 所 執 行 所 手 續 右ノ通執行候也 明治 年 月 日 巡查又ハ憲兵署名捺印	



(此狀ヲ送達シ一葉ヲ受取人ニ渡スヘシ)

(英譯文ヲ此狀ノ裏面ニ記スヘシ)

逮捕狀 逮捕セラルヘキ者ノ氏名 年齢本質住所 司法大臣ノ命令ヲ受ケ逃亡犯罪人引渡條例ニ據 リ此逮捕狀ヲ發シ右ニ掲タル、 、 、 、 、 、 、 、 、 國ノ逃亡犯罪人、 、 、 、 、 、 、 爲メ逮捕スヘキコトヲ命スルモノ也		明治 年 月 日 印 上席檢事署名捺印 裁判所書記署名捺印		執 行 所 場 所 執 行 所 手 續 右ノ通執行候也 明治 年 月 日 巡查又ハ憲兵署名捺印	
逮捕ヲ受タル者ノ署 名若シ之ヲ得ル能ハ サルトキハ其理由ヲ 記スヘシ		家宅ヲ搜索シタルト シキハ其事實ヲ記スヘシ		手 續 執 行 所 場 所 執 行 所 手 續 右ノ通執行候也 明治 年 月 日 巡查又ハ憲兵署名捺印	

ノ 印

裁判所書記署名捺印

右ノ通執行候也
明治年月日

巡查又ハ憲兵署名捺印

式書號三第

引渡狀 引渡サルヘキ者ノ氏名 年齢本實在所				
逃亡犯罪人引渡條例ニ據リ此引渡狀ヲ發シ明治 、、年、、月、、日附ノ(逮捕狀)ニ據リ、 國ニ於テ、、ノ犯罪ニ付(告訴)ヲ受タ ル逃亡犯罪人トシテ明治、、年、、月、、日逮 捕シタル右、、ヲ受取コトヲ相當ニ命セラレタ ル、、ニ之ヲ引渡スヘキコトヲ命ス因テ該受取 人、、ニ於テ右、、ヲ監禁シ、、國ノ管轄内ニ 送致シ相當官吏ニ交付スルコトヲ命スルモノ也				
明治年月日	司法大臣、、、	印	右ノ通執行候也	明治年月日
執行シタル	受取人ノ	署名	右ノ通執行候也	引渡サルヘキ者ヲ留置シタル監獄ノ典獄ノ署名捺印

割 印

(此狀ヲ送達シ一葉ヲ受取人ニ渡スヘシ)

(英譯文ヲ此狀ノ裏面ニ記スヘシ)

引渡狀 引渡サルヘキ者ノ氏名 年齢本實在所				
逃亡犯罪人引渡條例ニ據リ此引渡狀ヲ發シ明治 、、年、、月、、日附ノ(逮捕狀)ニ據リ、 國ニ於テ、、ノ犯罪ニ付(告訴)ヲ受タ ル逃亡犯罪人トシテ明治、、年、、月、、日逮 捕シタル右、、ヲ受取コトヲ相當ニ命セラレタ ル、、ニ之ヲ引渡スヘキコトヲ命ス因テ該受取 人、、ニ於テ右、、ヲ監禁シ、、國ノ管轄内ニ 送致シ相當官吏ニ交付スルコトヲ命スルモノ也				
明治年月日	司法大臣、、、	印	右ノ通執行候也	明治年月日
執行シタル	受取人ノ	署名	右ノ通執行候也	引渡サルヘキ者ヲ留置シタル監獄ノ典獄ノ署名捺印

○獸醫及獸類傳染病豫防規則犯罪者處斷ノ節農商務省へ通知セシム
二十年二月二十三日
司法省訓令第十號裁判所

十八年八月第二十八號布告及十九年九月第十一號農商務省令ニ依リ今般農商務省ヨリ照會ノ趣モ有之候ニ付テハ自今
獸醫免許規則第十四條並獸類傳染病豫防規則第十九條ノ犯罪其他刑法ニ正條アル獸醫ノ犯罪處斷候節ハ其都度裁判
宣言文牒本相添へ農商務省へ通知スヘシ

● 伺指令

● 陸軍軍人軍屬違警罪即決處分方ニ付岐阜縣ヨリ内務省へ伺 十九年十二月六日 (二十年一月十一日官報)

本年五月勅令第四十四號ヲ以テ發布相成タル陸軍軍人軍屬違警罪即決處分ハ警察署ニ於テアリテ分署ノ文字無之
然レモ其第一條ニ違警罪即決例ニ依リ云々トアルヲ以テ觀レハ即チ明治十八年布告第三十一號ノ規則ニ依ルヲ明ニ
シテ憲兵部アラサル場所ハ其地ノ警察官即警察署分署ニ於テ處分スルコトヲ得ル儀ト考最候得共成文上警察署ニ限
ルモノ、如ク相見へ聊疑團ニ此候條至急何分ノ御指令相成度

指令 十九年一月十日
書面伺之通

第十九類 罰則

第二十類 雜

第八十三 内務省報告例

○十二年内務省乙第三十號社寺官有地境内木竹伐採員數表及十九年省令第十七號内務報
告例中ヲ取消ス 二十年一月二十七日
内務省訓令第四號北海道廳府縣

明治十二年(六月)内務省乙第三十三號達中社寺官有地境内木竹伐採員數表及同十九年(九月)内務省令第十七號内務報
告例中年報第六十六項ノ事項ハ自今報告ニ及ハス

○内務報告例目中追加 二十年一月二十七日
自今新ニ發スル所ノ省令訓令中ニ於テ期限ヲ定メ報告ヲ要スル旨ヲ記載シタルトキハ 其報告ノ種類ニ依リ同時内務報
告例目中ニ追加シタル儀ト心得ヘシ

○官國幣社ヨリ稟申報告ヲ廢シ地方廳ニ受理報告ノ件々ヲ示ス 二十年三月二十五日
縣(沖繩縣ヲ除ク) 内務省訓令第十九號 北海道廳府

官國幣社ヨリ當省へノ稟申及報告之儀本年三月限り相廢ス同年四月以降ハ渾テ其地方廳ニ於テ受理シ左ノ件々ハ當省
へ報告スヘシ

即報

國幣社例祭異動

風火災

盜難

官司死去

官司除服

半年報

保存金受拂精算

社入金受拂精算

非常豫備金並蓄積金異動

○内務報告例中半年報第八第九第十三項差出ニ及ハス 二十年五月二十八日
内務省訓令第三十三號 北海道廳府縣(沖繩縣)

(自四月至九月) (四月二十日發送)
自十月至三月 同

ヲ除ク

明治十九年九月内務省令第十七號内務報告例中半年報第八項第九項第十三項ハ自今報告ニ及ハス

第八十四 氣象臺測候所條例ヲ公布ス 二十年八月八日布告 勅令第四十一號

朕氣象臺測候所條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十年八月三日

内閣總理大臣伯爵伊藤博文
内務大臣伯爵山縣有朋

勅令第四十一號

氣象臺測候所條例

- 第一條 東京ニ中央氣象臺ヲ置キ地方便宜ノ場所ニ地方測候所ヲ置ク其位置ハ内務大臣之ヲ指定ス
- 第二條 前條ノ外測候所ヲ設置セントスル者アルトキハ内務大臣ノ許可ヲ受ク可シ
- 第三條 中央氣象臺ハ内務大臣之ヲ直轄シ地方測候所ハ地方長官之ヲ管理シ内務大臣之ヲ監督ス其他ノ測候所ハ地方長官之ヲ監督ス
- 第四條 地方測候所ノ費用ハ該測候所所在地ノ地方稅ヲ以テ支辨ス可シ
- 第五條 中央氣象臺及各測候所ハ事業上互ニ氣脈ヲ通シ通信ヲ爲ス可シ

二十年十月十一日
内務省令
第四號
以テ
氣象臺測候所
位置ヲ定ム

第六條 本條例施行ニ關スル細則ハ内務大臣之ヲ定ム

○氣象臺測候所條例施行細則ヲ定ム 二十年八月十日 内務省令第一號

氣象臺測候所條例施行細則左ノ通相定ム

氣象臺測候所條例施行細則

- 第一條 中央氣象臺ハ各地ノ氣象觀測報告ヲ聚閱公布シ及其器械ヲ檢閲シ港津及全國ニ天氣豫報ヲナシ且氣中ノ現象ヲ調査スル所トナス
- 第二條 測候所ハ分テ一等二等三等トナス
 - 一等測候所ハ所在地ノ氣壓氣溫日溫地溫濕度風雲雨雪蒸發等ヲ觀測スル所トス其觀測ハ各種ノ自記器械ヲ備ルニアラサレハ必毎時ノ觀測ヲ行フモノトス
 - 二等測候所ハ所在地ノ普通氣象即チ氣壓溫度濕度風雲雨雪等ヲ一日七回ノ觀測ヲナス所トス
 - 三等測候所ハ所在地ノ普通氣象中一若クハ二三ノ主ナルモノヲ一日一回以上ノ觀測ヲナス所トス
- 第三條 溫度ハ攝氏ノ度ヲ用ヒ尺度ハ「メートル」ヲ用フ可シ但所用器械ノ度目異ナルモノト雖モ報告書ニ記載スル所ハ必ス本條ノ度目ニ更正シタルモノタル可シ
- 第四條 時刻ハ標準時ヲ用フ可シ但明治二十年十二月三十一日マテハ京都時ヲ用フ可シ
- 第五條 觀測ハ分テ定時臨時ノ二類トナス其時刻ハ左ノ如シ

定時觀測

一等測候所 自記器械ヲ備ヘサルモノハ每一時合二十四回自記器械ヲ備フルモノハ
 午前二時六時十時午後二時六時九時十時合七回
 二等測候所 午前二時六時十時午後二時六時九時十時合七回
 三等測候所 器械ノ種類及多少ニ依リ一定セスト雖モ毎日午前十時一回若クハ午前
 十時午後十時合二回若クハ午前六時或ハ十時午後二時十時合三回
 臨時觀測

中央氣象臺ヨリ暴風警報ヲ受タル時及暴風雨急襲地震續起等ノ際ニ於テハ每十分
 時每半時每一時各一回

第六條 報告ハ分テ定期臨時ノ二類トナス其種類及期限ハ左ノ如シ
 中央氣象臺

定期報

每日三回

天氣豫報及天氣圖 午前八時午後四時及十一時内外

每月一回

氣候概況 翌月二日以内

氣象月報 翌月二十日以内

地震月報 同上

磁氣月報 同上

電氣月報 同上

每年一回

氣象概況 翌年一月三十一日以内

氣象略報 翌年三月十五日以内

氣象年報 翌年三月三十一日以内

地震年報 同上

磁氣年報 同上

電氣年報 同上

一週年事務報告 翌年一月三十一日以内

臨時報

暴風警報 暴風襲來ノ虞アルコトヲ認メタル時

暴風雨概況 暴風ノ終リタル時ヨリ二十四時間以内

暴風雨報告 暴風ノ終リタル日ヨリ三十日以内

雜報 不定

測候所

定期報

每五日一回

氣象半旬報 二十四時間以内

每月一回

氣象月報 翌月三日以内

萬國同時觀測月報 同上

每年一回

氣象年報 翌年一月三十一日以内

一週年事務報告 同上

但三等測候所ハ半旬報萬國同時觀測月報及一週年事務報告ヲ要セス

臨時報

暴風報告 暴風ノ終リタル時ヨリ二十四時間以内

地震報告 地震ノ終リタル時ヨリ二十四時間以内

動物報告 翌月五日以内

植物報告 同上

第七條 特ニ電信報告ヲ發スル測候所ハ前條ノ外中央氣象臺ニ對シ左ノ電報ヲナスモノトス

定期報

毎日三回

午前六時午後二時及九時觀測 觀測ヲ終リタルトキヨリ十分以内

臨時報

暴風ノ徵候 暴風襲來ノ虞アルコトヲ認メタルトキ

第八條 中央氣象臺ノ報告ハ或ハ官報ヲ用ヒ或ハ直ニ測候所ニ遞送ス測候所ノ報告ハ總テ中央氣象臺ニ遞送スル者トス

第九條 報告書式ハ中央氣象臺ニ於テ內務大臣ノ認可ヲ得テ定ル所ニ依ル

第十條 中央氣象臺ハ五年以内ニ一回技師ヲシテ各測候所ヲ巡閱セシム

第十一條 內務大臣ハ地方長官ニ令シテ各測候所長ヲ中央氣象臺ニ參集シ事務及ヒ技術上ノ會議ヲ開カシムルコトアル可シ但各測候所長ノ旅費及滞在日當ハ其測候所ノ費用ヲ以テ支辨スルモノトス

第十二條 條例第二條ニ依リ測候所ヲ設置セントスルトキハ左ノ諸件ヲ詳記シ地方長官ヲ經由シテ內務大臣ノ許可ヲ請フ可シ

第一 測候所ノ種類

第二 設立ノ位置及地勢地形及測候所ノ略圖ヲ添フ可シ

第三 創立費及維持費ノ額及其支出方法

一一八	三四三〇	十年八月 第五十六號布告	二十年三月 勅令第六號
一一八	三四三四	十七年二月 第四號布告	同上
一一八	三四三五	十七年五月 第十二號布告	同上
一一八	三四三五	十一年七月 開拓使第七號布達	同上
一一八	五四四一	十三年九月 第四十號布告第九條中	十九年十二月 勅令七十九號
一一二	〇六八三	十五年八月 第三十六號布告第六條中	十九年十二月 勅令第七十四號
一一二	二七一二	十六年十二月 第四十六號布告中諸條	十九年十二月 勅令第七十三號
一一二	二七二四	十七年七月 第十八號布達中諸條	二十年二月 勅令第三號
一一二	二七四五	十七年八月 陸達甲第三十六號達中	二十年三月 陸訓令甲第二號
一一二	二七五五	八年十一月 陸達第百十二號	十九年十月 陸令甲第三號
一一四	二四八一八	十六年七月 農第八號達第十一項第十四項	十九年十二月 農訓第二十號

○第二編之部

一四一	三一八六八	十八年四月 第七號布告第十七條	十九年四月 勅令第八號
一四一	三一八七三	十八年四月 第五號布達中諸條	二十年五月 農令第一號
一四一	三二八八〇	十七年六月 第十三號布達中諸條	二十年五月 農令二號
一四一	三八九九九	十七年十一月 農內第三十五號	二十年四月 遞訓第二號
一四一	五〇二二一	十八年五月 第七號布達中諸條	二十年六月 遞令第二號
二	四二五	十七年一月 第四號公達	二十年九月 勅令第四十七號
五	八八五	十九年六月 內訓第十七號	二十年四月 內訓第廿八號
八	六一三二	十八年二月 內告第五號	二十年六月 內告第二號
一一三	二一四七	十九年三月 閣令第三號中諸條	二十年二月 閣令第二號
一一三	二一五九	十九年三月 大令第四號中	二十年二月 大令第二號

第二編改廢表

一一三	二一七〇	十九年三月 大令第五號中		同上	
一一三	二一七〇	十九年三月 大令第五號第二章			二十年四月 大令第七號
一一三	四一八六	十八年十二月 第廿一號布達	二十年三月 勅令第六號		
一一四	九二一五	十九年七月 大訓第三十號第一第二第三條		二十年二月 大訓第十二號	
一一五	五二二三	十九年四月 大訓第五號第五條第二條中		二十年二月 大訓第十三號	
一二五	六二三七	十九年五月 閣令第十一號第廿五條		十九年十一月 閣令第廿九號	
一二六	二二九八	十七年六月 海七第七號第三條	二十年一月 海令第一號		
一二六	二二九八	十七年九月 海七第十五號			二十年一月 海令第三號
一三七	一三九三	十九年五月 交令第七號	二十年五月 交令第二號		
一四七	七四三一	十八年四月 農告第六號	二十年五月 農告第三號		
一四八	四四六八	十八年四月 農達第十一號	二十年二月 農訓第一號		

前編及二編改廢表終

一五九	二四八三	十九年八月 法律第一號第十第廿條		二十年七月 法律第一號	
二〇一〇	一五四二	十九年九月 內令第十七號中年報六十六			二十年一月 內訓第四號
二〇一〇	一五四二	同上			二十年五月 內訓第三十三號
二〇一〇	一五四二	同上			

○ 正誤

- 目次三丁終行 (十八)ハ(十七)
同八丁十六行 (七號)ノ下(ハ)ヲ脱ス
同二十丁十五行 (概行)ハ(概目)
本文五十六丁十四行 (裁所)ハ(裁判)
同六十七丁十三行 (貫籍)ハ(貫屬)及其割書(六月)ノ上ニ(二十年)ヲ脱ス
同八十一丁十行 (規限)ハ(期限)
同九十五丁十五行 (追)ハ(加)
同百六丁十四行 (スレ)ハ(スル)
同百十一丁終行 (二十)ノ下(四)ヲ脱ス
同百十八丁十三行 (税金)ハ(稅令)
同百二十丁初行及七行 全上
同百廿三丁十一行 (方)ハ(分)
同百廿五丁十七行 當省ノ下「ハ(二)ノ下ニ入ルヘキヲ誤ル
同百廿八丁二行 (郡)ノ下(區)ヲ脱ス
同百三十九丁八行齧頭 (八號ニ出ス)ハ(ハ)ノ誤
同百五十二丁二行割書 (九月)ノ下(十五日)ヲ脱ス

正誤

同百五十八丁初行 (輸)ノ下(入)ヲ脱ス
 同二百三十三丁十行 (戸長)ハ(戸主)
 同二百三十七丁十八行 (高)ノ下(田)ヲ脱ス
 同二百三十七丁終行 (原)ノ下(町)ハ衍
 同二百八十丁ノ野外第四行 (ヲ印)ハ(印ヲ)
 同三百二十丁初行割書 (以内)ノ下(ノ)(區長)ノ下(戸長)ハ衍
 同三百三十丁野外第三行 (九)ハ(五)
 同三百三十七丁終欄ノ右側 (宇都宮)ハ(栃木)
 同三百四十一丁兵庫縣ノ欄 丹波ノ下(水)ハ(氷)
 同三百四十四丁野外第十行 (八)ハ(ハ)
 同三百五十一丁二行 (リ)ノ下(翌)ハ衍
 同三百六十七丁二行 (百)ノ下(九)ヲ脱ス
 同四百五十九丁十行 (手)ノ下(續)ヲ脱ス
 初編中正誤追加
 千四丁五六八九行及千五丁六行中(西洋形)ノ下(商)ヲ脱シ千六丁初行割註ハ衍

明治廿年十一月廿四日版權免許
 明治二十一年三月廿五日印刷
 明治二十一年四月九日出版

定價金壹圓貳拾錢

著作者 東京府士族 市岡正一

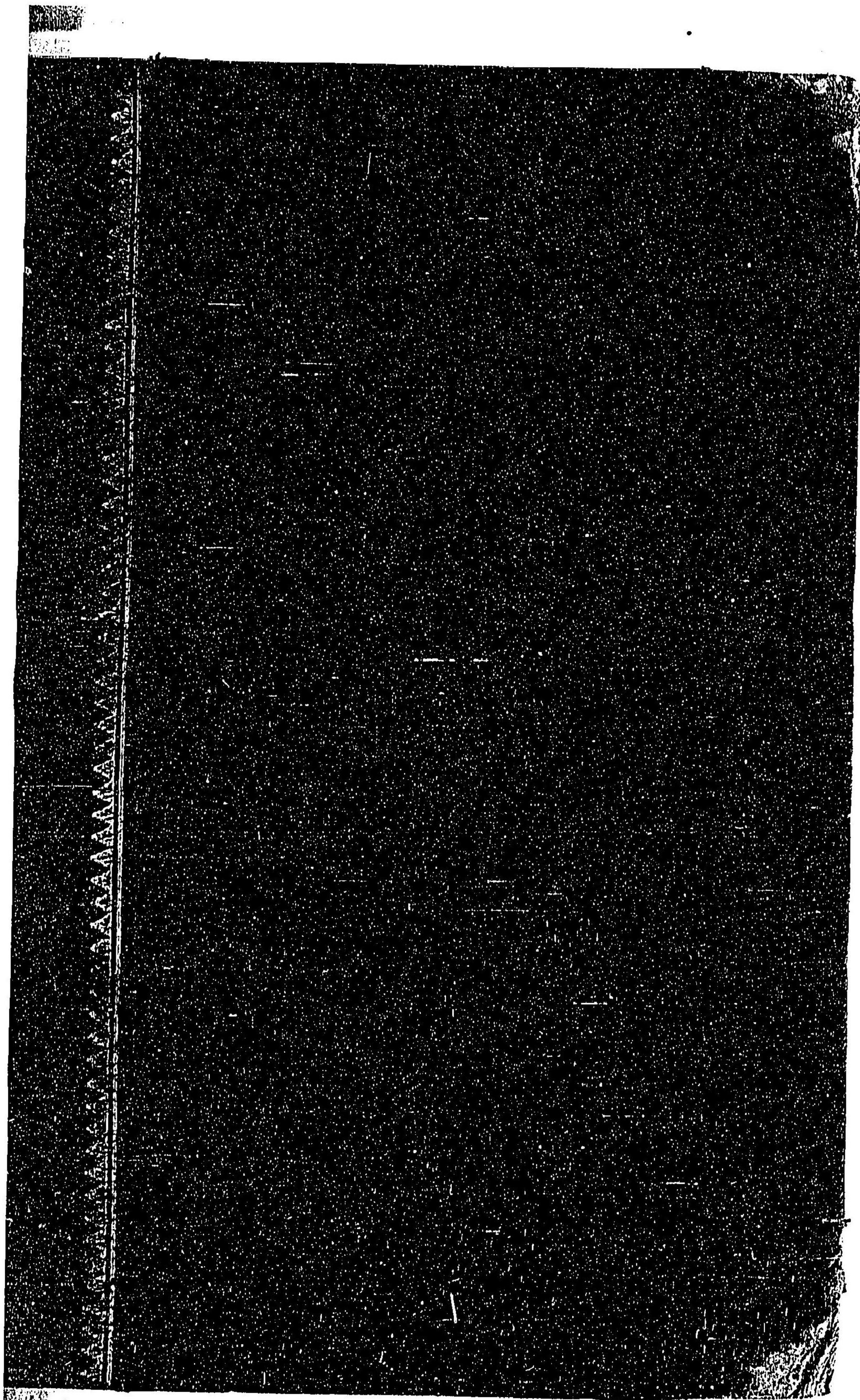
發行兼印刷者 兵庫縣士族 長尾景彌

發行所
 東京銀座座四丁目
 大阪備後町四丁目
 千葉縣下千葉
 埼玉縣下浦和驛
 福岡縣下博多中島町
 芝區三田壹丁目
 三十六番地寄留
 博聞本社
 全分社
 全分社
 全分社
 全分社



14

30



14.7

30

禁電子式複写

